

2023年度
病院年報



社会医療法人財団 白十字会

白十字病院



「社会医療法人財団白十字会 シンボルマーク」

hakujujikaiの頭文字のhを未来に羽ばたく羽のようにデザインし、市民の皆様や患者様を表す3つの丸を優しく見守っています。

羽の中心には、白十字を置き、私たち職員の職業精神の基本であり、誇りを表しています。

hは、heart（ハート・心）、hospitality（ホスピタリティ・親切なおもてなし）、human（ヒューマン・人間らしさ）、health（ヘルス・健康）を表し、健康に寄与する私たち白十字会職員の統一した意思を象徴しています。

「将来を見据える」

2020年度から3年間続いた“コロナ禍”は、2023年度になり収束に向かいました。新型コロナウイルス感染症は、2023年5月8日に感染症法分類の2類から5類となり、入院制限のない本来の診療ができるようになりました。

2023年度の医業実績は好調で手術数、救急車受け入れ件数、新規入院患者数などは過去最高となりました。8月にSCUが開設されて、脳卒中センター（PSCコア施設）は、益々と質の高い診療を展開できるようになりました。基幹型臨床研修病院としては、これまでの研修実績が認められ、一年次研修医の受け入れ定員が3名から4名となりました。

様々なタスクシフト・シェアが進んだことや、DXセンターにより、院内院外ネットワークが構築され、多職種協働が促進され、各職種の職能が発揮されることで業務の効率化、医療の質の向上が進みました。これらを通して2024年から始まる医師の労働時間規制対策にも繋げることができました。

10月には6回目となる病院機能評価を受審（3rdG：Ver. 3.0）し、職員が一体となって自部署の機能の見直しや改善を行いました。審査準備を通して、病院内のコミュニケーション、結束力が高まり病院総合力アップに繋がりました。

先行き不透明で将来の予測が困難なVUCA（Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity）時代の中で大変革が進む医療界。地域医療を守るために、また持続可能な医療を提供するために必要なことは何か？「将来を見据える力」そしてそれを実現するためには「どんな施策が必要か、今どうあるべきか」を考えていく。その中では柔軟に「変わる勇気」も求められることと思います。

今後も、白十字病院は地域医療支援病院として、盤石な多職種協働と地域医療連携の土台の上に“高度専門医療”、“救急医療”、“在宅療養後方支援”、“健康なまちづくり”を4本柱として、福岡市西部～糸島地域の連携医療機関の皆様と共に地域医療に貢献できるよう鋭意努力して参ります。

ここに2023年度（令和5年度）の白十字病院の様々な実績・業績を年報としてまとめました。白十字病院の成長がお分かり頂けることと思います。是非、ご一読ください。

2024年（令和6年）4月

社会医療法人財団 白十字会 白十字病院
病院長 瀧野 泰秀

目 次

はじめに	1
1. 病院概要	4
基本理念・基本方針	4
名称・開設者・管理者・所在地・病床数	4
標榜診療科	4
専門外来	4
センター	4
学会認定・教育施設	4
診療内容	5
専門診療施設	5
社会医療法人財団 白十字会 組織図	6
社会医療法人財団 白十字会 福岡地区 組織図	7
職種別人員数	8
2. 2023年度 白十字病院のあゆみ	9
3. 各種センター紹介	13
脳卒中センター	13
糖尿病センター	14
消化器内科・内視鏡センター	15
乳腺センター	16
透析センター	16
肝胆膵センター	17
心臓・弁膜症センター	18
4. 診療統計	20
2023年度 2週間以内サマリー作成率	20
2023年度 ICD10大分類別 入院患者数 年推移	21
年齢階級別退院患者数	22
診療情報提供（カルテ開示）件数	22
救急医療関連実績	23
救急車受入れ台数年次推移	24
2023年度 曜日別救急搬送件数	26
2023年度 性別・年齢別の救急搬送件数	27
2023年度 救急隊別搬送数と入院率	28
内科系診療実績	29
糖尿病内科	29
脳・血管内科	30

消化管内科	33
肝臓内科	34
腎臓内科	35
心臓血管内科	36
呼吸器内科	37
放射線科	38
病理診断科	39
外科系診療実績	41
外科	41
乳腺外科	43
整形外科	45
形成外科	45
脳神経外科	46
泌尿器科	50
眼科	51
麻酔科	52
歯科・歯科口腔外科	53
心臓血管外科	55
5. 看護部	65
看護部教育	67
看護部委員会	71
部署紹介	77
外来	77
透析センター	78
手術センター	79
ICU病棟	80
4階北病棟	81
4階南病棟	82
5階北病棟	83
5階南病棟	84
6階北病棟	85
6階南病棟	86
6. 感染制御部	88
7. 薬剤部	89
8. 放射線技術部	92
9. 臨床検査技術部	94
10. 臨床工学部	98

11. 眼科技術部	104
12. リハビリテーション部	106
13. 栄養管理部	111
14. 事務部門	113
入院動態患者数（退院を含む）	113
入院静態患者数	113
1日平均外来患者数	113
診療報酬に対する査定率	114
入院患者診療単価	114
外来患者診療単価	114
2023年度 主要医療機器・環境設備等導入一覧	115
15. 安全管理部	116
16. 患者支援センター	119
17. TQMセンター	123
18. 各種委員会	126
2023年度 活動報告	127
19. 資格取得奨励支援制度利用状況	145

1. 病院概要

■ 基本理念・基本方針

1) 基本理念

患者さん・利用者さんが1日も早く社会に復帰されることを願います。

2) 基本方針

- ・患者さん・利用者さんの権利を尊重し、快適な療養・生活環境を提供いたします。
- ・地域医療機関との連携に努め、市民のニーズにあったサービスを提供することにより、社会に貢献いたします。
- ・職員の総和をもって、納得の医療・介護サービスを推進し、地域から信頼され、愛される施設を作ります。
- ・最新の知見と設備を導入し、日進月歩の医療・介護に正面から取り組みます。
- ・社会人として白十字会職員として、信頼される人格を持った責任ある人間を育成いたします。
- ・すべての職員はかけがえのない人財であり、職員にとって価値ある職場であるよう努力いたします。

■ 名称・開設者・管理者・所在地・病床数

地域医療支援病院、基幹型臨床研修病院、救急告示病院、開放型病院、へき地医療拠点病院
(財) 日本医療機能評価機構認定施設、内科専門医研修プログラム基幹施設

名 称：社会医療法人財団 白十字会 白十字病院

開設者：社会医療法人財団 白十字会 理事長 富永 雅也

管理者：瀧野 泰秀

所在地：福岡県福岡市西区石丸4-3-1

病床数：許可病床数 282床 [ICU病床 12床、一般病床 225床、地域包括ケア病床 45床]

■ 標榜診療科

内科、糖尿病内科、脳・血管内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、肝臓内科、消化器内科、
心臓血管内科、内分泌内科、呼吸器内科、放射線科、精神科、外科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、
肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、
眼科、救急科、麻酔科、リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科 以上33診療科

■ 専門外来

もの忘れ外来、睡眠時無呼吸症候群外来、弁膜症スクリーニング外来、腎療法選択外来、PD外来、
肩関節外来、膝・股関節外来、肺がん外来

■ センター

脳卒中センター、心臓・弁膜症センター、肝胆膵センター、糖尿病センター、内視鏡センター、透析センター、
乳線センター、救急センター、手術センター、高度画像センター、創傷治癒センター 以上11センター

■ 学会認定・教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設

日本透析医学会専門医認定施設

日本腎臓学会認定教育施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化管学会胃腸科指導施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

日本脳卒中学会専門医研修教育病院

日本外科学会外科専門医修練施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本乳癌学会認定施設

日本脈管学会認定研修関連施設

三学会構成心臓血管外科専門医認定関連施設

日本麻酔科学会麻酔科認定病院

日本病理学会研修登録施設

日本口腔外科学会認定准研修施設

日本有病者歯科医療学会研修施設

日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

日本医学放射線学会画像診断管理認定施設

日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設

日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設

日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設

マンモグラフィ検診施設画像認定施設

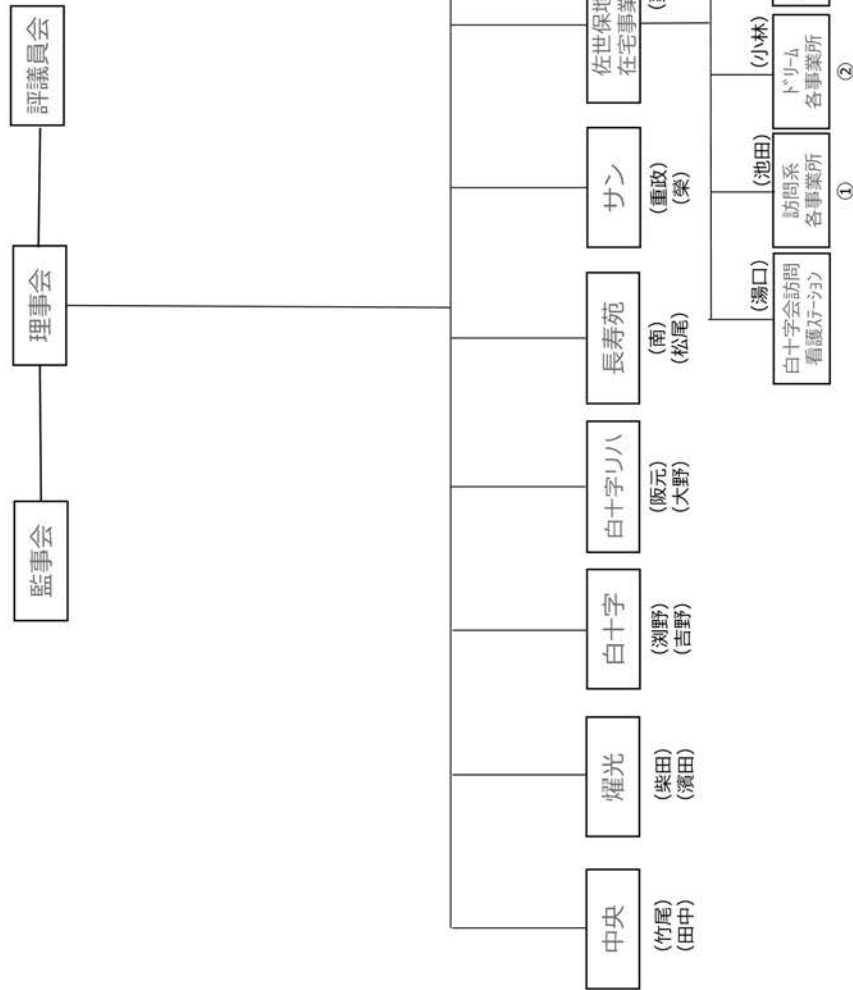
臨床研修指定病院（医科・歯科）

■ 診療内容

診療科目		内 容
内科	糖 尿 病	糖尿病、糖尿病合併症、低血糖症、肥満、代謝性疾患、内分泌疾患
	脳・血管	虚血性脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作）、中枢神経感染症、頸動脈狭窄症など
	消 化 器	消化管疾患一般、消化管悪性腫瘍、消化管良性腫瘍、消化管出血、炎症性腸疾患、消化管感染症、消化管異物
	肝 臓	肝臓、肝臓癌治療、肝機能障害の診断、ウイルス性肝炎の治療、食道・胃静脈瘤治療、肝硬変治療、腹部超音波検査
	腎 臓	腎臓、腎生検、保存期腎臓病治療、血液透析、腹膜透析、ブラッドアクセス手術、シャントPTA、腎臓リハビリテーション
	心 臓 血 管	心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈インターベンション、高速回転式経皮的冠動脈形成術、恒久ペースメーカー植え込み術、下肢血管造影、下肢血管内治療、運動負荷心電図、ホルター心電図、長時間心電図、動静脈血管エコー検査、（経食道）心エコー検査、心筋シンチグラフィ、心肺運動負荷試験（CPX）、心臓リハビリテーション、終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査、心筋生検、心嚢ドレナージ、カテーテルアブレーション、心臓電気生理学的検査
	呼 吸 器	気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎、肺癌、呼吸器感染症など呼吸器疾患全般
外科		食道、胃・十二指腸、大腸、小腸、虫垂、肛門、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術、ERCP（胆・膵内視鏡）、PTBD（胆道経皮的治療）、ヘルニア、腹部救急疾患、癌化学療法、癌終末期医療
乳 腺 外 科		乳腺疾患、乳癌検診
整 形 外 科		スポーツ障害、膝関節疾患、肩関節疾患、外傷（骨折・脱臼）、骨粗鬆症、変形性関節症、関節リウマチ、関節鏡手術、膝骨切り手術、人工関節手術
形 成 外 科		瘢痕、ケロイド、熱傷、顔面外傷、褥瘡、皮膚腫瘍、爪疾患、手の外傷、眼瞼下垂、手根管症候群、皮膚潰瘍
脳 神 経 外 科 （脳血管内治療科）		未破裂脳動脈瘤、くも膜下出血（脳動脈瘤破裂）、脳出血、脳動脈瘤解離、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症、脳腫瘍、頭部外傷、頸椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、手根管症候群、殿皮神経障害、肘部管症候群、足根管症候群、腰痛、手足の痺れ、特発性正常圧水頭症
心 臓 血 管 外 科		心臓弁膜症手術（低侵襲心臓手術：MICS手術含む）、冠動脈バイパス手術、胸部・腹部大動脈瘤手術、ステントグラフト手術、閉塞性動脈硬化症（外科手術、血管内治療）、下肢静脈瘤
泌 尿 器 科		尿路結石症（ESWL・TUL・PNL）、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、尿路感染症、前立腺肥大症、内視鏡の手術、尿路変向、腹腔鏡下手術、前立腺生検、尿失禁
眼 科		糖尿病網膜症、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、網膜色素変性症、加齢黄斑変性、網膜剥離、眼循環、角膜・結膜疾患、屈折矯正コンタクトレンズ、ドライアイ、神経眼科、全身性眼疾患、眼感染症、ロービジョン外来
放 射 線 科		CT、MRI、RI、IVR、放射線診断
歯 科 口 腔 外 科		口腔外科、基礎疾患のある方の歯科治療、歯科心身症

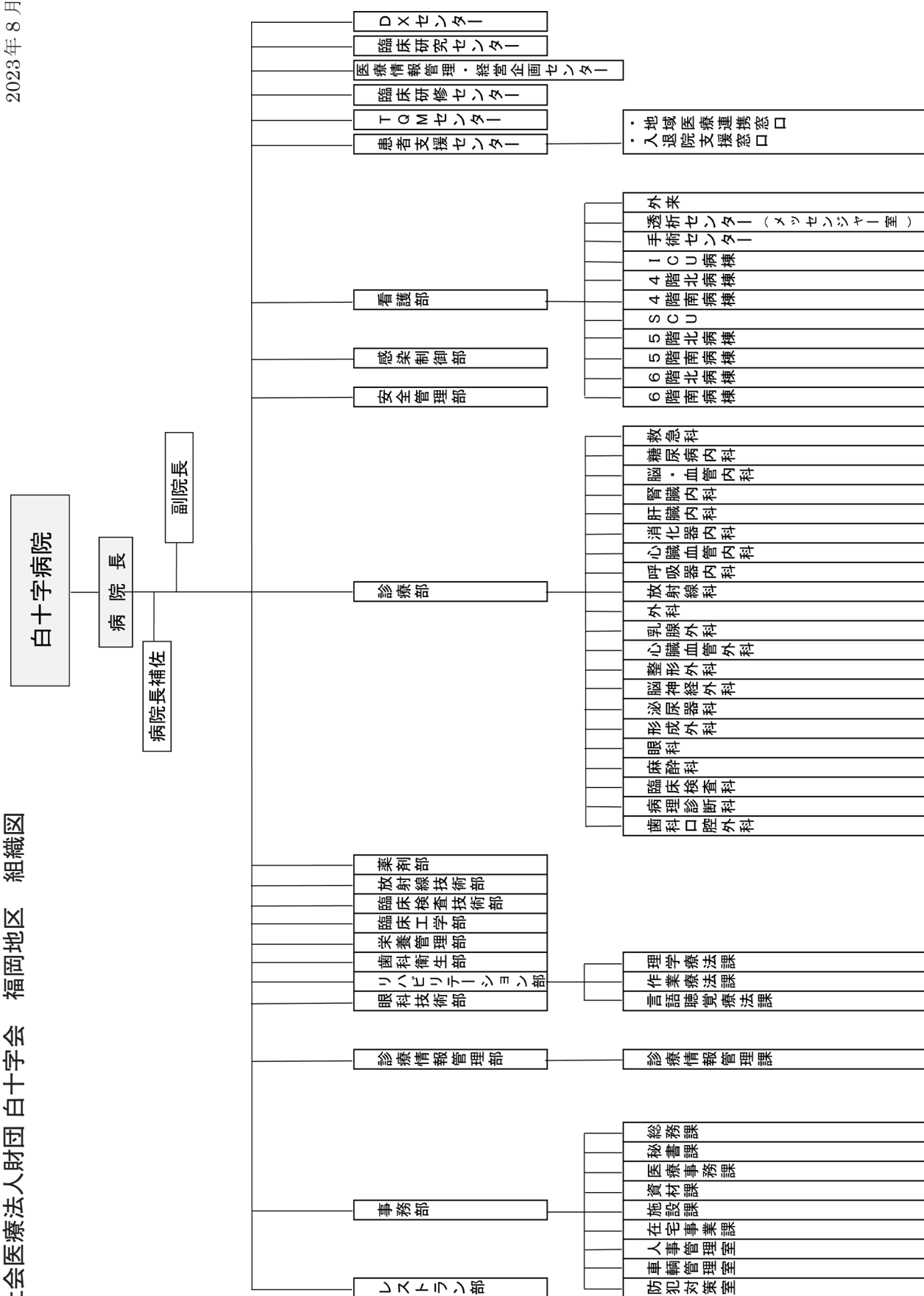
■ 専門診療施設

施設名	担当責任者
脳卒中センター	脳神経外科 井 上 亨
心臓・弁膜症センター	心臓血管外科 江 石 清 行
肝胆膵センター	外科 谷 博 樹
糖尿病センター	糖尿病内科 岩 瀬 正 典
内視鏡センター	消化器内科 井 浦 登志実
透析センター	腎臓内科 平 野 直 史
乳腺センター	乳腺外科 松 尾 文 恵



社会医療法人財団白十字会組織図 (施設)

2011年11月 1日 (改編)
2012年 1月 1日 (施行)
2012年 6月 1日 (改訂)
2014年 6月 1日 (改訂)
2015年 4月 1日 (改訂)
2016年 4月 1日 (改訂)
2016年 9月16日 (改訂)
2017年 9月 1日 (改訂)
2018年 3月 1日 (改訂)
2019年 4月 1日 (改訂)
2020年 3月16日 (改訂)
2020年 4月 1日 (改訂)
2021年 4月 1日 (改訂)
2021年 9月 1日 (改訂)
2022年 4月 1日 (改訂)
2022年 7月 1日 (改訂)
2023年 4月 1日 (改訂)
2023年 7月16日 (改訂)



■ 職種別人員数

2023年 4 月 1 日

(白十字病院)

職 種	常 勤		非常勤		職 種	常 勤		非常勤	
	男	女	男	女		男	女	男	女
医 師 (歯科医師含む)	61	19	50	16	理 学 療 法 士	14	6	0	0
診 療 看 護 師	2	1	0	0	リ ハ ビ リ 助 手	0	1	0	1
看 護 師 放射線・検査(バ)・ コロナワクチン担当含む	31	267	0	24	作 業 療 法 士	6	7	0	0
准 看 護 師 検査(バ)含む・ コロナワクチン担当含む	0	0	0	1	言 語 療 法 士	2	2	0	1
ケ ア ス タ ッ プ	1	10	2	14	臨 床 工 学 技 士 看護部所属含む	13	6	0	0
介 護 福 祉 士	2	6	0	1	臨床工学部助手	0	0	0	1
リ ハ ビ リ 秘 書	0	0	0	1	視 能 訓 練 士	1	2	0	0
外来アシスタント	0	2	0	35	M・S・W	2	6	0	0
安全・感染看護師	0	3	0	0	事 務 員	14	56	0	42
薬 剤 師	7	11	0	1	事 務 員 (在 宅)	1	3	0	0
薬 剤 師 助 手	0	0	0	6	車 輛 管 理 室	5	0	0	0
検 査 技 師	11	15	0	1	S E	5	2	0	0
臨床検査技術部 アシスタント	0	0	0	3	病 棟 ク ラ ー ク	0	2	0	12
放 射 線 技 師	12	4	0	0	施 設 技 術 員	2	0	0	0
歯 科 衛 生 士	0	6	0	0	清 掃 作 業 員	0	0	0	0
歯 科 助 手	0	0	0	1	厨 房 助 手	0	0	0	1
管 理 栄 養 士	2	8	0	0	レ ス ト ラ ン 部	1	0	0	0
合 計	129	352	52	104	合 計	66	93	0	58
白十字病院合計 854 名 (常勤 640 名 ・ 非常勤 214 名)									
総 合 計 1,199 名 (常勤 947 名 ・ 非常勤 252 名)									

(在宅事業部)

(訪問看護ST)

職 種	常 勤		非常勤		職 種	常 勤		非常勤	
	男	女	男	女		男	女	男	女
ケアマネージャー	1	7	0	0	看 護 師	0	9	0	0
社 会 福 祉 士	0	0	0	0	理 学 療 法 士	0	1	0	0
社会福祉主事任用	0	0	0	0	作 業 療 法 士	1	1	0	0
介 護 福 祉 士	7	10	0	3	事 務 員	0	0	0	0
ケ ア ス タ ッ プ	1	5	0	6					
看 護 師	0	3	0	1					
准 看 護 師	0	0	0	0					
合 計	9	25	0	10	合 計	1	11	0	0
在宅事業部合計 44 名 (常勤 34 名 ・ 非常勤 10 名)					訪問看護ST合計 12 名 (常勤 12 名 ・ 非常勤 0 名)				

2. 2023年度 白十字病院のあゆみ

2023年

4月3日	入社式 新入職員研修
7日	福岡県議会議員一般選挙不在者投票
10日	旧白十字病院解体に伴う安全祈願祭
11日～12日	1年次研修
17日	旧白十字病院解体工事開始
18日	いしまるしえ「春の健康チェック教室」
20日	立体駐車場（屋上部分）床補修工事 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 麻酔管理料Ⅰ（医師の変更）
5月1日	クールビズ開始
8日	新型コロナウイルス感染症5類へ移行
15日	正面玄関検温当番終了
15日～26日	職員健診
17日	第120回 そったく会・西区医師会学術講演会 共同開催（第14回） 講演『チームでとりくむ臨床倫理』 講師：白十字病院 がん看護専門看護師 看護部 課長 浜谷 千枝子 先生
27日	第14回 白十字駅伝大会
6月1日	ホームページリニューアル
9日	消防署立入検査
12日	法人内認定資格者授与式 いしまるしえよかトレ実践ステーション施設認定
14日	第3回理事長勉強会
20日	石丸小学校生徒 病院見学
24日	『西日本新聞掲載』白十字病院内のマガモのふ化の見守りについて掲載 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 頭部MRI加算（新規）
7月	安全・安心いっぱい月間
1日	医療安全・感染対策・個人情報合同研修会 感染対策講演『結核について』 講師：白十字病院 呼吸器内科 部長 松本 武格 先生 医療安全講演『ヒアリハット報告、安全文化を根付かせるために（仮）』 講師：九州大学病院ARO次世代医療センター 特任准教授／病院長補佐 鮎澤 純子 先生 個人情報講演『医療機関における個人情報の取り扱い』 講師：鴻和法律事務所 中村 伸理子 先生
4日	2年次研修
5日	3年次研修
7日	ピュアキッズ「七夕」
10日	新任考課者フォローアップ研修

7月17日	第11回 ICLS研修 当院敷地内でカモが孵化、引っ越し
19日	第121回 そったく会・西区医師会学術講演会 共同開催（第15回） 講演『地域医療連携へ向けた薬剤師の取り組み～薬薬連携による入退院支援～』 講師：白十字病院 薬剤部 部長 高津 宏典 先生
20日	FBS福岡放送『めんたいワイド』にて当院にて孵化し、引っ越しをしたカモの様子放送
25日	OJT前期研修 生け花ボランティア再開
29日	医療安全・感染対策・個人情報合同研修会（ビデオ研修） ピュアキッズ「夏祭り参観」
31日	BLS研修
8月1日～4日	BLS研修
1日～18日	ハラスメント研修
8日	中途採用者研修
9日～31日	労働安全衛生委員会 禁煙研修（e-ラーニング）
21日	新任考課者初期研修
22日～24日	選択型研修
23日	臨床工学技士の呼称 ME → CE へ変更
28日	新任考課者初期研修
29日	全考課者研修
31日	全考課者研修 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 経皮的中心筋焼灼術 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 早期離床・リハビリテーション加算 一般病棟入院基本料（7対1）（SCU新設に伴う病床変更） 地域包括ケア病棟入院料2（看護職員夜間配置加算辞退） 療養環境加算（SCU新設に伴う病床変更）
9月1日～15日	労働安全衛生委員会 禁煙研修（e-ラーニング）
4日	新任考課者初期研修
5日	管理者研修
15日	第25回 救急医療研修会 開催
20日	管理者研修 第122回 そったく会・西区医師会学術講演会 共同開催（第16回） 講演『不整脈診療におけるカテーテルアブレーションの立ち位置』 講師：白十字病院 心臓血管内科 部長 三戸 隆裕 先生 〔診療報酬改正 施設基準届出〕 全身MRI撮影加算

10月19日～20日	病院機能評価
24日	新入職員フォローアップ研修
26日	監督者研修
27日	福岡市西保健所立入検査
28日	第40回 セーフティマネジメント大会
31日	クールビズ終了
	ピュアキッズ「ハロウィン」
	〔診療報酬改正 施設基準届出〕
	180日を超える入院の実施（変更）報告書（新規）
11月 9 日	OJT後期研修
11日	第40回 セーフティマネジメント大会
14日	リーダー研修（初級）
15日	リーダー研修（中級）
	第123回 そったく会・西区医師会学術講演会 共同開催（第17回）
	講演『当院回復期における脳卒中リハビリテーション』
	講師：白十字リハビリテーション病院 リハビリテーション部 係長
	納富 亮典 先生
	講演『入院から在宅へとつなぐ～当院通所リハのご紹介～』
	講師：白十字リハビリテーション病院 通所リハビリテーション部 係長
	國友 慎吾 先生
23日	第12回 ICLS研修
25日	ユマニチュード研修
29日	2023年度認知症サポーター養成研修
12月	安全・安心いっぱい月間
7 日	新任監督者研修
18日	中途採用者研修会
21日	永年勤続表彰式
22日	ピュアキッズ「クリスマス」

2024年

1月4日	年頭訓辞
9日	白十字会法人内成人式（福岡地区）
12日	2年目考課者研修
17日	第119回 そったく会・西区医師会学術講演会 共同開催（第18回） 講演1『乳がんの薬物療法「免疫療法とその副作用について」』 講師：白十字病院 薬剤部 主任 田川 慎二 先生 講演2『乳がんの診断と手術について』 講師：白十字病院 乳線外科 部長 松尾 文恵 先生
20日	第3回 ノルディック・ウォーク実務者向け研修会
22日	第4回 理事長勉強会
2月2日	ピュアキッズ「節分」
9日	新任考課者研修①
21日	大規模災害訓練
23日	第13回 ICLS研修
27日	OJT新人指導者研修
3月1日	新任考課者研修② ピュアキッズ「遠足」
5日	考課者説明会
8日	考課者説明会
16日	第13回 エコウォーク
18日	挨拶運動開始（毎週木曜日 8：05～8：25）
29日	診療報酬改定セミナー 演題『2024年度診療報酬改定について』 講師：株式会社アシスト・メディコ 代表取締役社長 金丸 隆文 氏

3. 各種センター紹介

● 脳卒中センター

脳卒中センター長 井上 亨

脳卒中センターは、脳神経外科医、脳神経内科医、脳血管内治療医、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種体制により、脳卒中疾患（脳梗塞、一過性脳虚血発作、くも膜下出血、脳出血）および脳腫瘍、頭部外傷、脊椎脊髄疾患、末梢神経疾患など各科と連携をとりながら24H/7Dで治療を行っています。当センターは日本脳卒中学会より一次脳卒中センター（Primary Stroke Center：PSC）の認定を受けていましたが、2022年には実績を認められPSCコアセンターに認定されました。また、これまでの4南脳卒中専用の病棟（Stroke Unit：SU）に加えて、2023年8月には念願の脳卒中専用のICU（Stroke Care Unit：SCU）が開設しました。当センターは日本脳卒中学会研修教育施設にも認定されており、西区・糸島地区における脳卒中診療において中心的な役割を担っています。

脳卒中が疑われる患者さんに対しては、緊急頭部CT・MRI撮影が可能です。さらに、看護部、放射線部、臨床検査部、臨床工学部その他の部門と協力して脳卒中スクランブル体制を敷いており、脳梗塞超急性期患者に対して24H/7Dでrt-PA静注療法、脳血栓回収療法が可能です。手術が必要な脳出血に対しては、神経内視鏡を用いた低侵襲手術を行い早期にリハビリテーションを開始しています。くも膜下出血に対しては、従来の開頭脳動脈瘤クリッピング術に加え、カテーテルを用いた脳動脈瘤コイル塞栓術を行い良好な成績を上げています。2022年11月からは、医師・メディカルスタッフ専用の脳卒中担当医師への直通電話「白十字病院脳卒中センターホットライン」の運用が開始されました。

入院患者さん・家族に対しては、脳卒中クリニカルパスを導入すると共に、脳卒中リハビリテーション認定看護師が脳卒中教室を開催し再発予防に努めています。また、PSCコア施設に義務化された脳卒中相談窓口を設置し、脳卒中患者に対するシームレスな医療・福祉連携の充実を目指しています。

当センターの特記すべきことは、脳卒中の機能予後を大きく左右する急性期リハビリテーションにおいて、従来のリハビリに加えてロボットスーツHAL®を使用した最先端のリハビリを行なっていることです。センター所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がHAL®チームを結成、毎朝の脳卒中センター症例カンファレンスに参加して重症度を把握した上でリハビリ専門医の指導のもと行っています。回復期においても、隣接する白十字リハビリテーション病院に転院しHAL®を使用したリハビリを継続することが出来ます。また、SCU・SUでは、院内の栄養対策チームや褥創対策チームと連携し患者さんの早期回復に努めています。

最後に、当センターは福岡大学病院脳神経外科教室、救急救命センターと密に連携し全身合併症を有する患者さんに対しても最善の治療を提供しています。西区・糸島地区における脳卒中診療において、地域医療連携、病棟連携、先進的チーム医療に取り組み、白十字リハビリテーション病院などとの垂直統合で脳卒中患者さんの早期在宅復帰を推進します。

【脳卒中スクランブル】

新・脳卒中診療体制

特に発症4.5時間以内の主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞に対するtPA、血栓回収療法に対応するため、新たな脳卒中診療体制を行います

「脳卒中スクランブル」

A：tPAモード（tPAを使う可能性があります）

- ☐ 最終未発症時刻＜4.5h以内
- ☐ 片麻痺
- ☐ 元のADL自立（すべてを満たす）

B：血栓回収モード（血栓回収を行う可能性があります）

Aに加えて...

- ☐ 意識障害＞JCS20（閉塞で閉塞）
- ☐ 共同偏視（両眼がどちらかを向いている）
- ☐ 失語（ペンをみせても名前が書えない）
- ☐ 空間無視（物が何本あるかわからない）（いずれかを満たす）

➡

- ・ 月水13.5金土日：脳外科オンコール
- ・ 火木2.4金土日：脳内科オンコール
- ・ 夜間/休日：脳当直or上記オンコール
- ・ OR、技師担当呼び出しは医師が判断

※少なくともAを満たす場合は救急搬送依頼からなるべく早く脳担当医にコール下さい！（例：脳卒中スクランブルtPAモード症例です）

※スクランブルにあたらなものは通常通り脳内科対応です

※24時間以内は血栓回収療法の適応の可能性あるため迷ったらず上記担当に相談下さい

文責：脳血管内治療科 福田

【脳卒中ホットライン】

社会医療法人財団 白十字病院

2023年1月1日よりホットラインの番号が変わります

脳神経外科 脳卒中 脳神経内科

脳卒中に関する患者さんのご紹介・ご相談迅速に対応します

白十字病院 脳卒中センター ホットライン

な ない ろ はくじゅうじ

090-7166-8912

ホットライン受付時間 平日 9:00-17:00
SCU開設に合わせ24時間対応(2023年4月開設予定)
お気軽にご相談ください。

医師・メディカルスタッフ専用の脳卒中センター担当医への直通電話です。
社会医療法人財団 白十字会 白十字病院 〒819-8511 福岡県福岡市西区石丸4-3-1
TEL:092-8911-2511(FAX:092-881-4491) ホームページ: <https://www.fukuoka.hokuzoku.or.jp/>

【右片麻痺患者さんの上肢HAL®リハビリ】



【2023年8月オープンのSCU】



「脳卒中センタースケジュール」

脳卒中センター症例カンファレンス（月一金）	毎朝
脳神経外科回診（水） 脳神経内科回診（木） 脳卒中リハビリ回診（木）	1回／週
脳血管内治療症例検討会（水）	〃
脳卒中症例合同カンファレンス（福岡大学脳神経外科教授）（木）	〃
脳卒中HAL®リハビリテーションカンファレンス（金）	〃
脳卒中Journal Club（金）	〃

● 糖尿病センター

糖尿病センター長 岩瀬 正典

I：構成員

医師 6 名（1 名非常勤） 看護師 6 名 管理栄養士 8 名 理学療法士 5 名 薬剤師 2 名
臨床検査技師 4 名 視能訓練士 1 名 糖尿病療養指導士 29 名

Ⅱ：診療実績

外来 患者数 1,190人（1型糖尿病 67人、インスリン治療 283人）

糖尿病地域連携 27件 糖尿病透析予防指導 6件

管理栄養士 療養支援 456件、個人栄養指導 565件

看護師 療養支援 1,309件 新患指導 150件 外来教育パス 107件

自己注射指導 58件 血糖自己測定指導 36件

フットケア 150件 フットチェック 119件

持続血糖モニタリング リブレプロ 5件 リブレ 15人、デクスコム 14人

消化管内視鏡検査（上部、下部）312件

入院 患者数 275人（糖尿病教室参加 48人）他科コンサルト 4,065件

糖尿病ケトアシドーシス 3人、高血糖高浸透圧症候群 6人、低血糖昏睡 9人

Ⅲ：研究業績（自己研鑽）

各部門をご参照ください。

Ⅳ：現状と展望

- 1) 2023年度は外来や入院患者数、療養支援数は前年度並みであった。高齢糖尿病患者の増加に伴い糖尿病教室に参加可能な患者が減少傾向になる一方、糖尿病救急で高齢者の高血糖高浸透圧症候群や低血糖昏睡が増加傾向になっている。今後 病診連携を強化することにより地域の高齢糖尿病対策を進めていきたい。
- 2) 当院の外科系診療の拡大により周術期血糖管理の依頼が増加している。術前中止薬の徹底や低血糖事故の予防などメディカルスタッフとともに院内の糖尿病診療体制を充実させる必要がある。
- 3) 糖尿病治療薬が繚乱し、新たな肥満治療薬が登場し、糖尿病患者の薬物療法が複雑化しているが、これらと食事療法や運動療法を組み合わせることにより治療効果が高まる。また、持続血糖モニタリングが普及しているので、得られた血糖トレンドを食事や運動指導にどのように生かすかなどメディカルスタッフへの期待は大きい。

● 消化器内科・内視鏡センター

内視鏡センター長 井浦 登志実

当科は日本消化器内視鏡学会の指導医2名、専門医2名、学会員1名の医師が消化管疾患の診療に従事しております。地域の先生方に支えていただき、多数の患者さんをご紹介いただいております。2023年度の診療実績としては、紹介件数は774件、上部消化管内視鏡検査は2,099例、下部消化管内視鏡検査は1,300例、早期胃癌の内視鏡的粘膜剥離術（ESD）は30例、大腸腫瘍の内視鏡的切除術（EMR、ポリペクトミー）は508例、内視鏡的止血術は151例、異物除去術は8例、胃瘻造設と交換は39例でした。新型コロナウイルス感染症は「5類」に移行しましたが、当科では引き続き日本消化器内視鏡学会の提言に基づいた十分な感染防止対策を施しており、患者さんと、ご紹介いただいた先生方にご満足いただける医療を提供すべく努力しております。

● 乳腺センター

乳腺センター長 松尾 文恵

白十字病院移転後3年が経ち、乳腺センターでは3名の非常勤の先生方が加わり、益々精力的に手術や外来診療を行っております。また近隣の医療機関からのご紹介件数も増え、手術件数も増加傾向にあります。

医師・スタッフ共に女性のみで、各分野においてスペシャリストが集まり、患者さん一人ひとりに寄り添い治療を乗り越えるためのお手伝いを精一杯させていただきます。

● 透析センター

透析センター長 平野 直史

透析センターでは、腎臓病や透析治療に精通した医師や看護師、臨床工学技士、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など専門スタッフを配置し、患者さんの透析治療を適切に管理し、安全性と効果を確保するために協働しています。

2023年度血液透析導入は52名、シャント造設術50名でした。腹膜透析は2023年度1名導入し、5名の患者さんが加療を継続されています。

現在、透析室のコンソールは27台です。当院維持透析患者さんに加え、他施設で維持透析中に合併症治療のため当院へ入院となる患者さんも、できる限り受け入れています（2023年度97名）。シャントトラブルに対してのシャントPTAは、入院、外来含め60名となっています。透析液浄化への取り組みも継続し、より安全に透析療法を受けていただくことができます。重症患者さんに対してはICUでHDまたはCHDFのいずれも実施可能で、その他敗血症に対するエンドトキシン吸着療法や潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法も行っています。

運動・食事・精神的などの包括的なサポートプログラムとして腎臓リハビリテーションを開始し、透析患者さんの生命予後やQOL（生活の質）などを改善する取り組みも行っています。多職種協働で今後もさらなる飛躍を目指します。

他施設の維持透析患者の合併症 97名

泌尿器科	2名	肝臓内科	0名
脳神経外科	3名	腎臓内科	24名
整形外科	13名	消化器内科	3名
外科	3名	脳・血管内科	6名
乳腺外科	0名	心臓血管内科	18名
心臓血管外科	9名	糖尿病内科	3名
眼科	3名	呼吸器内科	3名
歯科口腔外科	3名	形成外科	3名
内科総合	0名	その他	1名

● 肝胆膵センター

肝胆膵外科部長・肝胆膵センター長 谷 博樹

胆石症に関連して発症する急性胆道炎（胆管炎・胆嚢炎）は、急性期に適切な診断と治療が必要であり、重症例は死亡する危険を伴います。白十字病院の胆石症センターは、地域の急性期医療の一端を担うものと自負し、昼夜を問わず胆石症および急性胆道炎と闘っています。

胆石は、肝臓でつくられる胆汁が固まったもので、胆汁が存在する胆管か胆嚢に発生します。3 cmを超えるものから、砂や泥の様に小さなものまで、大きさは様々です。胆石の治療は、結石が存在する場所が、胆管か胆嚢かで異なります。両方に結石が存在する場合は、一般的に胆管の治療を優先します。

胆管結石治療は、内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）を利用した内視鏡的治療を第一に行います。患者さんの負担が少ない低侵襲治療であり、90歳以上の超高齢者も含めて安全に配慮しながら積極的に取り組んでいます。胆管の出口である十二指腸乳頭括約筋に切開（EST）やバルーン拡張（EPBD）を加え、結石を破碎除去（EML, EPLBD）します。必要に応じて胆管ステント（EBS）を留置します。

胆嚢結石治療は、手術による胆嚢摘出術であり、ほぼ全例に腹腔鏡手術を行っています。手術後の看護も含めて低侵襲治療を実践しています。クリニカルパスを使用することで標準的医療を安定して提供する一方、年齢や全身状態に応じた個別の最適な医療を提供しています。またチーム医療を実践し、より安全な医療環境の提供が出来るように努力しています。

当院の急性胆道炎診療は、すべて外科で行っており、診断・治療を単一の科で途切れず（seamless）、連続的（sequential）に行える利点を最大限に活用しています。また、診断・治療の精度向上、安全管理、コスト削減、入院期間短縮、合併症低減などに貢献して、若手外科医師の内視鏡およびIVR技術トレーニングにも役立っています。

肝臓や胆道癌、膵癌など悪性腫瘍に対しても精細に診断し、綿密な治療計画を立てます。この肝・胆・膵の領域は治療が困難であることが多く、手術は高難度で長時間におよび、合併症が深刻になることも少なくありません。合併症の少ない安全第一の手術を行いながら、高い根治性を目指しています。肝転移など遠隔臓器に転移がある進行症例は、手術適応がないと判断されることも少なくありません。そのときは、化学療法や放射線療法など適切な治療を提案しています。

胆石症センターは、新病院移転に伴い肝胆膵センターに名称変更しました。胆石症にとどまらず、肝胆膵領域の疾患により強く取り組む気持ちで決意しました。今後も地域の急性期医療に大きく貢献できるように努力し、超高齢者にも安全で優しい治療を行います。日進月歩の医学に正面から取り組み、高水準の治療を展開します。

手術

臓器	手術術式	症例数	腹腔鏡数
肝臓	肝切除術（鏡視下）	18	(4)
	肝嚢胞天蓋切除術（鏡視下）	2	(2)
胆嚢・胆道	胆嚢摘出術（鏡視下）	125	(123)
	胆管切除術	0	
	総胆管切開切石術（鏡視下）	2	(1)
	胆管空腸バイパス術	1	
膵臓	膵頭十二指腸切除術	12	
	膵尾側切除術（鏡視下）	3	(1)
	バイパス術	0	

特殊検査・治療

検査・治療	症例数
内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）	272
・内視鏡的乳頭バルーン拡張術（EPBD）	4
・内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）	94
・内視鏡的逆行性胆管ドレナージ：チューブステント（EBS）	161
：金属ステント（SEMS）	2
・内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（ENBD）	0
・内視鏡的機械碎石（EML）	17
・内視鏡的乳頭大口徑バルーン拡張術（EPLBD）	0
経皮経肝胆嚢ドレナージ（PTGBD）	7
経皮経肝胆管ドレナージ（PTBD）	2
・胆管金属ステント（SEMS）	0

（重複あり）

● 心臓・弁膜症センター

心臓・弁膜症センター長 江石 清行

白十字病院の心臓・弁膜症センターは2021年の新病院開院に合わせて開設され、今年度で4年目を迎えました。心臓・弁膜症センターは心臓センターであり、その中心に弁膜症センターがあるという意味で、循環器疾患全般を対象としています。弁膜症は加齢とともに増え、高齢化の進む日本では入院が困難な心不全の患者さんが急増し、2018年には健康寿命を延ばし、医療・介護費の負担軽減を図ることを目的として「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、循環器病センター、脳卒中センターを中心とした地域包括ケアシステムの構築が進められています。

センター長の私は長く心臓弁膜症の手術治療に従事し、人工物を用いない「弁形成術」と、身体に優しい「低侵襲手術MICS」をライフワークとしてきました。心臓・弁膜症センターには、その他、不整脈治療や冠動脈のステント治療の名医、ステントグラフトの専門医、心臓専門の診療看護師など多くの専門プロフェッショナルが集まっています。2023年度からは心臓弁イメージングの第一人者も加わりました。外科スタッフ6名と内科スタッフ4名が中心となります。手術室は大変広く、最先端の透視装置を備えたハイブリッド室や、数センチの心臓弁を140センチモニターに40倍以上に4K3D画像で構築し、あたかも巨大な心臓の中に入り込んで精緻な手術を行っているようなオーブアイシステムなど最先端の装置が準備されています。このシステムで行うMICS心臓弁形成術はロボット手術を上回る低侵襲で、極めて精度の高い手術が可能となっています。



左) Sony-Olympusの
4K3Dビデオ顕微鏡
ORBEYEシステム

右) 手術風景

白十字病院ではさまざまな管理やリハビリを、専門的に研究・訓練している専門スタッフが大変充実しています。リハビリセンターの専門スタッフのおかげで、以前は痛みを我慢しながら体を緊張させていた患者さんが、術後すぐに緊張をほぐし、全身をリラックスすることができます。そうすると、みるみる患者さんは楽になり、笑顔が見られ、翌日には立ち上がり、食事、トイレ歩行などをスムーズに開始できます。

その他にも、患者さんたちの安全快適な回復のための温かなメンバーがチームワークよく働いています。これらの専門スタッフによる心臓・弁膜症センターのおかげで、心臓病の先端治療が安心して快適に受けられるようになっています。

県内及び県外から多くの患者さんが低侵襲で高質の僧帽弁形成術、大動脈弁形成術あるいは三尖弁形成術などの目的で来院してくださっています。狭心症、心筋梗塞の患者さんも多く受け入れられるようになりました。今後も地域の循環器診療に貢献できるよう、「弁膜症スクリーニング外来」も設置しFaxあるいはお電話一本で、いつでも対応できる体制にいたしました。また、センターの活動をInstagramでも紹介しておりますのでお目通しいただければ幸いです。

弁膜症スクリーニング外来

紹介状をお持ちの方	白十字病院 コールセンター（平日/8:30～17:00） フリーダイヤル： 0120-19-8912
医療機関からのご予約	白十字病院 地域医療連携課（平日/8:30～17:00） TEL： 092-834-2507 （直通） FAX：092-891-2558



Instagram
はじめました！

4. 診療統計

1. 年齢階級別退院患者数

2023年度の年齢階級別退院患者数は70代の方が多くを占めました。2023年度の平均年齢は73.2歳（前年より+0.5歳）、後期高齢者（75歳以上）は全体の56.3%（前年より+2.1%）を占め、年々高齢化が進んでいる傾向が表されます。90歳以上の方の入院も年々増えております。産科や小児科が標榜されていませんが、若年の症例も一定数入院しております。

2. サマリー

2023年度のサマリー作成率は99.0%で、2022年度より0.1%下回る結果となりましたが、3年連続で99%以上の作成率をキープしております。今後も定期的なカルテ監査を実施し、医師・秘書課の方々のご協力を頂きながら、引き続き高い作成率が維持出来るよう取り組んでいきます。

3. 疾病分類

2023年度入院患者のICD-10大分類の集計は、前年度より268件増加しました。その中で最も増加した分類は、脳卒中や心疾患などが含まれる「第IX章 循環器系の疾患」で163件増加しました。大きな要因として2021年度より脳卒中センターと心臓・弁膜症センターが開設されたことで患者数の増加に繋がったと考えます。

疾病分類に用いるICD-10コーディングはDPC制度により詳細な分類が求められます。前年度まで機能評価係数Ⅱの保険診療係数として評価されていた「部位不明・詳細不明コードの使用割合が10%未満」は今年度の改定よりDPC対象病院の基準に含まれました。当課では、部位不明・詳細不明コードを減らすよう、毎月カンファレンスを行い、適切なコーディングを行っております。

当課で作成する統計データは上記の疾病分類を含んだDPCデータを用いて作成しております。今後もより正確な統計・分析を提供できるよう取り組みます。

4. カルテ開示

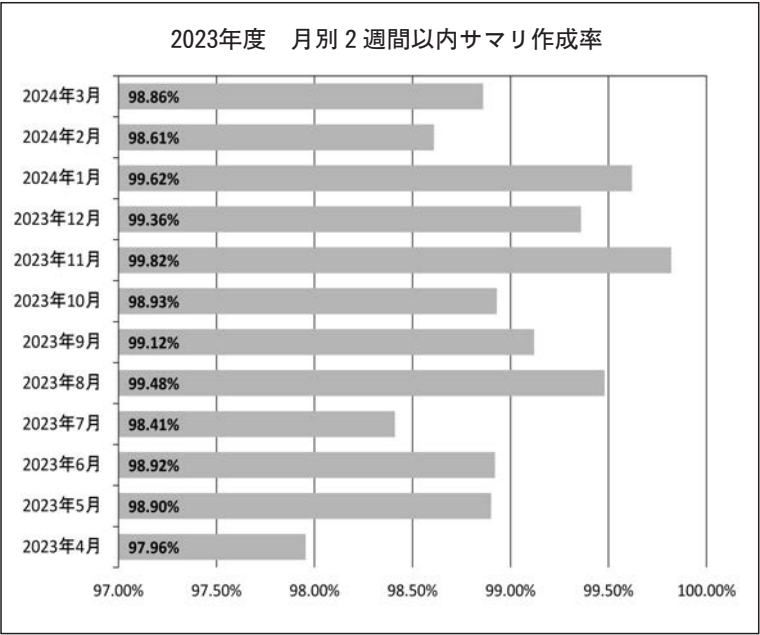
2023年度は36件カルテ開示を行いました。カルテ開示とは、患者さんご本人やご家族、任意代理人などの権利のある方に診療録等の閲覧、謄写交付を行うことです。診療録は医療機関において大切な個人情報であるため、カルテ開示のための手続きは厳格に定めており、申請から開示までにはお時間をいただいております。今後も診療録監査部会を中心に、より良い診療録の作成に力を入れてまいります。引き続き職員一同、患者の皆様に十分ご納得いただける診療情報提供を心掛けていきます。

今後も、診療情報管理課は正確な情報管理に努めてまいります。

【2023年度 2週間以内サマリ作成率】

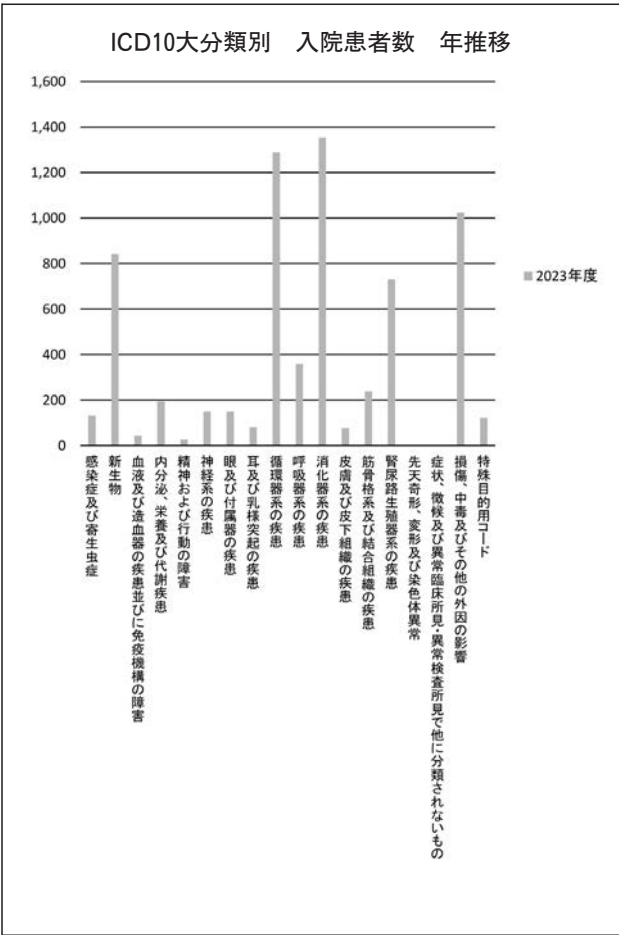
※退院後2週間以内に確定されたもの

	糖尿病	脳内	消化器	肝臓	腎臓	心内	呼吸器	外科	乳外	心外	整形	形成	脳外科	泌尿器	眼科	救急	歯科	全体
退院数	259	458	561	273	342	636	199	1034	134	162	826	175	662	793	125	37	137	6813
作成数	241	458	559	273	340	619	199	1014	134	161	826	175	661	786	125	37	137	6745
作成率	93.1%	100.0%	99.6%	100.0%	99.4%	97.3%	100.0%	98.1%	100.0%	99.4%	100.0%	100.0%	99.8%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%



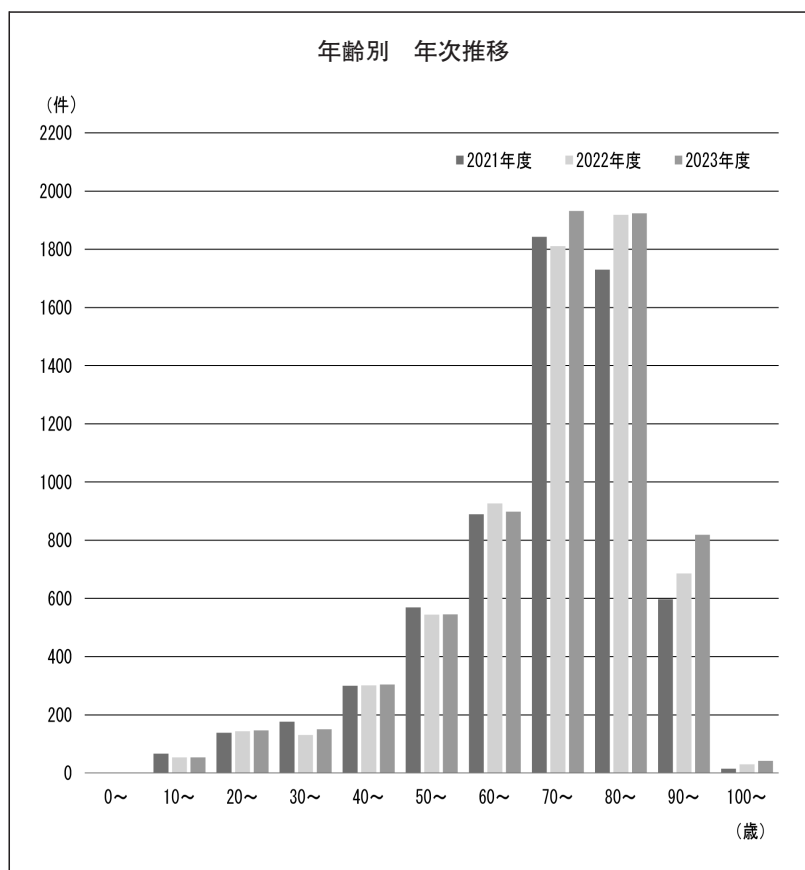
【2023年度 ICD10大分類別 入院患者数 年推移】

大 分 類		人数
第Ⅰ章	感染症及び寄生虫症	132
第Ⅱ章	新生物	842
第Ⅲ章	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	43
第Ⅳ章	内分泌、栄養及び代謝疾患	194
第Ⅴ章	精神および行動の障害	27
第Ⅵ章	神経系の疾患	150
第Ⅶ章	眼及び付属器の疾患	150
第Ⅷ章	耳及び乳様突起の疾患	81
第Ⅸ章	循環器系の疾患	1,288
第Ⅹ章	呼吸器系の疾患	358
第Ⅺ章	消化器系の疾患	1,353
第Ⅻ章	皮膚及び皮下組織の疾患	76
第Ⅼ章	筋骨格系及び結合組織の疾患	238
第Ⅽ章	腎尿路生殖器系の疾患	729
第Ⅾ章	先天奇形、変形及び染色体異常	3
第ⅰ章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1
第ⅱ章	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,024
第ⅲ章	特殊目的用コード	121
総 計		6,810



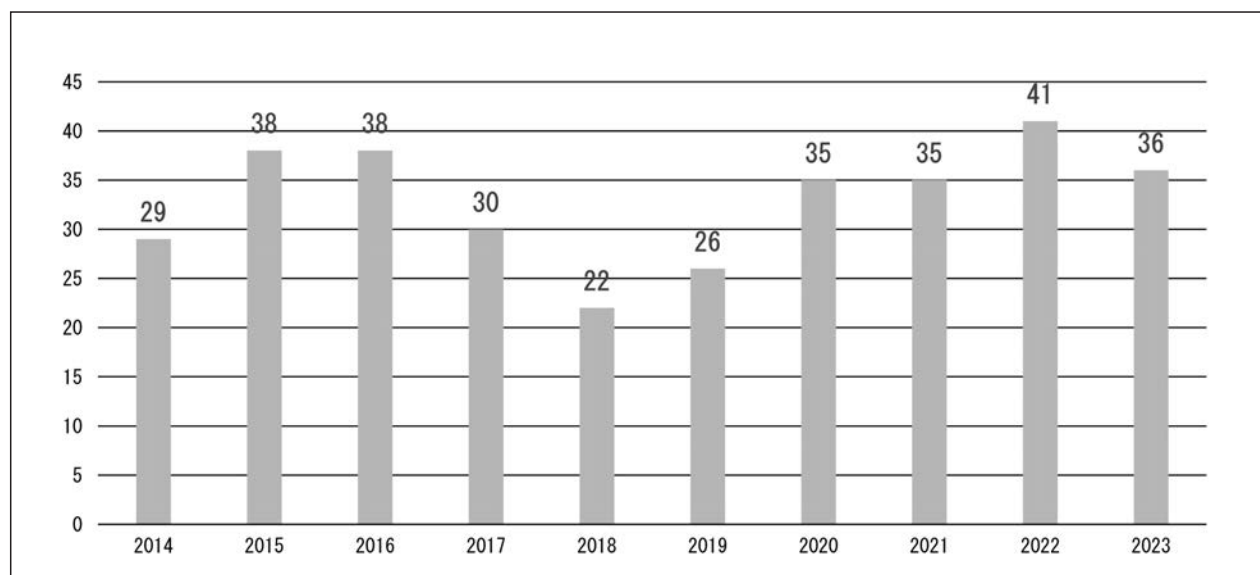
【年齢階級別退院患者数】

年齢	2021年度	2022年度	2023年度
0～	0	0	0
10～	66	53	53
20～	138	143	146
30～	176	130	150
40～	300	301	304
50～	569	544	545
60～	889	926	898
70～	1843	1811	1931
80～	1730	1918	1923
90～	597	686	818
100～	15	30	42
合計	6323	6542	6810



【診療情報提供（カルテ開示）件数】

年度別開示件数（過去10年）



● 救急科

救急科部長 入江 悠平

I：構成員

病院長補佐：林 修司

救急センター長：西田 武司

救急科部長：入江 悠平

II：臨床活動

(1) 救急車受け入れ台数

2021年度：3596台

2022年度：3995台

2023年度：4308台 (増加傾向)

(2) 救急外来における臨床活動：

センター化により救急車到着から迅速な処置が必要となるような脳卒中や虚血性心疾患をはじめ、各種緊急手術症例の実施までの時間短縮に加え、継続して徹底したICU管理が可能となりました。救急室では福岡大学病院救命救急センター医師と連携を図り、軽症から重症患者の容体把握およびバイタルサインの安定化を行います。適切な診療科と迅速かつ正確に診療連携を行うため、救急室での勉強会および各科ともに積極的に意見交換を行っております。また、2024年度より院内救命士の採用によるタスクシフトを行い、急患の治療、入院を迅速化することで、救急応需の増加ならびに、残業時間短縮を進めています。その他、地域の救急医療を行う上で、適正搬送を目指しており、地域の消防との合同勉強会ならびに、意見交換会も合わせて行っております。

(3) 集中治療室（ICU）における臨床活動：

心肺停止蘇生後や重症敗血症、ならびに人工呼吸器管理を必要とする重症患者の対応を行っております。昨年度は心肺停止蘇生後の低体温療法の勉強会ならびにプロトコール作成/パス作成を行っております。その他、各種診療科からの集中治療管理について、連携をおこない、共同で治療にあたっております。その他、早期離床カンファレンス、脳神経外科ICU症例ラウンド、ICUラウンドを多職種連携で行っており、脳卒中カンファレンスにも参加しています。

(4) 当直業務：内科当直、外科当直、ICU当直対応

III：業績

(1) 学会発表：

1. CT画像にて非穿孔性急性虫垂炎を疑うも、播種性血管内凝固、敗血症性ショックに至った一例

入江悠平、富永孝亮、和田英雄、谷博樹、林修司

(第51回日本救急医学会総会・学術集会、東京、2023.11 ポスター発表)

2. オープンICU診療における診療看護師(NP)の貢献：

入江悠平、水迫祐人、坂本俊樹、伊禮美央、吉野勝也、林修司

(第51回日本集中治療医学会学術集会、北海道、2024.3 パネルディスカッション)

(2) ICLS 年3回、院内ICLSを開催、実施

IV：現状と展望

地域医療：消防救急隊との連携強化のため対応地域消防署訪問を行い、以下の事項について実行する

- i) 当院救急外来担当医療従事者の救急車同乗実習、ii) 消防との症例検討会・勉強会の開催
- iii) 消防救急隊の訓練の見学および参加。

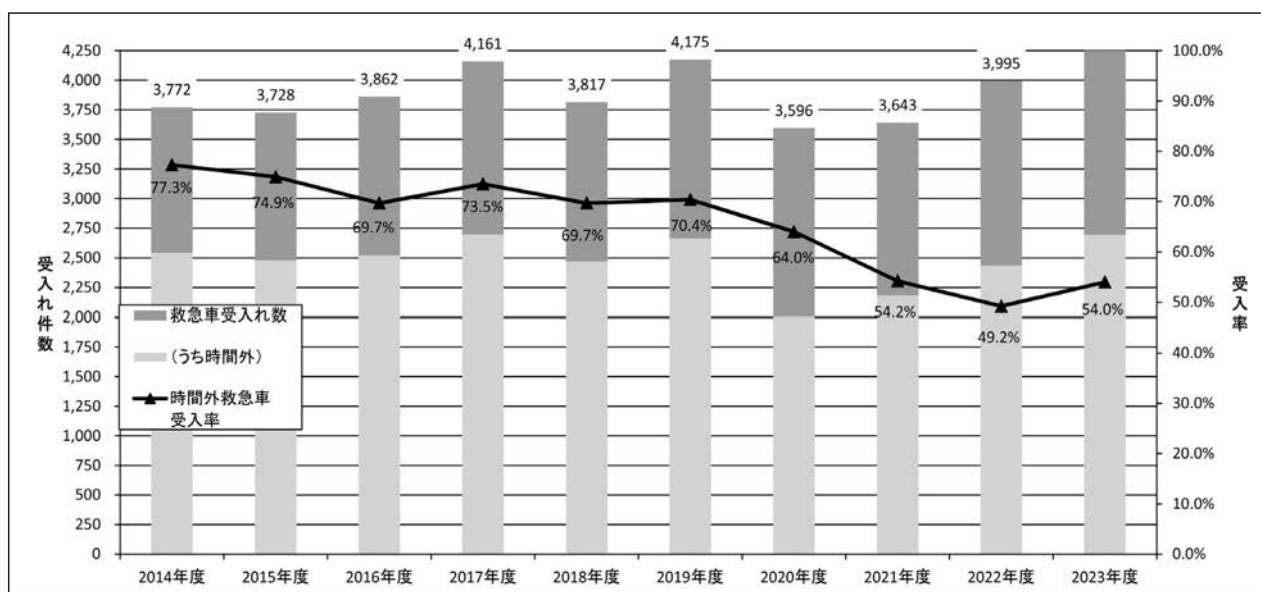
救急センター：急患当院での救急対応訓練、災害教育・訓練への参加を通じた地域医療を意識した救急対応・災害時対応体制への参画。それらを通して救急患者・救急車対応・災害時対応力の強化と救急患者対応力の強化による救急患者受け入れ対応力の向上。

現在、救急医師は働き方改革に伴う研修医の時間外就業の制限および、他科診療応援医師の派遣対応力の低下から、三次医療機関に集約されている傾向にある。そのため、二次医療機関における救急医師の確保は困難になることが予想される。

そこで、当院救急センターは、二次医療救急機関・地域支援病院として院内の該当診療科との連携だけではなく病院間連携を重要視していく必要がある。一次救急症例を地域医療機関同士で分散し合い、二次救急医療として地域病院からの紹介受け入れの体制構築の再編成をおこなうことで、機能的・合理的な相互の医療提供体制を計画する。

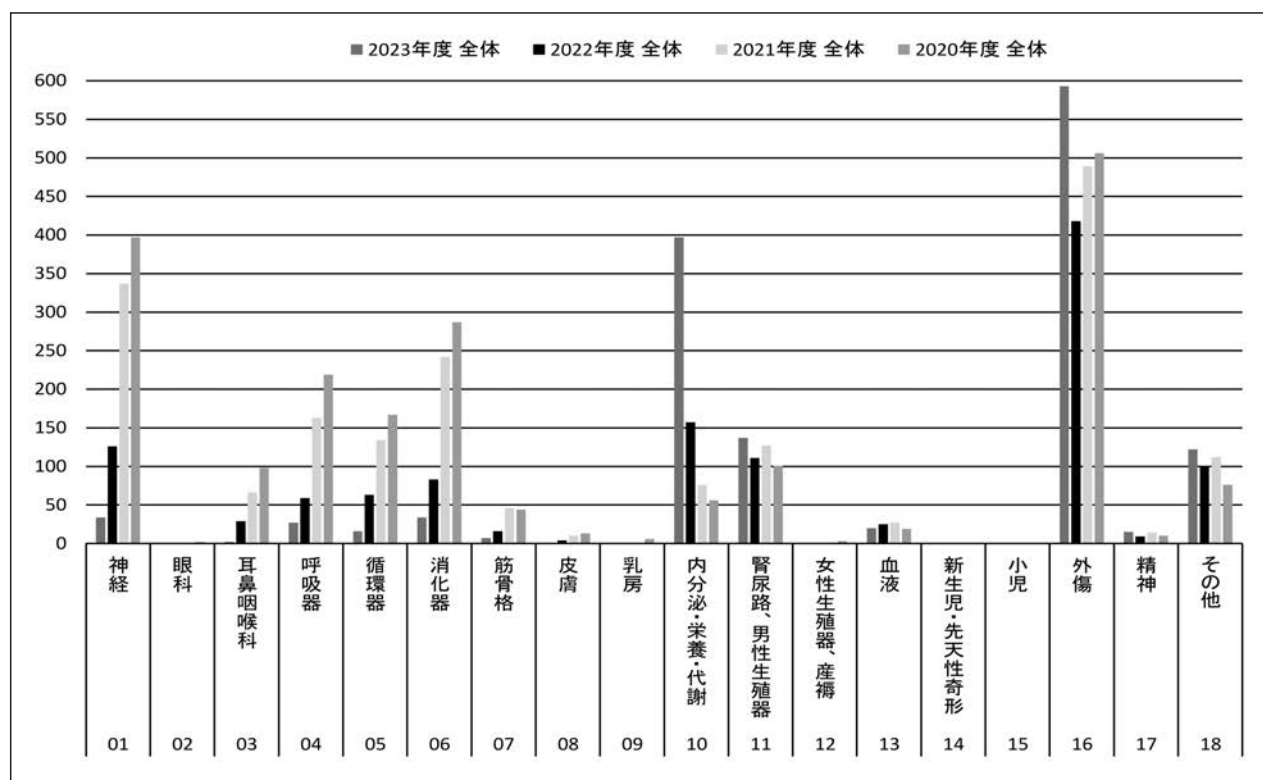
【救急車受入れ台数年次推移（2014年度～2023年度）】

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
救急車受入れ数	3,772	3,728	3,862	4,161	3,817	4,175	3,596	3,643	3,995	4,308
(うち時間外)	2,542	2,479	2,521	2,698	2,468	2,662	2,005	2,183	2,433	2,695
時間外救急車受入率	77.3%	74.9%	69.7%	73.5%	69.7%	70.4%	64.0%	54.2%	49.2%	54.0%



【2023年度 救急搬送入院 疾患別件数（DPC2桁分類）】

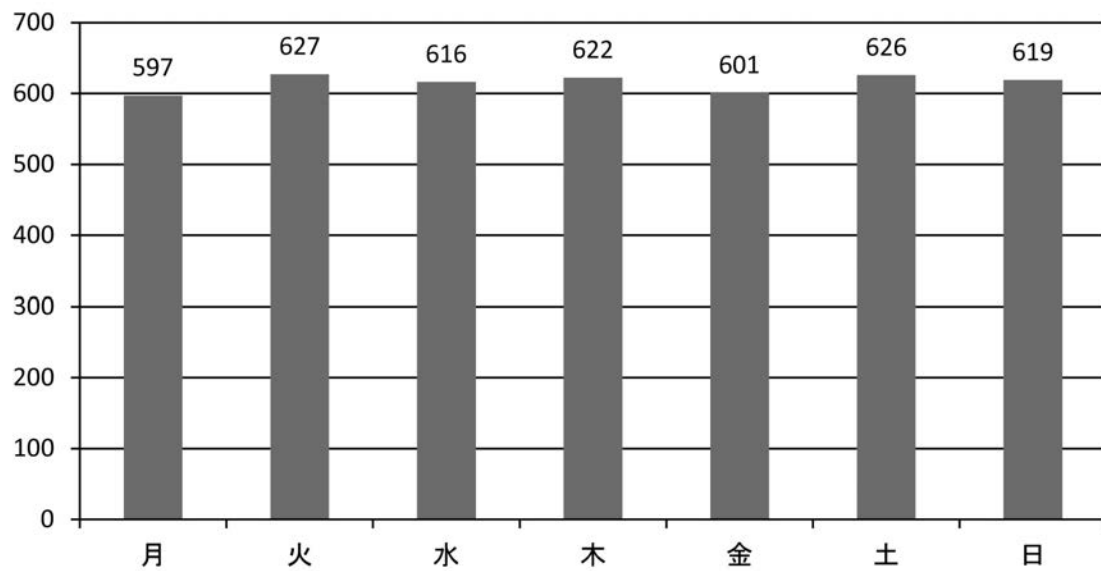
	2023年度			2022年度			2021年度			2020年度		
	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島	全体	福岡	糸島
01 神経	34	24	10	126	82	44	337	240	97	397	296	101
02 眼科	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	0
03 耳鼻咽喉科	2	2	0	29	24	5	66	60	6	98	82	16
04 呼吸器	27	22	5	59	38	21	163	134	29	219	179	40
05 循環器	16	13	3	63	47	16	134	112	22	167	132	35
06 消化器	34	30	4	83	63	20	242	191	51	287	242	45
07 筋骨格	7	6	1	16	13	3	46	39	7	44	34	10
08 皮膚	0	0	0	4	3	1	10	8	2	13	10	3
09 乳房	1	0	1	1	1	0	1	1	0	6	4	2
10 内分泌・栄養・代謝	397	286	111	157	111	46	76	60	16	56	47	9
11 腎尿路、男性生殖器	137	115	22	111	92	19	127	102	25	101	88	13
12 女性生殖器、産褥	1	1	0	1	1	0	1	0	1	3	3	0
13 血液	20	15	5	25	20	5	27	21	6	19	15	4
14 新生児・先天性奇形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15 小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16 外傷	593	472	121	418	324	94	489	384	105	506	391	115
17 精神	15	14	1	9	8	1	14	13	1	10	10	0
18 その他	122	98	24	99	81	18	112	90	22	76	61	15



【2023年度 曜日別救急搬送件数】

曜日	搬送件数	入院件数	入院率
月	597	335	56.1%
火	627	346	55.2%
水	616	349	56.7%
木	622	349	56.1%
金	601	337	56.1%
土	626	344	55.0%
日	619	330	53.8%
計	4,308	2,390	55.5%

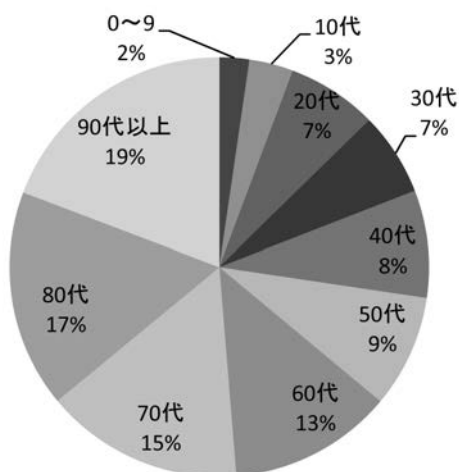
2023年度 曜日別救急搬送件数



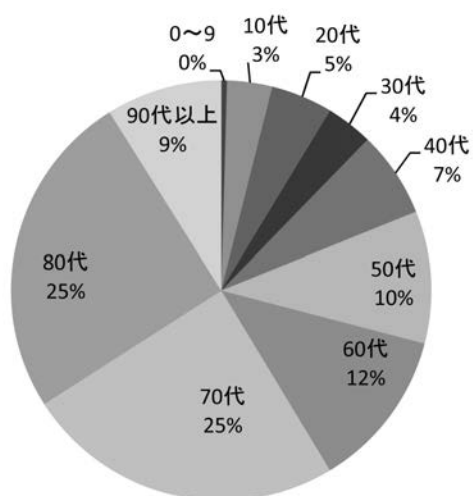
【2023年度 性別・年齢別の救急搬送件数】

年齢	全体			男性			女性		
	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率
0～9	11	1	9.1%	9	1	11.1%	2	0	0.0%
10代	105	14	13.3%	72	10	13.9%	33	4	12.1%
20代	175	48	27.4%	98	25	25.5%	77	23	29.9%
30代	143	36	25.2%	74	21	28.4%	69	15	21.7%
40代	240	78	32.5%	137	49	35.8%	103	29	28.2%
50代	368	126	34.2%	210	83	39.5%	158	43	27.2%
60代	447	222	49.7%	254	132	52.0%	193	90	46.6%
70代	948	571	60.2%	507	316	62.3%	441	255	57.8%
80代	1,235	813	65.8%	520	353	67.9%	715	460	64.3%
90代以上	636	481	75.6%	184	146	79.3%	452	335	74.1%
全体	4,308	2,390	55.5%	2,065	1,136	55.0%	2,243	1,254	55.9%

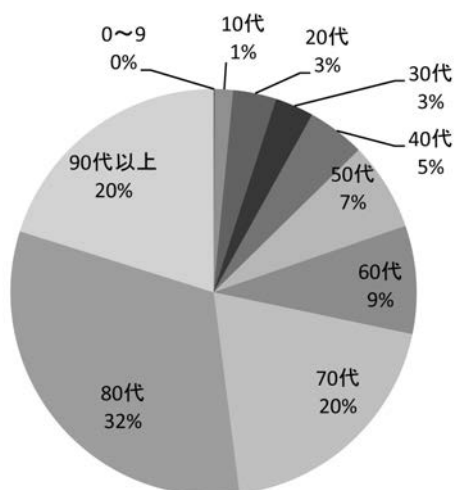
救急搬送件数年齢別割合（全体）



救急搬送件数年齢別割合（男性）



救急搬送件数年齢別割合（女性）



【2023年度 救急隊別搬送数と入院率】

			2023年度									2022年度		
			時間外			時間内			計			計		
			搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率	搬送数	入院数	入院率
			2,695	1,395	51.8%	1,613	995	61.7%	4,308	2,390	55.5%	3,995	2,181	54.6%
福岡市消防局	西	西 本 署	423	206	48.7%	253	140	55.3%	676	346	51.2%	601	329	54.7%
		姪 浜 出 張 所	372	188	50.5%	205	116	56.6%	577	304	52.7%	582	279	47.9%
		壱 岐 出 張 所	463	242	52.3%	254	156	61.4%	717	398	55.5%	677	367	54.2%
		元 岡 出 張 所	248	118	47.6%	108	56	51.9%	356	174	48.9%	328	151	46.0%
		計	1,506	754	50.1%	820	468	57.1%	2,326	1,222	52.5%	2,188	1,126	51.5%
	早良	早 良 本 署	171	88	51.5%	130	71	54.6%	301	159	52.8%	262	139	53.1%
		田 隈 出 張 所	195	99	50.8%	122	82	67.2%	317	181	57.1%	229	123	53.7%
		東 入 部 出 張 所	113	67	59.3%	59	36	61.0%	172	103	59.9%	117	65	55.6%
		計	479	254	53.0%	311	189	60.8%	790	443	56.1%	608	327	53.8%
	城南	城 南 本 署	49	23	46.9%	31	22	71.0%	80	45	56.3%	57	32	56.1%
		飯 倉 出 張 所	120	54	45.0%	73	44	60.3%	193	98	50.8%	193	116	60.1%
		計	169	77	45.6%	104	66	63.5%	273	143	52.4%	250	148	59.2%
		その他	88	42	47.7%	83	57	68.7%	171	99	57.9%	204	133	65.2%
	合 計		2,242	1,127	50.3%	1,318	780	59.2%	3,560	1,907	53.6%	3,250	1,734	53.4%
糸島市消防本部	糸島	糸島消防本部	162	98	60.5%	110	83	75.5%	272	181	66.5%	255	157	61.6%
		前原出張所	129	78	60.5%	88	71	80.7%	217	149	68.7%	223	145	65.0%
		志摩出張所	92	55	59.8%	63	41	65.1%	155	96	61.9%	179	101	56.4%
		二丈出張所	69	35	50.7%	34	20	58.8%	103	55	53.4%	85	42	49.4%
		計	452	266	58.8%	295	215	72.9%	747	481	64.4%	742	445	60.0%
	その他		1	2	0.0%	0	0	0.0%	1	2	200.0%	3	2	66.7%

● 糖尿病内科

岩瀬 正典

I：構成員

糖尿病センター長：岩瀬 正典

(白十字会特任理事、臨床研究センター長、診療部支援センター長)

糖尿病内科部長：井手 均 (感染制御部部長、栄養委員会委員長)

医員：平田 詩乃

医員：堀内 俊輔

医員：徳田 信二

【医師の動向】

岩瀬は糖尿病センター長として地域の糖尿病診療レベルの向上に努めるとともに、医師働き方改革への対応、コロナワクチン接種業務、内科専門医研修プログラムの統括を行った。井手は糖尿病患者の診療に加えて、2023年度の当院救急搬送患者を最も多く診療した。さらに、感染制御部部長として病院の感染対策を、栄養療法委員会委員長として病院の栄養管理とNST回診を行っている。また、研修医や福岡大学の学生指導も熱心に行っている。平田医師は糖尿病学会認定専門医として外来診療を中心に行った。堀内医師は内科専攻医3年目として積極的に後輩の指導を行い、患者を診療した。徳田医師は研修医終了直後当院に赴任し、この1年で多くの臨床経験を積んだ。両名とも日本専門医機構の定める福岡県の専攻医シーリング（医師不足地域での勤務義務）のため1年ごとの異動となった。高木医師（非常勤医師）糖尿病学会認定専門医として週2日の糖尿病外来を継続した。

II：臨床活動

糖尿病センターの項をご参照ください。

III：業績

九州大学と共同で福岡県糖尿病患者データベース研究を継続して行い、日本糖尿病学会でシンポジストとして今までの研究成果を総括した。さらに、Gitelman症候群の遺伝子変異を東京医科歯科大学腎臓内科で解析していただき症例報告を行った。また、糖尿病患者にみられた可逆性後頭葉白質脳症の診断においてASL画像の有用性を症例報告した。

【論文発表】（当院所属以外の著者省略）

- 1) Incidence and risks of coronary heart disease and heart failure in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: The Fukuoka diabetes registry. Iwase M, Ide H, et al. Diabetes Res Clin Pract. 2023 Jul; 201: 110732.
- 2) Sex differences in cardiovascular risk, lifestyle, and psychological factors in patients with type 2 diabetes: the Fukuoka Diabetes Registry. Iwase M, et al. Biol Sex Differ. 2023 May 22; 14(1): 32.
- 3) 著明な高血糖による入院を契機に診断された2型糖尿病合併Gitelman症候群の1例. 岩瀬正典、井手 均、牟田大毅、青谷領一郎、平田詩乃、高木可南子、木村廣志、伊禮美央ら 糖尿病 2023年 66巻 2号 p.162-170.

- 4) ASL灌流像が診断に有用であった可逆性後頭葉白質脳症 (PRES) 合併 2 型糖尿病の 1 例.
牟田大毅、岩瀬正典、井手 均、青谷領一郎、平田詩乃、高木可南子、酒匂哲平、由比智裕、
宇都宮英綱ら 糖尿病 2023年 66巻 9号 p.697-704

【学会発表】 (当院所属以外の著者省略)

- 1) シンポジウム 'Big Data, Real World 研究が変える糖尿病臨床' 福岡県糖尿病患者データベース
研究 (Fukuoka Diabetes Registry : FDR). 岩瀬正典ら 第66回日本糖尿病学会年次学術集会,
鹿児島, 2023.5.
- 2) 2 型糖尿病患者における乳製品摂取量とメタボリックシンドローム, 慢性腎臓病の関連 : Fukuoka
Diabetes Registry (FDR). 岩瀬正典, 井手 均ら 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 鹿児島,
2023.5.
- 3) 気腫性胆嚢炎と糖尿病性ケトアシドーシスを合併した 1 型糖尿病の一症例. 堀内俊輔、
青谷領一郎、徳田信二、平田詩乃、高木可南子、井手 均、岩瀬正典、谷 博樹ら 第61回日本
糖尿病学会九州地方会, 熊本, 2023.12.

IV：現状と展望

- 1) 日本専門医機構による福岡県シーリングの実施により若手医師の 1 年交代が定着している。糖
尿病のような慢性疾患管理での 1 年交代は外来患者さんの不満が高まるため若手医師の外来診
療の担当が難しくなり、入院診療を中心にせざるを得ない。
- 2) 日本専門医機構により糖尿病専門医と内分泌専門医が統合されたため当院においても内分泌疾
患の診療を再開した。今回、腫瘍部位不明の原発性アルドステロン症に対して放射線科で副腎静
脈サンプリングを行い、腫瘍部位を同定後、泌尿器科にて腹腔鏡下に腫瘍を摘出できた。今後と
も九州大学や福岡大学の専門医 (非常勤) の指導のもと内分泌疾患の診療を拡大していく予定で
ある。

● 脳・血管内科

熊井 康敬

I：構成員

副院長：熊井 康敬

部長：由比 智裕

医長：徳永 敬介 脳血管内治療科 兼任

医長：中西 泰之

医長：坂井 翔建 脳血管内治療科 兼任

医療情報管理・経営企画センター長：入江 克実

II：臨床活動

外来：1698名

入院：481名

検査：MRI検査 661件 (脳血管内科)

頸動脈エコー 1100件 (当院)

脳血管造影 15件（脳・血管内科）
手術：血栓回収術 25件（脳血管内治療科）
頸動脈ステント留置術（CAS：carotid artery stenting）13件（脳血管内治療科）

Ⅲ：業績

【論文発表】

- 1) Association of the timing of atrial fibrillation detection and insular involvement with the risk of embolic events after acute ischemic stroke.
Tokunaga K, Toyoda K, Kimura S, Minematsu K, Yasaka M, Okada Y, Yoshimura S, Koga M, SAMURAI-NVAF and RELAXED investigators, Ann Neurol, 2024 ; 95 : 338-346.
- 2) Kommerell憩室内の血栓による脳梗塞が疑われた超高齢患者の1例.
水戸大樹、松岡幹晃、清原卓也、由比智裕、熊井康敬、杉森宏、脳卒中505-509, 2023.

【学会発表】

- 1) COVID-19蔓延による准高齢者の死亡トレンドの変化.
入江克実.
第65回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2023.6.16.
- 2) 当院医師の医療秘書への認識に関するアンケート調査.
熊井康敬、加治木和恵、淵野泰秀.
第25回日本医療マネジメント学会学術総会, 横浜, 2023.6.23.
- 3) テキストマイニングを用いた新築移転による入院満足度の変化.
入江克実.
第64回全日本病院学会, 広島, 2023.10.15.
- 4) COVID-19蔓延に伴う癌死亡数変動の世代による相違.
入江克実.
第61回日本医療・病院管理学会学術総会, 東京, 2023.11.4.
- 5) もの忘れ外来におけるMMSE下位項目と脳微小出血（CMBs）の関連.
入江克実.
第42回日本認知症学会学術集会, 奈良, 2023.11.24.
- 6) 月次死亡数を用いたCOVID-19蔓延による脳卒中死亡トレンドの検討.
入江克実.
STROKE2024 第49回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2024.3.7.
- 7) 脳梗塞発症後、Carotid webの新たな血栓形成に頸動脈ステント術が有効であった一例.
熊井康敬、徳永敬介、坂井翔建、福田健治、中西泰之、由比智裕、高木智博、神崎由起、藤原史明、林 修司、井上 亨.
STROKE2024 第49回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2024.3.7.
- 8) 脳梗塞急性期患者における、体重変化と退院時日常生活動作（ADL）の関連.
由比智裕、熊井康敬、坂井翔建、中西泰之、徳永敬介、高木智博、神崎由起、藤原史明、福田健治、林 修司、井上 亨.
STROKE2024 第49回日本脳卒中学会学術集会, 横浜, 2024.3.7.

【講演会、研究会】

- 1) 脳卒中相談窓口の運用状況.
由比智裕.
脳卒中地域連携講演会, 福岡, 2023.9.6.

- 2) 脳卒中急性期治療に対する取り組みと地域連携について。
坂井翔建。
西区・早良区・糸島市の脳卒中診療を考える会，福岡，2023.10.1.
- 3) 脳卒中治療ガイドライン改訂トピック～抗血栓療法を含めて～。
熊井康敬。
福岡県脳卒中医療連携，Web Seminar，福岡，2023.12.1.
- 4) 各専門医からみた高中性脂肪血症治療の現状。
熊井康敬。
高中性脂肪血症治療 Up to Date，福岡，2024.1.23.

【座長】

- 1) ランチョンセミナー 抗凝固療法新時代における課題と戦略。
熊井康敬。
第66回日本脳循環代謝学会学術集会，福岡，2023.11.11.
- 2) フレイル・認知症診療と人参養栄湯：新たな臨床エビデンス。
熊井康敬。
フレイルと漢方を考える会－高齢者医療における漢方の可能性－，福岡，2024.1.24.

IV：現状と展望

【入院患者内訳】

脳血管内科診療実績（入院）					
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
急性期虚血性血管障害					
アテローム血栓性脳梗塞	34	21	34	35	43
ラクナ梗塞	38	39	29	30	31
心原性脳塞栓症	43	33	53	57	62
その他の脳梗塞	125	143	138	96	118
一過性脳虚血発作（TIA）	27	22	7	9	11
虚血性脳血管障害精査	29	36	32	18	23
小 計	296	294	293	245	288
脳梗塞以外の疾患	249	244	194	223	193
総入院数	545	538	487	468	481
*超急性期 rt-PA 血栓溶解療法	25	19	18	10	12

脳・血管内科では、福岡市西区周辺から糸島市にかけて虚血性脳卒中患者を主体に対応しています。2022年10月に福岡市西区では初めて一次脳卒中センター（Primary Stroke Center：PSC）コア施設に認定されました。当科は脳神経外科と脳血管内治療科と協力して脳卒中診療を展開し、2022年に多職種協働で脳卒中相談窓口を設置しました。これからも、当科は地域の脳卒中診療に貢献できるように努めて参ります。

● 消化管内科

井浦 登志実

I：構成員

理事長：富永 雅也

内視鏡センター長：井浦登志実

部長：工藤 哲司

医員：岡村 括揮

医員：中尾 凜

II：臨床活動

★ 近隣医療機関よりの紹介件数

774件（2023年度）

733件（2022年度）

786件（2021年度）

★ 入院患者数

589名（2023年度）

★ 当科（当センター）で検査、治療にあたっている疾患

上下部消化管悪性腫瘍（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸）

上下部消化管良性腫瘍（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸）

上下部消化管出血（胃十二指腸潰瘍、憩室出血、虚血性腸炎など）

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）

感染性腸炎（細菌性、ウイルス性）

ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法（保険適応疾患に限る）

逆流性食道炎、急性・慢性胃炎、過敏性腸症候群、便秘など

消化管異物、胃ろう造設・交換

★ 検査と治療実績（2023年4月1日～2024年3月31日・カルテベース）

検査：上部消化管内視鏡検査 2099例

下部消化管内視鏡検査 1300例

治療：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）30例

内視鏡的大腸ポリープ切除術（EMR＋ポリペクトミー）508例

内視鏡的止血術 151例

内視鏡的異物除去術 8例

胃ろう造設、交換 39例

III：業績

なし

IV：現状と展望

当科は日本消化器内視鏡学会の指導医2名、専門医3名、学会員2名の医師が消化管疾患の診療に従事しております。地域の先生方に支えていただき、多数の患者さんをご紹介いただいております。2023年度の診療実績としては、紹介件数は774件、上部消化管内視鏡検査は2,099例、下部消化管内視鏡検査は1,300例、早期胃癌の内視鏡的粘膜剥離術（ESD）は30例、大腸腫瘍の内視鏡的切除術（EMR、ポリペクトミー）は508例、内視鏡的止血術は151例、異物除去術は8例、胃瘻造設と交換

は39例でした。新型コロナウイルス感染症は「5類」に移行しましたが、当科では引き続き日本消化器内視鏡学会の提言に基づいた十分な感染防止対策を施しており、患者さんと、ご紹介いただいた先生方にご満足いただける医療を提供すべく努力しております。

● 肝臓内科

内田 洋太郎

I：構成員

医長：内田 洋太郎

医員：姫野 修一

II：臨床活動

外来：2996名

入院：290名

【入院患者内訳】

急性肝炎、肝障害	22例
慢性肝炎	5例
肝硬変症（腹水等、肝不全）	62例
食道静脈瘤	34例
肝癌/肝腫瘍	38/5例
胆道系疾患（悪性腫瘍含む）	13例
膵炎	13例
その他	98例
入院総患者数	290例

【肝臓内科処置】

内視鏡的静脈瘤治療（EVL・EIS）	27例
ラジオ波焼灼術（RFA）	5例
肝動脈化学塞栓術（TACE）	15例
肝生検	14例
腹水濾過濃縮再静注法（CART）	40例

III：業績

なし

IV：現状と展望

近隣の諸先生方におかれましては、患者様をご紹介頂き誠に感謝しております。

現在、肝臓内科は二人体制で診療を行っており、肝疾患を中心に、胆膵疾患も一部診療対象としております。胆膵疾患の多くは当院では外科的処置を要するものが多いですが、外科医師と連携し遅滞なく診療を行っております。

肝疾患の診療内容は、慢性肝疾患・肝硬変合併症・肝癌に大別されます。

慢性肝疾患の原因は、ウイルス性、代謝性、自己免疫性が主なものです。国内にて慢性肝炎の多くを占めていたC型慢性肝炎は、インターフェロンフリー療法の開始によりますます患者数は減ってはいるものの、依然として紹介頂く機会が多く、当院でも可能な限り外来通院にて抗ウイルス療法を行っております。その他の肝疾患に対しては診断のため積極的に肝生検も行い、診断・治療を行っております。

肝硬変の方に対しては合併症を中心に診療しております。主なものとしては、静脈瘤（食道、胃、直腸など）、胸腹水、肝性脳症および肝癌になります。静脈瘤破裂に対しては24時間体制で対応を行っております。難治性の胸腹水に対しては利尿剤を中心に治療を行っておりますが、必要によりCART（腹水濾過濃縮再静注法）や外科に相談し腹腔静脈シャント療法（Denver shunt）を行う方もいらっしゃいます。

肝癌の治療には、外科的治療、肝動脈化学塞栓療法、ラジオ波焼灼術、化学療法、放射線療法など

があります。当科では肝動脈化学塞栓療法（放射線科と共同）、ラジオ波焼灼術および化学療法を行っております。

最近では糖尿病などを基礎疾患とした非アルコール性脂肪肝炎（NASH）を背景肝に肝硬変や肝癌に至る患者様も増えてきております。発癌率の高い方を拾い上げるにはまだ基準となるものも少ないですが、線維化が進行している方や肝硬変の方は当科外来では定期的にフォローしておりますので、脂肪性肝炎が疑われる方がいらっしゃいましたら、一度ご相談ください。

今後とも近隣の先生方にご指導頂くとともに、地域医療の充実に少しでも貢献できるよう尽力していく所存です。白十字病院肝臓内科を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

● 腎臓内科

木村 廣志

I：構成員

透析センター長：平野 直史

部長：木村 廣志

副部長：酒匂 哲平

医員：松本 優子

遠矢 遥

中尾能理子

櫻井 美菜

II：臨床活動

入院 435 名（腎臓内科 336 名、内科総合 99 名）

慢性糸球体腎炎	7 名	低アルブミン血症	2 名
ネフローゼ症候群	8 名	腎盂腎炎	3 名
急性腎不全	12 名	多発性嚢胞腎	2 名
慢性腎不全	61 名	腎生検	8 名
血液透析導入	52 名	腎臓病教室目的の入院	26 名
腹膜透析導入	1 名	内シャント造設術	50 名
血液透析患者の合併症	48 名	長期型カテーテル留置術	8 名
腹膜透析患者の合併症	2 名	腹膜カテーテル留置術	1 名
高カリウム血症	13 名	SMAP	0 名
低カリウム血症	6 名	PET検査	6 名
低ナトリウム血症	5 名	シャントPTA（入院）	25 名
高ナトリウム血症	0 名	シャントPTA（外来）	35 名

III：業績

【学会発表】

- 1）当科で後天性血友病Aと診断した慢性腎臓病の一例：松島怜央、木村廣志、松本優子、酒匂哲平、中島勇太、平野直史（第53回日本腎臓学会東部学術大会、仙台、2023.9.16）
- 2）慢性腎臓病に合併した後天性血友病A二症例の臨床的検討：松島怜央、木村廣志、松本優子、酒匂哲平、中島勇太、平野直史（第53回日本腎臓学会西部学術大会、岡山、2023.10.8）
- 3）診断より8年後に外科的手術に至った原発性副甲状腺機能亢進症合併血液透析患者の一例：松本優子、木村廣志、櫻井美奈、遠矢遥、酒匂哲平、平野直史（第55回九州人工透析研究会総会、別府、2023.11.26）

Ⅳ：現状と展望

腎臓内科では、腎臓内科常勤医 6 名（腎臓専門医 4 名）で、平日午前中に毎日外来診療を提供しています。国民の 8 人に 1 人は慢性腎臓病（CKD）と診断され、CKD ステージは 5 段階に分類されます。CKD 外来では、腎臓の機能が低下しているが、まだ進行を遅らせる可能性がある段階で患者さんを管理し、適切な治療やケアを提供することを目的としています。腎臓病教室は入院受講形式で、年 4 回開催しています。全 3 日間の日程で、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士など専門のスタッフが CKD の治療や運動療法についてご説明いたします。教室終了後も外来で保存期教育を継続し、入院および外来で一貫した保存期支援が確立されています。

2023 年 4 月より腎療法選択外来を毎週火曜日に開設しました。CKD ステージ G5 に到達した場合は、生命の恒常性を維持するために腎代替療法の選択が必要となります。腎療法選択外来では慢性腎臓病療養指導看護師を中心に患者さんの生活背景や価値観に寄り添いながら、最良な治療方法を一緒に考え支援しています。

今後高齢化が進み、CKD 患者の増加が見込まれます。地域医療の更なる貢献を目指し、非糖尿病患者さんの透析進展予防にも尽力いたします。

● 心臓血管内科

三戸 隆裕

Ⅰ：構成員

心臓血管内科部長：三戸 隆裕

心臓血管内科医長：矢野 雅也

医員：松崎 将樹

医員：板東 翔

Ⅱ：臨床活動

		2021年度	2022年度	2023年度
カテーテル検査・治療	PCI	106 件	127 件	135 件
	内 Diamondback、ロータブレーター	20 件	5 件	9 件
	PTA	1 件	1 件	0 件
	CAG	250 件	294 件	288 件
	心筋生検		1 件	1 件
	心のうドレナージ	1 件	1 件	2 件
不整脈検査治療	アブレーション			10 件
	ペースメーカー植込	21 件	17 件	25 件
	内リードレスペースメーカー	6 件	2 件	1 件
	ペースメーカー交換	4 件	13 件	8 件
	心臓電気生理学的検査		1 件	1 件

		2021年度	2022年度	2023年度
入院患者数		487 名	611 名	636 名
虚血性心疾患	虚血性心疾患 (急性冠症候群を除く)	102 名	142 名	141 名
	急性冠症候群	36 名	38 名	44 名

うっ血性心不全		92 名	107 名	107 名
弁膜症		9 名	9 名	9 名
心膜心筋炎および心筋症		5 名	6 名	3 名
動脈疾患	閉塞性動脈硬化症	1 名	2 名	2 名
	大動脈解離	4 名	8 名	8 名
	大動脈瘤	0 名	1 名	0 名
静脈疾患	静脈血栓塞栓症	6 名	8 名	7 名
不整脈	房室ブロック・洞不全症候群	19 名	33 名	31 名
	心房細動・心房粗動・発作性上室頻拍	9 名	16 名	22 名
	心室頻拍・心室性期外収縮	1 名	2 名	2 名
睡眠時無呼吸症候群		9 名	13 名	11 名

Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 関節リウマチ合併心外膜炎により大量の心嚢液貯留を認めた一例：松崎将樹、三戸隆裕、板東 翔、有永豊識、今泉朝樹、矢野雅也、江石清行、福岡大学病院心臓血管内科学講座
三浦伸一郎
(第71回日本心臓病学会学術集会、東京、2023.9.8)

Ⅳ：現状と展望

2023年度は、不整脈に対する効果的な治療法として確立されているカテーテルアブレーションを開始した、当科にとって大きな一歩を踏み出した1年でした。これは、心臓の中での異常な電氣的興奮の巡回や撃発刺激を生じている心筋に対し、カテーテルの先端から高周波エネルギーを流し焼灼するというものです。これにより、不整脈で困っている患者さんの治療もほぼ当院で完結できるようになりました。

加えて、虚血性心疾患に対するPCI（冠動脈インターベンション）において、ロータブレードというデバイスも導入し、高度石灰化病変に対する石灰化の切削が更に可能となりました。これまでダイヤモンドバックという石灰化切削デバイスがあったのですが、それでは治療（石灰化の切削）が不可能な患者さんが多くいました。ロータブレードにより、そのような患者さんに対する治療も当院で遂行できるようになりました。

これらを初めとした高度医療も提供できるようになったことで、福岡市西部、糸島地区の循環器診療、循環器救急に尽力できたものと自負しております。

なお、2024年度は、学会発表や論文執筆など、学術的な部分にも力を入れていきたいと考えています。

● 呼吸器内科

松本 武格

Ⅰ：構成員

部長：松本 武格

医長：矢次 博

Ⅱ：臨床活動

入院：203名（死亡退院16名）

【入院疾患内訳】

感染性肺炎・気管支炎	81	(8)
誤嚥性肺炎	10	(3)
慢性閉塞性肺疾患	0	
喘息	8	
気管支拡張症	0	
間質性肺炎	4	
肺悪性腫瘍	8	(1)
肺悪性腫瘍疑い	2	
胸膜炎・膿胸・胸水	2	(1)
気胸	1	
肺膿瘍	0	
結核	0	
肺非結核性抗酸菌症	0	
声帯浮腫	0	
喀血	0	
呼吸リハビリ	0	
縦隔気腫（特発性）	0	
一般内科	85	(3)

【呼吸器内科処置】

胸水穿刺	6
胸腔ドレナージ	0
IPPV	2
NIPPV	2

Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) スエヒロタケによって発症したアレルギー性気管支肺真菌症の1例：松本武格
（(第344回) 日本内科学会 九州地方会 2024.1.27）

Ⅳ：現状と展望

当院の呼吸器内科では気管支喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎といった特有の疾患と呼吸器感染症など呼吸器疾患全般にわたって診療をおこなっています。

胸部異常陰影の診療にあたっては放射線科医と連携を取りながら、患者さんにとってより最適な診療をおこなうことを目指しています。

悪性疾患（特に肺がん）については、近隣の病院と連携して検査、治療をおこないます。

● 放射線科

中島 力哉

Ⅰ：構成員

顧問：宇都宮 英綱

放射線科部長：中島 力哉

IVR部長：納 彰伸

医員：豊島 宏

Ⅱ：臨床活動

検査：

	2021年度	2022年度	2023年度
CT検査	13,328 件	14,273 件	15,099 件
MRI検査	3,863 件	4,404 件	4,603 件
RI検査	381 件	423 件	431 件
IVR検査	18 件	16 件	29 件

Ⅲ：業績

【論文発表】

- 1) ASL灌流画像が診断に有用であった可逆性後頭葉白質脳症（PRES）合併2型糖尿病の1例.
牟田大毅、岩瀬正典、井手 均、青谷領一郎、平田詩乃、高木可南子、酒匂哲平、由比智裕、
宇都宮英綱、大隈俊明、北園孝成（糖尿病. 2023 ; 66(9) : 697-704)
- 2) 子宮円索動脈の塞栓を要した胎盤ポリープの1例. 本田 学、高山幸久、納彰伸¹⁾、津田真司、
後藤和貴、藤田一彰、浦川博史、吉満研吾 福岡大学医学部放射線教室、白十字病院放射線科¹⁾
(IVR会誌 Jpn J Intervent Radiol 38 : 112-115, 2023)

【学会発表】

- 1) 血管内治療後に遅発性に生じた症候性の多発性白質脳症の2例. 納彰伸、藤井 暁、案浦清高、
朔 裕子、品川喜紳、豊島 宏、中島力哉、宇都宮英綱（第197回日本医学放射線学会九州地方
会.講演、沖縄、2023.6）
- 2) 当院におけるLEN-TACEの合併症に関する報告. 藤田一彰¹、津田真司¹、後藤和貴¹、本田 学¹、
村山 僚¹、納彰伸²、高山幸之¹、吉満研吾¹
1 福岡大学病院放射線科 2 白十字病院放射線科（第45回九州IVR研究会 アクロス福岡、2023.
12.16）
- 3) 硬膜境界細胞層（dural border cell layer : DBCL）からみた成人の慢性硬膜下血腫/液貯留腔の
発生機序. 納彰伸、宇都宮英綱、豊島 宏、中島力哉、神崎由起、福田健治、林 修司、井上 亨
（第53回日本神経放射線学会. ポスター講演 大宮、2024.2）

Ⅳ：現状と展望

CT、MRI、RI検査及び読影、血管造影検査及びTACE、動脈止血等のIVRを施行しています。
院内他科との連携を密にして、臨床に役立つ診断・治療を行うよう努力しています。

また、高度画像センターの中心的役割を担うべく、常に最先端技術を意識した医療画像診断提供環
境の構築を目指します。

当院内各診療科や近隣クリニックの先生方が、診断・治療を進める上で必要な診療画像情報の提供
を、迅速かつ正確に行う事を目指します。

● 病理診断科

大谷 博

Ⅰ：構成員

部長：大谷 博

非常勤医師：青木 光希子

非常勤医師：菊島 百香

Ⅱ：臨床活動

病理組織診断件数：3100

術中迅速診断件数：74

細胞診件数：556

病理解剖：1

Ⅲ：業績

【学会発表・講演】

- 1) 第48回 細胞診断学セミナー 2023年7月18日～8月14日, Web開催
各論講義：泌尿器, 鏡検実習 (2023年8月5-6日, 東京)
大谷 博
- 2) 第31回日本乳癌学会学術総会 2023年6月29日, 横浜
松尾文恵、古賀晶子、大谷 博
「当院における乳癌脳転移症例の検討」

【座長】

- 1) 第112回日本病理学会総会 2023年4月14日, 下関
ポスター (一般) 47 泌尿器-1
6 演題
座長：大谷 博
- 2) 第62回日本臨床細胞学会秋期大会 2023年11月4日, 福岡
ワークショップ 6 私が最も診断に苦慮した尿細胞診症例
座長：大谷 博、三浦弘守
- 3) 第21回日本乳癌学会九州地方会 2023年9月30日、10月1日, 福岡
座長：大谷 博、赤司桃子
口演、病理 2、O42～O47
- 4) 第22回泌尿器細胞診カンファレンス in 岡山ー 2024年2月17日, 倉敷
シンポジウム：パリシステムを極める
座長：大谷 博, 林 博之

【社会活動】

- ・日本病理学会評議員
- ・日本臨床細胞学会評議員
- ・日本臨床細胞学会九州連合会雑誌編集委員、広報委員
- ・福岡県臨床細胞学会理事
- ・泌尿器細胞診カンファレンス監事
- ・福岡乳腺カンファレンス世話人 (病理解説担当)

Ⅳ：現状と展望

- ・臨床活動は増加傾向にある。難易度の高い手術件数が増えたことにより、難易度の高い病理診断が増加した。
- ・センター機能の活発化により、心臓、血管、脳、関節等の検体が増え、新たに脳神経病理カンファレンスを開始した。
- ・治療に直結するコンパニオン診断の件数も年々増加し、検体の取り扱い、特に臓器の固定時間の厳密な管理が求められている。病理組織分類は細分化、複雑化している。遺伝子検索なしでは診断できない症例は福岡大学に精査を依頼するか、コンサルテーションにより対応している。
- ・今後もこの傾向は継続するものと思われ、学会・学術活動、福岡大学との綿密な連携、病理スタッフとの情報共有により誤解釈されることのない丁寧で精度の高い診断を心掛けていきたい。

外科系診療実績

● 外科

外科診療部長 谷 博樹

I：構成員

病院長：渕野 泰秀

肝胆膵外科部長：谷 博樹

消化管外科部長：浅生 義人

部長：大石 純

副部長：和田 英雄

医長：武富 啓能

医員：富永 孝亮

II：臨床活動

入院：1071名

【手術症例数】

2023年度外科手術症例数

臓 器	手術術式	症例数	腹腔鏡数
食道・胸部	食道悪性腫瘍手術	0	
	胸腔鏡下肺切除術	0	
	食道裂孔・横隔膜ヘルニア手術	0	
胃・十二指腸	局所切除術（鏡視下）	1	(1)
	幽門側胃部分切除術（鏡視下）	13	(10)
	噴門側胃部分切除術	0	
	胃全摘術（鏡視下）	3	(2)
	胃空腸バイパス術（鏡視下）	5	(4)
	穿孔性潰瘍の閉鎖（鏡視下）	4	(2)
小腸・大腸	結腸部分切除術（鏡視下）	25	(21)
	半結腸切除術（鏡視下）	15	(13)
	前方切除術（鏡視下）	16	(16)
	Miles手術	0	
	イレウス解除術（鏡視下）	14	(7)
	経肛門的直腸腫瘍切除術	0	
	小腸切除術	10	
	虫垂切除術（鏡視下）	59	(57)
	人工肛門造設術（鏡視下）	9	(8)
	人工肛門閉鎖術（鏡視下）	7	(2)
	ハルトマン手術（鏡視下）	10	(2)
	バイパス術	2	
肝臓	肝切除術（鏡視下）	18	(4)
	肝嚢胞天蓋切除術（鏡視下）	2	(2)
胆嚢・胆道	胆嚢摘出術（鏡視下）	125	(123)
	胆管切除術	0	
	総胆管切開切石術（鏡視下）	2	(1)

	胆管空腸バイパス術	1
膵臓	膵頭十二指腸切除術	12
	膵尾側切除術（鏡視下）	3 (1)
	バイパス術	0
その他	単径・大腿ヘルニア根治術（鏡視下）	108 (99)
	腹壁癒痕・臍ヘルニア根治術（鏡視下）	14 (4)
	閉鎖孔ヘルニア根治術（鏡視下）	5 (3)
	腹膜炎手術（鏡視下）	1 (1)
	痔核根治術[PPH]	4
	直腸脱手術	1
	その他（鏡視下）	41 (18)
	合計	528
		うち鏡視下手術 (401)

【特殊検査・治療】

検査・治療	症例数
経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）	14 (外科施行症例のみ)
内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）	272 (詳細は胆石症センターの項参照)
経皮経肝胆嚢・胆管ドレナージ（PTGBD,PTBD）	9 (詳細は胆石症センターの項参照)

Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 当院で経験した盲腸捻転症の2症例：武富啓能、大石 純、浅生義人、富永孝亮、和田英雄、谷 博樹（第85回日本臨床外科学会総会、岡山、2023.11.16）
- 2) 左外鼠径ヘルニアに対してTAPP施行後に5 mmポートサイトヘルニアを来した1例：武富啓能、大石 純、浅生義人、富永孝亮、和田英雄、谷 博樹（第36回日本内視鏡外科学会総会、横浜、2023.12.7）

Ⅳ：現状と展望

2023年度は瀧野 泰秀（病院長:1985年卒）、谷 博樹（肝胆膵外科部長、肝胆膵センター長：1993年卒）、大石 純（部長：1999年卒）、和田 英雄（副部長：福大消化器外科：2005年卒）、武富 啓能（医長：福大消化器外科：2006年卒）、富永 孝亮（福大消化器外科：2019年卒）、乳腺外科の松尾文恵（乳腺外科部長：1990年卒）と7月からは浅生 義人（消化管外科部長：福大消化器外科：1993年卒）が加わり、一般・消化器外科7名と乳腺外科1名、合計8名の陣容で診療を行いました。

手術症例は一般・消化器外科528例（内視鏡下手術401例）で、乳腺外科82例を加えると合計610例でした。腹腔鏡下手術は、近年とくに大腸手術とヘルニア手術に力を入れて、症例数は年々増加しています。腹腔鏡下大腸手術は、福岡大学病院消化器外科長谷川傑教授を当院に招き、手術室における実際の指導や、動画を用いた講義を受けており、手術技術の飛躍的な向上が得られています。腹腔鏡下ヘルニア手術は、若手外科医の登竜門であり、手術時間が長いことが課題でしたが、日々研鑽し技術が向上し時間を短縮しています。腹腔鏡下胆嚢摘出術は、当院では高度炎症を伴い困難症例が多い特徴がありますが、開腹移行や合併症は少なく、安全で確実に手術しています。ERCP技術を利用した胆膵内視鏡治療は、当科において手術と両輪であり、272例行いました。急性胆道炎や胆石性膵炎に対する緊急治療が多く、地域の救急医療に大きく貢献し、超高齢者にも安全で優しい治療を行っ

ています。肝胆膵の悪性腫瘍に対しても、内視鏡技術を用い精細に診断し、高難度の肝切除術や膵頭十二指腸切除術を33例行いました。緊急手術は2022年度72例から2023年度96例と増加しました。これは一般・消化器外科手術の約18.2%を占めており、地域の救急医療に貢献しています。

外科合同カンファレンスを毎週月曜日、木曜日に行っており、外科、乳腺外科、消化器内科、肝臓内科、放射線科、麻酔科、手術室看護師、外科病棟看護師が参加しています。この合同カンファレンスにより院内の診療科間で良好な連携を確保しチーム医療を実践しています。毎週金曜日には、術後手術カンファレンスを行い、手術の振り返りをして、手術技術の向上とチームワークの強化を図っています。金曜日は化学療法カンファレンスも行い、血液腫瘍内科、薬剤師、がん看護専門看護師、外来化学療法室看護師、病棟看護師と共に症例検討を行い、病状の進行や副作用など問題を把握し、適切な治療方針を緩和医療に至るまで幅広く話し合い、より良い医療を提供出来るように努力しています。2018年度よりがん看護専門看護師が就業しており、医師・多職種と連携して患者・家族のケア・サポートを充実させています。また診療と多職種連携を円滑に行うために、外科医師の一日のスケジュール、診療予定を毎朝9時のミーティングで確認し共有しています。

外科病棟には、薬剤師1名、管理栄養士1名、メディカルソーシャルワーカー1名が専属配置されており、多職種協働による円滑な質の高いチーム医療を行っています。

英語論文の抄読会を、病理医、研修医を含めて毎週水曜日に行い、外科と乳腺外科の最新の医療情報を全員で共有するように努めています。薬剤や医療機器の勉強会も不定期開催し、また参加した学術集会で得た最新情報を報告し、全員にフィードバックしています。

外科・乳腺外科の医療秘書は、工藤 麻里、古寺 和恵、木村 幸子、加藤 小津枝と9月から秦 すみれが加わり5人体制で務めています。医療秘書業務は、医師の診療外業務を高い質で分担することにより、負担を軽減し、診療業務に専念する環境を作ることに大きく寄与し、医療の質の向上に繋がっています。

これからも白十字病院外科は“地域の中で頼りにされる外科”であるために、今後も「紹介を断らない。しっかり治す。きちっと報告する。」の3原則を遂行して行きます。また“充実した修練ができる外科”であることも任務と考え、チーム全員で努力を続けます。

● 乳腺外科

乳腺外科部長 松尾 文恵

I：構成員

乳腺外科部長：松尾 文恵

II：臨床活動

外来：3316名

入院：133名

【検査】

マンモグラフィー	外来	：868
	福岡市検診	：160
	自費検診	：8
	職員検診	：90

エコー	外来	: 1109
	自費検診	: 113
細胞診		: 45
針生検		: 55
ステレオガイド下生検		: 10

【手術】

臓器	手術術式	手術件数
乳腺	乳房温存術	13
	乳房切除術	43
	腫瘍摘出術	8
	その他（再発など）	16
	同時乳房再建術（形成外科）	1
合計		82

【化学療法】

症例数 : 47

施行回数 : 479

Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 当院における乳癌脳転移症例の検討：松尾文恵、古賀晶子、大谷 博（第31回日本乳癌学会学術総会、横浜、2023.6）
- 2) 当院で経験した中間期乳癌の2例：古賀ゆかり、松尾文恵、大谷 博（第33回日本乳癌検診学会学術総会、福岡、2023.11）→研修医セッション 最優秀賞受賞
- 3) マンモグラフィ所見が石灰化のみであった超音波所見の検討：佐藤佑子、古賀晶子、大町安耶子、佐藤圭紀、中島碧泉、中野 優、大谷 博、松尾文恵（第33回日本乳癌検診学会学術総会、福岡、2023.11）
- 4) 当院のマンモグラフィにおいてカテゴリー3のFADの所見で見つかった乳癌症例の検討：中野 優、中島碧泉、佐藤圭紀、佐藤佑子、古賀晶子、大谷 博、松尾文恵（第33回日本乳癌検診学会学術総会、福岡、2023.11）

Ⅳ：現状と展望

当科では乳がんを中心に乳腺症、乳腺炎、乳腺腫瘍、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、女性化乳房症などの良性疾患まで対応、診察しています。特に乳がんの治療については検診、診断から手術、薬物療法、およびその治療後のフォローアップを一貫して行っています。再発症例に対しても、患者さんやご家族も含めた身体的・精神的な支持療法を積極的に行い、安心して癌の治療を受けられるように努めています。また、乳腺専門医のみではなく、腫瘍内科医、形成外科医、病理医、リハビリテーションなどの関係各科との密接な連携のもと、集学的治療を行っています。

● 整形外科

整形外科部長 小林 知弘

I：構成員

部長：小林 知弘

医員：阿南 亨弥、清水 黎玖、篠原 由紀

II：臨床活動

入院患者数		826 名
外来患者数	初診	476 名
	再診	5,576 名
手術数		477 例
骨折・偽関節の手術	上肢	90 例
	下肢	165 例
	骨盤	0 例
	その他	28 例
関節の手術	人工関節	26 例
	人工骨頭	79 例
	肩	7 例
	膝	3 例
	その他	2 例
脊椎の手術		0 例
腱の手術		5 例
腫瘍摘出術		1 例
抜釘術		67 例
神経の手術		1 例
その他		3 例

III：業績

なし

IV：現状と展望

2023年度は前年同様、4 名体制で診療を行いました。手術件数は477件と前年を大幅に上回ることができました。救急件数も年々増加しており外傷症例に対する手術は今後も更なる増加が見込めます。症例数の増加に対してはマンパワーが必須であり、今後整形外科常勤医の増員も視野に入れ、より安心、安全な医療を心がけて診療に従事していきます。

● 形成外科

形成外科部長 眞鍋 剛

I：構成員

形成外科部長：眞鍋 剛

医員：伴 楓子（2023年 5 月～産休）

Ⅱ：臨床活動

入院：180名

手術：2023年4月1日～2024年3月31日

①新鮮熱傷	0
②顔面骨骨折及び顔面軟部組織損傷	44
③唇裂・口蓋裂	0
④手、足の先天異常、手、足の外傷	49
⑤その他の先天異常	4
⑥母斑、血管腫、良性腫瘍	206
⑦悪性腫瘍及びそれに関連する再建	7
⑧瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド	16
⑨褥瘡、難治性潰瘍	57
⑩美容外科	0
⑪その他（陥入爪、炎症・変性疾患・手、足以外の外傷など）	131
合 計	514

Ⅲ：業績

【学会発表】

1) de Quervain 腱鞘炎術後に生じた橈骨神経知覚枝摩擦性神経炎の一例：眞鍋 剛
(第45回九州手外科学研究会、佐賀、2024.2)

Ⅳ：現状と展望

当院形成外科では、手の外傷（切断指や手指骨骨折、腱断裂）を中心として化膿性腱鞘炎などの感染症、弾発指などの炎症性疾患、手根管症候群や肘部管症候群などの絞扼性神経障害も含めた手外科領域を専門に治療しています。手根管症候群の手術は皮切1cmで内視鏡を用いた手術を行っています。その他、形成外科領域一般に扱う疾患も対象に診療活動を展開しております。疾患領域は新鮮熱傷、顔面骨骨折を含めた顔面外傷、良性・悪性腫瘍瘢痕拘縮や肥厚性瘢痕、ケロイド、陥入爪、巻き爪、糖尿病性皮膚潰瘍、褥瘡潰瘍などです。当科の方針として心がけていることは、患者さんが納得して治療を受けられるように診断根拠をしっかりと提示し、説明することです。またご高齢の患者さんは形成外科疾患以外に重篤な内科的疾患を合併していることが多く、他科との連携が必要になることがあります。全身的局所的治療を他科と協力して診療活動を行っています。今後は手外科の教育関連施設を目指しています。

● 脳神経外科

脳神経外科部長 福田 健治

Ⅰ：構成員

脳卒中センター長：井上 亨

病院長補佐：林 修司

部長 兼 脳血管内治療科：福田 健治

医長 兼 脊髄末梢神経科：藤原 史明

医長 兼 脳血管内治療科：神崎 由起

医長 兼 脊髄末梢神経科：入江由希乃

医員：埤本 僚太

Ⅱ：臨床活動

外来：3367名

入院：532名

2023年手術数

Clipping	未破裂	0	血管内	未破裂	28
	破裂	1		破裂	11
CEA		1		血栓回収	23
EDAS		2		CAS	13
STA-MCA bypass		3		AVM	1
脳腫瘍摘出術		3		AVF	2
VP shunt		12		頭蓋内 PTA/S	8
LP shunt		7		頭蓋外 PTA/S	1
頭蓋内血腫除去術	AEDH	2		spasm	3
	ASDH (内視鏡)	9 (4)		脳腫瘍	3
	脳出血 (内視鏡)	18 (13)		CSDH	17
CSDH	(両側)	83 (13)		その他	3
脳室ドレナージ		4			
外減圧術		0			113
頭蓋形成		8			
脊椎	頸椎後方除圧術	8			
	頸椎前方固定術	4			
	頸椎後方固定	2			
	胸椎後方除圧術	1			
	胸椎後方固定術	1			
	腰仙椎後方除圧術	55			
	腰仙椎後方固定術	1			
	脊髄腫瘍摘出術	2			
	末梢神経手術	10			
	BKP	18			
その他		20			
直達		275	直達+血管内		388

Ⅲ：業績

【論文発表】

- 1) Wakuta N, Fukuda K (corresponding author), Takahara M, Yamamoto S, Arima H, Motonaga E, Inoue T. Epidemiology of Subarachnoid Hemorrhage in Isolated Islands in Japan : A Population-based Study in the Miyako Islands. Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Jan 15 ; 63(1) : 23-30.
- 2) Kawano D, Fukuda K (corresponding author), Takeshita S, Fukumoto H, Horio Y, Ogata T, Higashi T, Inoue T, Abe H. Pooled blood volume measured by final flat-panel detector computed tomography predicts outcome after endovascular thrombectomy for acute ischemic stroke. World Neurosurgery X. 2023 Mar 23 ; 19 : 100178.

【学会発表/研究会】

- 1) SSS dAVFに対するflow controlの工夫：福田健治（九州血管内治療研究会 2023.1）
- 2) 重症SAHに対するハイブリッド手術室での複合治療：福田健治（福岡大学SAHネットワーク 2023.2）
- 3) 4F guiding systemを使用した経撓骨動脈脳血管内治療：福田健治（第4回TRA研究会 2023.3）

- 4) 内科治療抵抗性の上矢状静脈洞血栓症に対する脳血管内治療：福田健治 (Stroke2023 2023.3)
- 5) 右内頸動脈瘤の一例：福田健治 (2nd Kyushu Pipeline User's seminar 2023.4)
- 6) 脳卒中の最近の話題とてんかん治療：福田健治 (エーザイ社内講演会 2023.5)
- 7) 再発慢性硬膜下血腫に対する経撓骨動脈脳血管内治療：福田健治 (琉球セミナー 2023.7)
- 8) ハイブリッド手術室での頸動脈直接穿刺によるCAS：福田健治 (Mt.Fuji workshop 2023.8)
- 9) 地域中核病院としての当院の脳血管内治療 ～特に低侵襲治療としての経撓骨動脈脳血管内治療について～：福田健治 (脳卒中地域医療連携会 2023.9)
- 10) 内因性頭蓋内出血に対するアンデキサネットアルファの使用経験：福田健治 (オンデキサ Experience Sharing in Fukuoka 2023.10)
- 11) 重症上矢状静脈洞血栓症に対する脳血管内治療：福田健治 (第82回日本脳神経外科総会 2023.10)
- 12) 脳卒中診療におけるiphoneを用いた病院DXの取り組み：福田健治 (西区早良区糸島市の脳卒中診療を考える会 2023.10)
- 13) 慢性硬膜下血腫に対する4F guiding systemによる経撓骨動脈塞栓術：福田健治 (JSNET2023, 2023.11)
- 14) 後脛骨動脈による神経圧迫が原因で発症した特発性足根管症候群の一例：藤原史明 (第6回末梢神経の外科研究会 2023.3)
- 15) マイクロドリルを用いたWilliam-Isu法：藤原史明 (第38回日本脊髄外科学科 2023.6)
- 16) 特発性足根管症候群に対する後脛骨動脈移所術の手術成績と問題点：藤原史明 (第38回日本脊髄外科学科 2023.6)
- 17) マイクロドリルを用いたWilliam-Isu法：藤原史明 (第82回日本脳神経外科総会 2023.10)
- 18) 左下肢麻痺を呈したL3椎体骨折にBKPによるLigamentotaxisが有効であった一例：藤原史明 (日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2023.11)
- 19) C2病的骨折に対して後方筋群温存の後方固定した一例：藤原史明 (日本脊髄障害医学会 2023.11)
- 20) 末梢神経疾患：藤原史明 (第21回 脳神経外科勉強会 藤田医科大学 2023.6)
- 21) 脳出血に対するアンデキサネットアルファ (オンデキサ®) の初期使用：神崎由起 (第143回脳神経外科九州支部会 2023.3)
- 22) 脳血管内治療を主軸とするハイブリッド手術室でコイル塞栓術と神経内視鏡下血腫除去術を行った重症くも膜下出血2例の検討：神崎由起 (STROKE2023 2023.3)
- 23) 再発慢性硬膜下血腫に対する神経内視鏡による硬膜観察所見と中硬膜動脈 (MMA) 塞栓術有用性の関連について：神崎由起 (第82回日本脳神経外科総会 2023.10)
- 24) 再発慢性硬膜下血腫に対する神経内視鏡による硬膜観察所見と中硬膜動脈 (MMA) 塞栓術有用性の関連について：神崎由起 (第30回神経内視鏡学会 2023.10)
- 25) 再発慢性硬膜下血腫に対する経撓骨動脈脳血管内治療：神崎由起 (日本脳神経血管内治療学会九州地方会 2023.8)
- 26) PSC core & Spine center ～白十字病院の取り組み～：井上 亨 (釧路骨粗鬆症セミナー、釧路、2023.2)
- 27) 「HAL®リハビリテーション温故創新」：井上 亨 (第7回長崎再生医療とリハビリテーション研究会 2023.11)
- 28) Cybernic RehabilitationとMental Energy：井上 亨 (第12回日本脳神経HAL®研究会 2023.12)

【著書】

- 1) 中殿皮神経剥離術（絞扼性末梢神経障害の手術治療）/藤原史明 金景成 井須豊彦・整形外科サージカルテクニック（2023 vol.13 728-732）
- 2) 足根管症候群と内側・外側足底神経障害の診療/藤原史明 金景成 井須豊彦 Monthly Book Orthopaedics（2023 vol 36(3) 29-37）
- 3) 上殿皮神経障害・中殿皮神経障害・中殿筋障害（非腰椎性腰殿部痛の診察）/藤原史明 金景成 井須豊彦 脊椎脊髄ジャーナル（2023 vol 36(12)）
- 4) 足根管症候群が疑われる足底のしびれ/藤原史明 脊髄外科（2023 vol. 37(1)18-27）

【雑誌掲載】

- 1) 愛好家訪問「愛鱗と逆鱗」（鱗光 2023年12月 No.672）

【原稿】

- 1) 福岡大学医学部開設50周年を祝して：井上 亨（福岡大学医学部開設50周年記念誌、2023.3）

【代表世話人、座長】

- 1) 第41回Mt.Fuji Workshop on CVD：井上 亨（京都、2023.8）
- 2) 日本脳神経外科学会 第82回学術集会：井上 亨（神奈川、2023.10）

IV：現状と展望

2023年度に入り、新病院開設3年目を迎えました。7月に西区糸島市初のSCUが6床の認可を受け開設され、脳卒中ホットライン（開業医の先生から脳卒中医へへの緊急紹介電話連絡）の効果もあり、外来入院手術数いずれも増加しています。Hybrid ORを活かし、経嚥骨動脈血管内治療や内視鏡手術を含めた低侵襲治療に特化した取り組みを進めており、血管内治療は113件行うことができました。内門久明先生（うちかど脳神経外科クリニック）のご指導をいただきつつ、藤原先生宛の近隣や院内からの紹介も増え、脊椎手術も105件行うことができました。当院は慢性硬膜下血腫が非常に多いことで有名ですが、今年度は難治性再発症例に対して栄養動脈塞栓術を行い、その後の再発を認めていません。来年度からはさらに適応を拡大し、治療を行っていきます。また、脳卒中センターをモデル病棟とした白十字病院DX改革で、院内iphoneにLINE WORKSを、院外携帯にJOINをいれることで、効率的に画像を含め情報共有ができ、これは働き方改革やストレス軽減にも役立っています。リハビリテーションでは急性期リハビリテーションに加えて、ロボットスーツHAL®を用いた最先端のリハビリテーションを提供しています。

脳神経外科は福岡大学病院脳神経外科教室、救急救命センターと密に連携し、常に発展し続け、患者さんへ最善の治療を提供することを目指しています。

● 泌尿器科

副院長 泌尿器科部長 阿部 裕典

I：構成員

副院長 部長：阿部 裕典

医員：吉田 一博

医員：藤川 愛子

医員：麻生 信太郎

II：臨床活動

入院：764名

入院患者数、疾患名については電子カルテの退院サマリー主病名から抽出した。

入院患者は764人で昨年に比べ27人増加した。臓器別では前立腺、尿管、膀胱、腎の順に多かった。疾患順では腫瘍、結石、炎症の順に多かった。

後腹膜、副腎、腎、尿管疾患での入院患者は291人で尿管結石が133人で最も多く、次いで腎盂腎炎40人、腎結石38人の順となった。

膀胱、前立腺、尿道、陰嚢内容疾患での入院患者は444人で、膀胱腫瘍並びに前立腺肥大症が各114人と最も多く、次いで前立腺癌疑いが109人、前立腺腫瘍45人の順であった。

手術：443件

手術数、手術名については電子カルテの手術登録から抽出した。

手術室で施行された手術は443件で昨年と比べ9件増加した。後腹膜、副腎、腎、尿管の手術では腎癌に対し、腹腔鏡下根治的腎摘除を16件施行し、また腎盂尿管癌に対し、後腹膜鏡下腎尿管全摘を5件施行した。腎および尿管悪性腫瘍に関しては2005年から腹腔鏡下手術が第一選択になり、開腹手術より腹腔鏡手術が定着している。

膀胱、前立腺、尿道、陰嚢内容の手術ではTUR-BTが97件と最も多く、TUR-Pが8件、前立腺核出術50件であった。2020年より治療レーザー【ツリウムレーザー】を導入した。前立腺蒸散術（Thu VAP）52件施行し、Total 140件を超えた。また前立腺全摘は2件施行した。

体外衝撃波結石破砕術（ESWL）はドルニエDelta IIを使用して新患56件の尿路結石に対しESWLを77回（1例につき平均1.4回）施行した。

III：業績

なし

IV：現状と展望

2021年4月より女性泌尿器科医師が一人加わり4人で診療を行っています。高齢者の入院患者の多い科ですが全国平均在院日数より少なく社会復帰をされています。

年間400～450件程度手術施行し、副腎摘除、根治的腎摘除、腎尿管摘除、腎盂形成などに対してより低侵襲で短期間入院が可能な腹腔鏡手術を積極的に取り入れています。尿路結石に対しては従来の身体に傷つけることなく結石を破砕する体外衝撃波結石破砕術（ESWL）と経尿道的尿管結石碎石術（TUL）を行っています。また高齢者男性の排尿障害の前立腺肥大症に対しては従来からの経尿道的前立腺切除術に加えて、2020年より超高齢者や合併症のある患者でも行える低侵襲なツリウムレーザーによる経尿道的前立腺レーザー蒸散術も行っています。膀胱癌に対しては、膀胱温存のための各種治療法（経尿道的腫瘍切除、抗癌剤、膀胱注入療法など）から根治的膀胱全摘術、多剤併用化学療法、免疫チェックポイント阻害剤まで行い、根治的手術の際はQOL（生活の質）を重視した自然排尿型代用膀胱、各種尿路変更が選択可能としています。

● 眼科

眼科部長 藤原 恵理子

I：構成員

部長：藤原 恵理子

II：臨床活動

外来：新規患者数：376名

再来患者数：3,405名

入院：125名

検査：12,900件

視力	3,442 例	視覚誘発電位検査(VEP)	3 例
眼鏡合わせ	43 例	レチナルDR判定	131 例
屈折	1,307 例	眼球運動	58 例
角膜曲率	1,297 例	Mチャート	37 例
眼圧	3,461 例	調節	17 例
眼底カメラ	683 例	超音波Aモード	18 例
OCT	1,571 例	超音波Bモード	60 例
OCTA	52 例	OA-1000	60 例
前眼部OCT	4 例	トポグラフィー	13 例
蛍光眼底造影検査 (FAG)	17 例	スペキュラー	156 例
自発蛍光眼底造影検査	8 例	中心フリッカー	25 例
視野検査 (HFA)	160 例	眼球突出度 (ヘルテル)	6 例
視野検査 (G-P)	214 例	色覚	1 例
網膜電位図 (ERG)	24 例	アデノチェック	2 例
全視野精密ERG	2 例	ロービジョンケア	20 例
多局所網膜電位図 (mfERG)	8 例		

手術：278例

【外来・外来処置室で施行された手術：142例】

アイリニア硝子体注射	57 例
ルセンチス硝子体注射	8 例
バビースモ硝子体注射	21 例
網膜光凝固術	30 例
YAGレーザー	26 例

【手術室で施行された手術：136例】

白内障手術	71 例
硝子体手術	6 例
硝子体手術（白内障手術と併施）	7 例
硝子体手術（眼内レンズ縫着術と併施）	1 例
アイリニア硝子体注射	4 例
バビースモ硝子体注射	2 例
緑内障手術 流出路再建術	1 例
線維柱帯切除術 (EXPRESS)	5 例
線維柱帯切除術 (EXPRESS) + 白内障手術	1 例
線維柱帯切除術 (EXPRESS) + 硝子体手術+白内障手術	1 例
水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術 (iSTENT)	36 例
翼状片手術	1 例

Ⅲ：業績

なし

Ⅳ：現状と展望

眼科の入院でもっとも多い症例は白内障です。全例手術を施行しており、日帰り手術や1泊入院で行います。また特殊症例（認知症やパニック障害）で局所麻酔での手術が難しい方は全身麻酔で同日両眼手術も行っています。

次に多い症例は糖尿病黄斑浮腫で抗VEGF薬の硝子体注射を施行しています。当院では糖尿病センターがあり今後治療症例はますます増加するものと思われます。それ以外に増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術も行っております。

また加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する抗VEGF薬の硝子体注射も行っています。

2022年度から緑内障手術と白内障手術同時施行の水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術を始めました。その他緑内障手術も行っております。

視覚障害者がWorld Para Athleticsに登録する際に必要となる診断書（Medical Diagnostics Form）の作成も行っております。

● 麻酔科

麻酔科部長 平井 孝直

Ⅰ：構成員

部長：平井 孝直

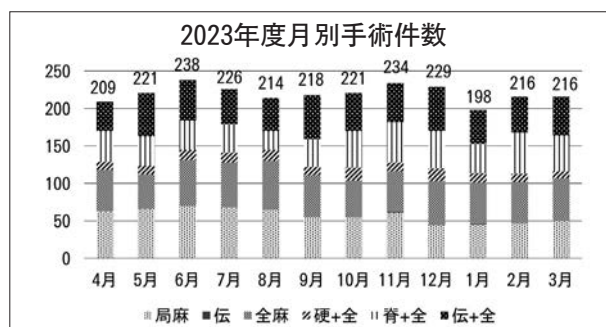
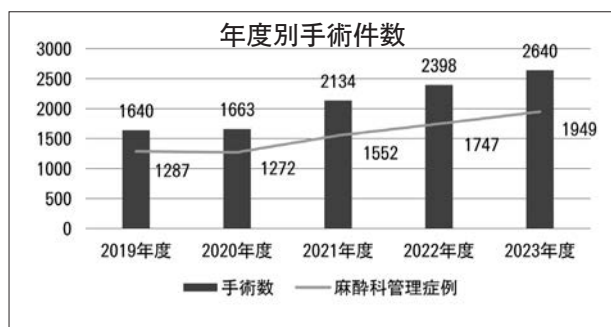
医長：戸田 志緒里

医員：村石 十和子[4・9月]、益永 理恵[4・9月]、井上 慶祐[10・3月]、新堂 真麻[10・3月]

Ⅱ：臨床活動

主に手術中の麻酔管理業務

	全麻	硬＋全	脊＋全	伝＋全	硬	脊	伝	局 (検査含む)	合計
外 科	12	129	4	329	0	0	0	21	495
整形外科	33	1	201	237	0	0	0	7	479
脳神経外科	222	0	0	0	0	0	0	235	457
脳血管内科	1	0	0	0	0	0	0	38	39
泌尿器科	97	25	290	8	0	0	0	4	424
形成外科	48	0	14	19	0	0	0	104	185
腎臓内科	0	0	0	3	0	0	2	62	67
肝臓内科	0	0	0	0	0	0	0	18	18
心臓血管外科	96	0	5	6	0	0	0	50	157
歯科口腔外科	100	0	0	0	0	0	0	0	100
眼 科	4	0	0	0	0	0	0	130	134
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	4	4
乳腺外科	59	0	0	6	0	0	0	16	81
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	672	155	514	608	0	0	2	689	2,640



Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 気道確保困難が予想される甲状腺腫瘍摘出術におけるレミマゾラムの有用性：益永理恵、富永将三、三股亮介、秋吉浩三郎（第6回気道管理学会、埼玉、2023.7）
- 2) 腹腔鏡下腎部分切除中にCO₂塞栓を発症した2例：村石十和子、中森絵里砂、迎 雅彦、生野慎二郎、平井孝直、秋吉浩三郎（九州麻酔科学会第61回大会、福岡、2023.9）
- 3) 人工心肺離脱後に活性凝固時間（ACT）が著明に短縮した心臓外科症例：益永理恵、三原慶介、戸田志緒里、平井孝直、秋吉浩三郎（九州麻酔科学会第61回大会、福岡、2023.9）
- 4) 老年患者における低侵襲心臓手術の周術期管理：新堂真麻、戸田志緒里、平井孝直、秋吉浩三郎（第36回日本老年麻酔学会学術集会、佐賀、2024.2）

Ⅳ：現状と展望

白十字病院麻酔科は、常勤4名（平井孝直、戸田志緒里、村石十和子〔4・9月〕、益永理恵〔4・9月〕、井上慶祐〔10・3月〕、新堂真麻〔10・3月〕）、福岡大学病院からの麻酔科応援医師の計5名で、主に手術中の麻酔管理をおこなっている。

手術症例および麻酔科管理症例は年々増加しており、看護師、臨床工学技士、薬剤師など多職種の連携と協力によって、手術室を運営している。2023年度の年間手術症例数は2640例、麻酔科管理症例数は1949例であった。また、心臓血管外科手術症例数は157例（開心術69例）であった。

麻酔法は、全身麻酔を主におこない、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔（腕神経叢ブロックなど）を併用している。

日本麻酔科学会認定病院であり、福岡大学病院麻酔科専門医研修プログラムの専門研修施設となっている。

● 歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長 嶋村 知記

Ⅰ：構成員

部長：嶋村 知記

副部長：青柳 直子

非常勤：福岡大学医学部教授 近藤 誠二、東京医科歯科大学歯学部教授 豊福 明、
福岡大学医学部助手 眞野 亮介、同大学医学部助手 橋口 志保

Ⅱ：臨床活動

外来：7401名

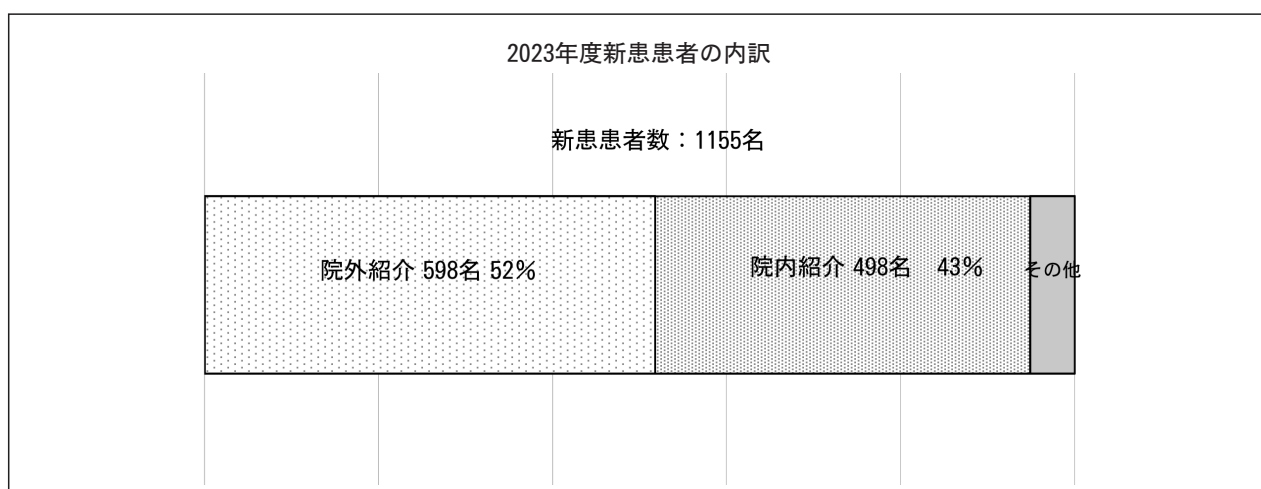
入院：136名

検査：25件（嚥下機能検査）

手術：100件（手術室利用）

<過去3年間の診療データ>

	2021年度	2022年度	2023年度
新患患者数 (名)	928	1045	1155
院外紹介患者数 (名)	456	564	598
紹介率 (%)	49	54	52
院内紹介新患患者数 (名)	407	496	498
入院患者数 (名)	141	116	136
手術件数 (手術室利用) (件)	91	84	100
周術期等口腔機能管理患者数 (名)	208	241	223
嚥下機能検査件数 (件)	58	35	25
白十字リハビリテーション病院への訪問診療患者数 (名)	522	734	830



Ⅲ：業績

【学会発表】

- 1) 舌ヒストプラズマ症患者の口腔衛生管理経験：米玉利由紀・小川順子・嶋村知記（第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会/第3回国際口腔ケア学会総会・学術大会、東京、2023.4）
- 2) 誤嚥性肺炎を発症した要介護高齢患者における細菌学的検討：嶋村知記（第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、神奈川、2023.9）
- 3) 歯科治療時にアナフィラキシーを生じた2例：青柳直子・嶋村知記（第33回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会、新潟、2024.3）

Ⅳ：現状と展望

2023年度歯科診体制は、これまで通り常勤医2名（嶋村、青柳）、非常勤医4名（近藤福岡大学医学部教授、豊福東京医科歯科大学歯学部教授、眞野福岡大学医学部助手、橋口福岡大学医学部助手）の構成で行った。

歯科衛生士は6名体制であったが、8月と3月に2名が退職した。

歯科診療実績は新患患者数、院外紹介患者数、入院患者数、手術室を利用した手術件数、周術期等口腔機能管理介入患者数、白十字リハビリテーション病院への訪問診療患者数のいずれにおいても堅調に推移していた。

● 心臓血管外科

心臓血管外科部長 住 瑞木

I：構成員

心臓・弁膜症センター長：江石 清行

心臓血管外科部長：住 瑞木

血管外科部長：尼子 真生

医員：江石 惇一郎

医員：若松 佳代

非常勤医師：尾長谷 喜久子

診療看護師：伊禮 美央

診療看護師：金城 章泰

II：臨床活動

低侵襲心臓手術（MICS手術）

- 当科では 低侵襲心臓手術（以下**MICS：Minimally Invasive Cardiac Surgery**）に力を入れています。**MICS**は手術創が小さく、術後の回復が早く、美容的にも優れた手術です。胸骨を切断しないので術後の運動制限もなく、回復も早いため、高齢者へもお勧めします。対象疾患は、心臓弁膜症全般(特に僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁疾患)、心房中隔欠損症および心臓腫瘍です。**MICS**が可能かどうかは患者さんの体型や全身状態で判断しますが、単独僧帽弁形成術、大動脈弁置換術はほぼ全例**MICS**での手術を行っています。



手術用顕微鏡 ORBEYE（オーブアイ）

- 弁膜症手術は手術用顕微鏡システム **ORBEYE（オーブアイ）** を用いて行います。**ORBEYE**はオリンパスの手術用顕微鏡の技術とソニーの美しい画像処理半導体技術が癒合した**4K3D**の手術顕微鏡システムで、これまでの肉眼や拡大鏡（手術用ルーペ）では見ることが出来なかった弁の組織学的変化までを、確認しながら精緻な手術を行う事が出来るため、良好な遠隔成績が得られます。（500円玉位大きさの心臓の弁を55インチのモニターに写し、手術を行います。）

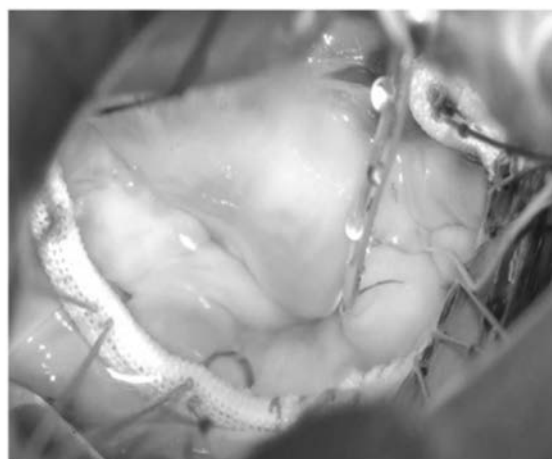
GAME CHANGING 4K 3D IMAGING TECHNOLOGY



ORBEYEにて観察した大動脈弁および僧帽弁



大動脈弁輪拡張症に対する
David手術および大動脈弁形成術



僧帽弁閉鎖不全症に対するMICSでの
僧帽弁形成術

診療実績：2023年度

○心大血管手術数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
弁膜症	8	6	15	26	30	46（併施5）	42
MICS							
僧帽弁形成術	1	5	11	18	17	28	21
大動脈弁置換術	1	5	7	15	15	23	18
	0	0	4	1	2	4	3
冠動脈 バイパス手術	8（併施4）	16（併施2）	13（併施2）	9（併施3）	12（併施1）	35（併施6）	21（併施6）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Off-pump On-pump beating Conventional	4 0 4(併施4)	10 4(EF35%↓) 2(併施)	10 1(EF35%↓) 2(併施)	5 1(EF35%↓) 3(併施)	11 0 1(併施)	28 1(EF25%) 6(併施)	10 5(EF35以下) 6(併施)
胸部大動脈瘤	0	1	7	1	17	10	13
TEVAR					11	6	7
その他	1 (MICS-ASD)	0	2	2 (MICS-腫瘍摘除)	2	1 (MICS血栓摘除) 1心膜剥離	
心大血管総数	13	21	33	35	57	87	69
入院死亡数(手術)	0	0	2(0)	1(0)	3(1)	1(0)	2(1)

○末梢血管手術数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
腹部大動脈瘤	0	6	2	4	24	15	13
(EVAR)					(17)	(12)	(6)
心嚢ドレナージ	0	1	0	3	0	0	0
下肢バイパス術	5	13	14	14	14	3	7
血管内治療	0	19	8	17	25	22	38
動脈血栓除去術	9	4	7	7	5	3	5
下肢静脈瘤 (レーザー)	18(12)	23(19)	17(16)	14(10)	18(12)	7(5)	7(6)
その他	3	6	8	23	17	16	14
末梢血管手術+etc	34	71	58	81	100	64	86
入院死亡数(手術)	2	0	0	0	0	0	2(1)

□心臓・胸部大血管手術 計69例

以下は複合手術があるため、延件数で表記しています。

◆心臓弁膜症手術 42例

○大動脈弁手術 14例

・大動脈弁形成術 4例

David手術 2例

David+TAR

Total root remodelling (TRR) 2例

TRR+CABG 1例

・大動脈弁置換術 10例

MICSでの大動脈弁置換術 3例、

大動脈弁置換術+PMI 1例

大動脈弁置換術+3CABG 1例

PVE 再大動脈弁置換術+僧帽弁置換術 1例

大動脈弁置換術+上行ラッピング 1例

○僧帽弁手術 27 例

■僧帽弁形成術 26 例

正中での僧帽弁形成術 (MP) 8 例

MP 3 例

MP+CABG手術 1 例

MP+CABG+Maze手術+左心耳閉鎖術 (LAAP) 1 例

MP+TAP+CABG+Maze手術+LAAP 1 例

MP+TAP+Maze手術 1 例

MP+TAP+LAAP 1 例

MICSでの僧帽弁形成術 (MP) 18 例

MPのみ 14 例 (1 例 再手術 他院)

MP+TAP 1 例

MP+Maze 2 例

MP+左房粘液腫腫瘍摘除 1 例

■僧帽弁置換術

DVR後のPVE 再大動脈弁置換術+僧帽弁置換術 1 例

○三尖弁形成術 4 例

Ebstein病に対するleafletization での三尖弁形成+Maze+LAAP 1 例

Spiral suspension法での三尖弁形成 1 例

TAP+MP+Maze 1 例

TAP+MP+LAAP 1 例

◆冠動脈バイパス手術 (CABG) 21 例 単独 15 例、併施 6 例

人工心肺不使用 off-pump 10 例

人工心肺使用 on-pump beating 5 例

人工心肺使用 心停止下 (併施 6 例)

CABG+大動脈弁置換術 1 例

CABG+大動脈基部形成 1 例

CABG+僧帽弁形成術 1 例

CABG+僧帽弁形成術+maze手術 1 例

CABG+僧帽弁形成術+三尖弁形成術 1 例

CABG+Maze手術+左心耳clip術 1 例

吻合箇所 (1 箇所 ; 8 例、2 箇所 ; 3 例、3 箇所 ; 9 例、4 箇所 ; 1 例)

◆胸部大動脈瘤手術 13 例

大動脈基部形成術 (DAVID手術) 2 例

DAVID 1 例

DAVID+TAR 1 例

弓部全置換術 4 例 (弓部全置換術+open stent 2 例)

胸部大動脈瘤ステントグラフト (TEVAR) 7 例

□末梢血管+その他 計86 例

◆腹部大動脈瘤 13 例

人工血管置換術 7 例

腹部大動脈瘤ステントグラフト (EVAR) 6 例

◆閉塞性動脈硬化症 38 例

バイパス手術 7 例 (+PTAと併施 2 例)

ASOへの経皮的血管形成術 (PTA) 34 例

PTA+内膜摘除 3 例

◆ASO以外のPTA 5 例

鎖骨下動脈狭窄 1 例

鎖骨下動脈瘤 1 例

内腸骨動脈塞栓 2 例

上腕動脈損傷 1 例

◆血栓除去術 5 例 うち 2 例はPTAと併施

◆下肢静脈瘤 7 例

うちレーザー焼却術 6 例

◆その他 14 例

【詳細】

I. 心臓弁膜症

	手術件数
大動脈弁 (A)	13
僧帽弁 (M) (+Maze)	24 (2)
三尖弁 (T)	2
肺動脈弁 (P)	0
複合手術	
A+M	1
M+T	2
Total	42

a) 僧帽弁疾患 (N=27)

診断名 術式

僧帽弁閉鎖不全症	僧帽弁狭窄症	僧帽弁狭窄兼 閉鎖不全症	感染※	僧帽弁置換術	僧帽弁形成術
26	0	0	1	1	26

僧帽弁閉鎖不全症に対しては、全例僧帽弁形成術施行

※感染は弁置換後の感染

僧帽弁閉鎖不全症 (26例) 僧帽弁形成術の結果

度数	術前	術後
0	1 ※	19
1	1 ※※	6
2	0	1
3	22	0
4	2	0
平均(度)	3.0(度)	0.29(度)

※MR0は腫瘍合併の症例

※※MR1度はメインがTRのBarlow's diseaseの症例

b) 三尖弁疾患 (4 例)

診断名 術式

三尖弁閉鎖不全症	三尖弁形成術
4	4

Spiral suspension 1 例

Leafletization 1 例

三尖弁形成術の結果

度数	術前	術後
0	0	2
1	0	2
2	1	0
3	1	0
4	1	0
5	1	0
平均	3.5(度)	0.25(度)

c) 大動脈弁疾患

大動脈弁閉鎖不全症に対する大動脈弁形成基部形成 (3 例)

分類

	尖弁	ElKhoury分類	Sievers分類	基部形成法
No1	2	type II	Type1 L-R	David
No2	3	Type I c, II		TRR
No3	3	type II	Type1 L-R	TRR

大動脈弁閉鎖不全症に対する基部形成+大動脈弁形成術

度数	術前	術後
0	0	3
1	0	0
2	0	0
3	3	0
4	0	0
平均(度)	3(度)	0(度)

d) 低侵襲心臓手術

Minimally Invasive Cardiac Surgery (MICS) 21例

術式	手術件数
僧帽弁形成術 (Maze, 左房粘液腫摘除)	18(2、1)
僧帽弁置換術	0
大動脈弁置換術	3

II. 虚血性心疾患 冠動脈バイパス手術 (CABG) ①

	計	単独 CABG
1 枝病変	8	3
2 枝病変	3	3
3 枝病変	9	9
左主幹部病変	1	1
Total	21	16

オフポンプCABG (off-pump) : 11例

人工心肺使用 心拍動下 (on-pump beating) : 5 例 EF35%の症例、若しくはAMI症例

心停止下 CABG : 5 例 全て弁膜症との併施症例

冠動脈バイパス手術 吻合箇所

吻合箇所	症例数
1	8
2	3
3	9
4	1
計	21
合計吻合箇所	45

吻合箇所 45 (2.14/patient)

冠動脈バイパス手術 開存率

	吻合箇所	術後CTでの調査	開存本数	開存率 (%)
動脈	32	31	31	100
左内胸	21	20	20	100
右内胸	11	11	11	100
大伏在静脈	13	24	24	100
Total	45	44	44	100

Ⅲ. 大血管疾患

術式

術式	手術件数
David	2 ※
弓部全置換術 (Open stent併用)	4 (2)
胸部ステントグラフト内挿術	7
計	13

※ 1 例はDavid+TAR

入院死亡 (2023年度) 4 例

～Summary of Hospital Death ～

NO	Age	Sex	Dx	Ope date	Emergency	Risk factors	※1
			Operation procedure	POD (days)	Autopsy	Cause of death	※2
1	76	F	大動脈弁狭窄症 狭心症 (3 枝病変)	2023/5/17	Elective	慢性腎不全維持透析	13.4%
			AVR+3CABG	POD 214	Not done	術後肺炎 憩室炎 CO2ナルコーシス	36.2%
2	48	F	急性動脈閉塞 (腹部大動脈)	2023/11/10	Emergency	拒食症、慢性腎不全維持透析 (拒食症による)	
			左鎖骨下-両側大腿動脈バイパス術	POD38	Not done	拒食症、低栄養、栄養状態悪化、創部感染	

NO	Age	Sex	Dx	Ope date	Emergency	Risk factors	※1
			Operation procedure	POD (days)	Autopsy	Cause of death	※2
3	80	M	遠位弓部瘤 (67mm)	2023/11/22	Elective	腹部大動脈瘤 (45mm)、慢性腎不全維持透析、小脳出血後、VP shunt後	
			TEVAR (Zone2)	POD23	Done	重症肺炎、ARDS	
4	82	M	急性動脈閉塞	2023/12/20	Emergency	出血性胃潰瘍	
			血栓除去 + 下肢PTA	POD5	Not done	術後吐血による誤嚥性肺炎	

※1: Japan score 手術死亡 発生予測値

※2: Japan score 手術死亡 + 主要合併症 発生予測値

入院死亡は、手術後に合併症や全身状態悪化のため、退院できず死亡してしまった患者さんです。心臓血管外科の手術を受ける患者さんは併存疾患も多く、また重症な症例も多いですが、手術による合併症 0、死亡退院 0 をめざし、真摯に治療に取り組んで参ります。

施設認定

- ・心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 (2022年 1 月 1 日より)
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設
- ・胸部ステントグラフト実施施設 (2021年 5 月より)
- ・腹部ステントグラフト実施施設 (2021年 4 月より)

Ⅲ：業績 (当院所属以外の著者省略)

【執筆】

- 1) 乳頭筋吊り上げ術の実際：江石惇一郎、尾長谷喜久子、江石清行 (Heart View 2023 Vol.27 No. 11)
- 2) 三尖弁外科手術の最前線：江石惇一郎、尾長谷喜久子、江石清行 (三尖弁治療スタートガイド カテーテルインターベンション時代の道しるべ 2023.10)
- 3) 弁膜疾患に対する手術 1 僧帽弁形成術：江石惇一郎、江石清行 (HEART nursing 2023年夏季増刊)

【学会発表】

- 1) Tetheringによる重症三尖弁逆流症に対するSpiral Suspension法：江石清行 (弁形成セミナー 日本心臓弁膜症学会、北海道、2023.6)
- 2) 僧帽弁形成術も基本手技 三角・四角切除範囲の決定方法：江石清行 (第28回Advanced Heart & Vascular Surgery / OPCAB学会、愛知、2023.7)
- 3) Spiral Suspension法をマスターする：江石清行 (第56回日本胸部外科学会九州地方会総会、大分、2023.7)
- 4) TRの最新の治療戦略と外科手術：江石清行、住瑞木、尼子真生、江石惇一郎、若松佳代、伊禮美央、尾長谷喜久子、平井孝直、戸田志緒里 (日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会、奈良、2023.9)
- 5) 胸腹部大動脈瘤の切迫破裂に対してSandwich法を用いて胸部大動脈ステントグラフト内挿術を行った 1 例：若松佳代、尼子真生、金城章泰、江石惇一郎、住瑞木、江石清行 (第120回日本血

管外科学会九州地方会、福岡、2023.9)

- 6) Re-AVR for the recurrence of AR 13years after AVR using internal band : 住瑞木、江石惇一郎、若松佳代、尼子真生、江石清行 (第76回日本胸部外科学会定期学術集会、宮城、2023.10)
- 7) Ebstein病における中隔尖、後尖の広範囲delamination不全内膜症の完全弁葉化手術 : 江石惇一郎、住瑞木、尼子真生、尾長谷喜久子、若松佳代、江石清行 (第76回日本胸部外科学会定期学術集会、宮城、2023.10)
- 8) 中等度基部拡大を伴う大動脈弁閉鎖不全症に対するSleeve法を用いた大動脈弁形成術の中期有効性の検討:David手術との比較 : 江石惇一郎、尾長谷喜久子、江石清行 (第76回日本胸部外科学会定期学術集会、宮城、2023.10)
- 9) Barlow病様の粘液変性、billowingを伴う重症三尖弁閉鎖不全症の経験 : 若松佳代、住瑞木、金城章泰、江石惇一郎、尼子真生、尾長谷喜久子、三戸隆裕、江石清行 (第135回日本循環器学会九州地方会、福岡、2023.12)
- 10) Surgical Strategy for Massive TR : 江石清行 (第54回日本心臓血管外科学会学術総会、静岡、2024.2)
- 11) 末期的Functional TRに対するSpiral Suspension法のピットホール : 江石清行 (第36回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会、長野、2024.3)

【講演】

- 1) Billowing僧帽弁のDurableな形成術式 : 江石清行 (第5回北陸心臓外科懇話会、石川、2023.4)
- 2) The transfer of knowledge-2nd chapter : 江石清行 (The transfer of knowledge-2nd chapter-, 東京、2023.5)
- 3) 革新的4K3Dビデオ顕微鏡を用いた右肋間小切開の低侵襲僧帽弁形成術 : 江石清行 (第99回福山循環器疾患症例検討会、広島、2023.6)
- 4) 三尖弁Spiral suspensionをマスターする : 江石清行 (第56回日本胸部外科学会九州地方会総会、大分、2023.7)
- 5) 我々は何者か : 江石清行 (Heart Valve Conference2023 共催セミナー、東京、2023.8)
- 6) 僧帽弁形成術の基本手技 : 江石清行 (Edwards Heart Valve Workshop in Gunma、群馬、2023.9)
- 7) 再現性の高いDurableなRepair Technique : 江石清行 (Edwards Hands-on Series~Learn from Mitral Masters~, 東京、2023.10)
- 8) 弁膜症患者さんの管理、治療と医療連携 : 江石清行 (地域で診る心臓疾患~より良い診断・治療を考える~, 福岡、2024.02)
- 9) 僧帽弁の解剖及びPhysio Flex人工弁輪を使用した手技の技術指導 : 江石清行 (Edwards Hands-on Series~Learn from Mitral Masters~, 北海道、2024.3)

【座長・司会・コメンテーター】

- 1) 第9回九州心臓弁膜症カンファレンス、長崎、2023.5 : 江石清行
- 2) 第2回沖縄心臓イメージング研究会、web、2023.6 : 江石清行
- 3) Edwards Mitral Valve Forum 2023 : Durableな僧帽弁治療を考える、東京、2023.7 : 江石清行
- 4) 第13回日本心臓弁膜症学会、北海道、2023.11 : 江石清行

IV：現状と展望

2021年、西部市場跡地に新病院を設立し、心臓・弁膜症センターを立ち上げました。

心臓病（心疾患）は、悪性新生物（がん）に次ぐ日本人の死因で、全死亡者に占める割合は15%を占め、日本人の6～7人に1人は心臓病で亡くなっていることとなります。また心臓病のうち、約

20%から30%が心臓弁膜症であり、人口高齢化を背景に増加しています。

心臓・弁膜症センターでは、あらゆる心臓病（心臓弁膜症、虚血性心疾患、不整脈）そして全身の血管（大動脈、末梢動脈、静脈系）を総合的、効率的に診療し、当院で治療が完結できることを目標としています。内科医・外科医が垣根を越え、コメディカルスタッフ（薬剤師、看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、リハビリ師等）とカンファレンスを行い、各々の得意な分野で、または協同し、その患者さんに合った高度な医療を提供致します。

2022年4月より、前長崎大学病院 心臓血管外科の江石 清行（えいし きよゆき）名誉教授を心臓・弁膜症センターのセンター長としてお招きし、精緻で高度な心臓弁膜症手術（大動脈基部形成術;David手術やtotal root remodelling, 低侵襲心臓手術;MICS手術、Ebstein病に対する三尖弁形成術;Leafletizationやspiral suspension等）をおこなっています。（江石清行医師;2022年3月に長崎大学病院 心臓血管外科教授を定年退官し、名誉教授となる。これまで心臓・弁膜症手術4500例の手術件数を経験、2020年に発表された日本循環器学会 弁膜症ガイドライン作成の班長）

2023年度はMICS手術を含めた心臓大血管手術を69例、（うち開心術を62例、胸部大動脈瘤に対するステント治療7例）、ステント治療を含めた腹部大動脈瘤13例を含めた末梢血管手術、その他の手術を86例おこないました。救急患者に対する緊急手術も多数おこなっております。

多くの手術をきっちりとおこなう事で、手術室、ICU、病棟、スタッフともにいつも通りの準備、治療をおこなう事が可能になりました。白十字病院コメディカルの総合力の高さによるものと思います。これからも病気になり不安を抱えている患者さんに対し、スタッフ一同で親身に向き合い、きちんとした治療をおこない、信頼される関係を築いて行けるよう心掛け、福岡の心臓・弁膜症の治療を担う責任と確かな実績を目標として掲げ、その実現のために新たな医療体制の構築をおこなっていきます。

尚、2022年1月1日より当院は心臓血管外科専門医認定機構規定の基幹施設として認定されました。また、J-MICS（日本低侵襲心臓手術学会）で、江石センター長が初回MICS指導医に、住が認定医に認定されました。

5. 看護部

看護部長 佐伯 美穂子

I. 看護部構成

1) 2023年6月1日現在の看護部要員数 () うち非常勤

・看護師：318名(22名)	・介護福祉士：8名(1名)
・ケアスタッフ：30名(15名)	・病棟クラーク：14名(12名)
・外来アシスタント：36名(34名)	・産休・育休者：看護師：14名(2名)

2) 看護師平均年齢・勤続年数

	看護部全体	看護部管理者	主任看護師
平均年齢(歳)	35.4	46.7	41.6
平均勤続年数(年)	8.6	19.6	13.3

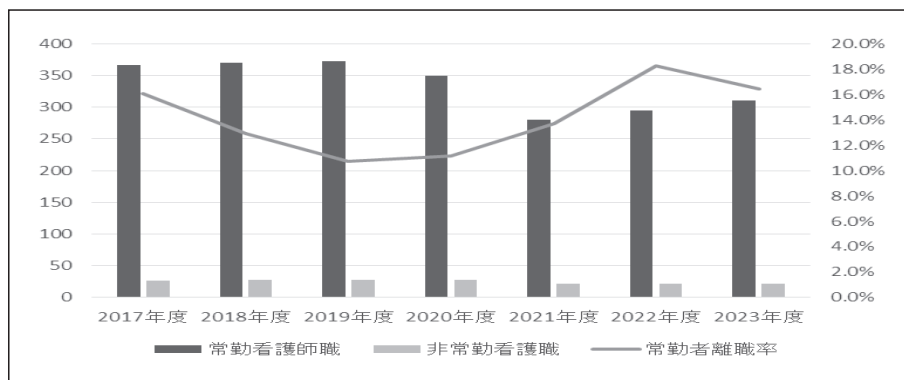
3) 看護師年齢別構成(10月1日調べ)

24歳未満	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55歳以上
70名	72名	41名	36名	35名	29名	14名	6名

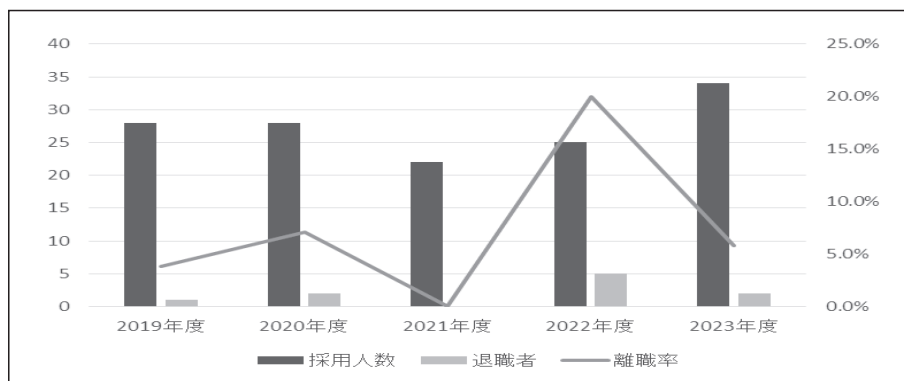
4) 看護師在職年数別構成(10月1日調べ)

1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上
72名	60名	42名	59名	36名	29名	10名	10名

5) 看護師数と常勤看護師離職率の推移



6) 新卒看護師採用人数と1年以内の離職率



II. 看護部活動

2023年度看護部運営方針、①安全で専門性の高い看護を提供します②地域のニーズに応える救急医療を提供します③地域連携・法人内連携を強化します④新しい生活様式、働き方に対応し経営基盤の強化に努めると掲げ、BSCの3年目、節目の年でした。2022年1月よりスタートした、メッセージャーチームによる入退院ベッドの作成の本格稼働、マスク2色制導入など、看護部門の労務環境改善にむけた取り組みを行いました。また、10月からは患者衣の更新を行い、患者さんに快適な入院生活が送ってもらえるように検討をしていきました。

8/1に、SCU加算取得しました。その後10月に新病院移転後、初めての機能評価を受審しました。また、コロナ禍でC病棟として稼働していた5階北病棟を外科・泌尿器科病棟に病棟再編しました。

1. 稼働病床数と看護職員配置基準

病床機能	許可病床	施設基準	職員配置
急性期病床	225床	7対1入院基本料	看護職：7対1
		急性期看護補助加算25対1 夜間100対1急性期看護補助体制加算 看護補助者充実体制加算	看護補助者：25対1
I C U	12床	特定集中管理料3 早期離床・リハビリテーション加算	看護師：常時2対1
S C U	6床	脳卒中ケアユニット入院医療管理料	看護師：常時3対1
地域包括ケア病棟	45床	地域包括ケア病棟入院料2 看護職員配置加算（50対1以上）	看護職：13対1

2. キャリア支援

1) 日本看護協会専門認定看護師

がん看護専門	1名	クリティカルケア	2名
感染管理	2名	脳卒中リハビリテーション	1名
緩和ケア	2名	脳卒中看護	1名
皮膚排泄ケア	2名	手術看護	1名
がん化学療法	1名	看護管理者	2名

2) 特定行為研修修了者数 4名

3) 法人内認定者

説明支援ナース	7名	脳卒中リハビリテーションナース	2名
皮膚ケアナース	5名	がん化学療法ナース	2名
NSTナース	3名	認知症ケア指導者	1名
急性期ナース	3名	ケア技術指導者	1名

4) 学会認定等の資格取得者

ACLS	23名	看護管理（ファースト）	14名
ICLS	17名	看護管理（セカンド）	5名
ISLS	11名	看護管理（サード）	2名
BLS	52名	実習指導講習会	10名
上級臨床倫理認定士	2名	新人看護職員研修責任者	3名
福岡糖尿病療養指導士	11名	新人看護職員教育担当者	8名
呼吸療法認定士	5名	医療安全管理者研修	12名
認知症ケア専門士	3名	ユマニチュード入門研修受講者	30名
栄養サポート	1名	心電図検定3級	7名
消化器内視鏡技師	3名	インターベーションエキスパートナース	2名

Ⅲ. 業績

1) 重症度、医療・看護必要度の月別推移

急性期 (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
37.2	33.3	33.7	32.7	29.8	34.6	32.5	33.8	37.3	32.5	33.5	32.1

地域包括ケア (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
11.46	18.96	16.50	16.41	15.56	9.29	12.15	9.80	15.46	12.21	13.52	9.85

ICU (%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
70.35	72.65	69.17	73.79	74.44	71.03	70.7	74.49	62.86	67.47	64.8	63.84

Ⅳ. 今後展望

白十字病院役割である、高度専門医療・救急医療・在宅後方支援・健康なまちづくりをバックアップできるよう、救外ICU一元化・退院支援強化・地域医療者への勉強会の開催に努めていきます。

看護部教育

看護部次長 金子 まりこ

Ⅰ. 構成員

看護部参照

Ⅱ. 看護活動

2023年度はコロナ5類に移行したことで、看護基礎教育における実習制限は少しずつ緩和されて

いる。しかし、コロナ禍の影響を受けた看護職員の社会人基礎力や看護に必要な能力は1年間で培えるのではなく、技術・知識面でも2年目看護師の継続した支援・育成が必要である。新人看護師同様、2年目看護師の育成を強化する体制を構築し、3年未満離職率15.8%→8.69%へ減少する事ができた。

1. 看護部院内研修開催実績

1) クリニカルラダー別研修

ラダー レベル	開催日	研修内容
I	4月4日～6日	・入職時研修（看護技術・医療安全・感染管理等）
	4月28日	・1か月フォローアップ研修（ケア技術・フィジカルアセスメント等）
	5月31日	・倫理研修
	6月9日	・3か月フォローアップ研修（急変時の対応、救急カートについて）
	8月17日	・5か月フォローアップ研修（認知症・せん妄）
	9月21日	・6か月フォローアップ研修（報告の仕方、インシデント、アクシデント振り返り）
	10月～11月	・院内留学
	12月7日	・9か月フォローアップ研修（社会人基礎力・接遇／看護実践場面の振り返り）
	3月7日	・12か月フォローアップ研修「心に残った看護」発表
II	4月20日	・第1回2年目看護師フォローアップ研修（2年目に向けての行動計画）
	5月11日	・看護倫理Aフォローアップ研修（2022年度受講者）
	6月6日	・第2回2年目看護師フォローアップ研修（先輩看護師のシャドーイングの振り返り）
	6月14日	・看護倫理研修A
	7月26日	・第3回2年目看護師フォローアップ研修（看護を語る会①）
	9月19日	・第4回2年目看護師フォローアップ研修（経験学習ノートを使用した成長の共有）
	11月8日	・第5回2年目看護師フォローアップ研修（看護を語る会②）
	12月20日	・第6回2年目看護師フォローアップ研修（他部署先輩看護師のシャドーイング振り返り）
	1月31日	・看護倫理Aフォローアップ研修
	2月14日	・第7回2年目看護師フォローアップ研修（ケーススタディ発表会）
III	6月22日	・看護教育研修
	7月31日	・エルダー（実地指導者）リフレッシュ研修
	11月30日	・看護倫理研修B
	3月21日	・教育者研修（次年度新人看護師教育担当へ向けて）
IV	7月13日	・意思決定支援研修
V	7月5日	・管理研修
	3月6日	・管理フォローアップ研修

2) 新人看護師研修の外部受け入れ

白十字リハビリテーション病院 4名

今津赤十字病院 2名

南川整形外科病院 2名

福岡和仁会病院 2名

福岡豊栄会病院 1名

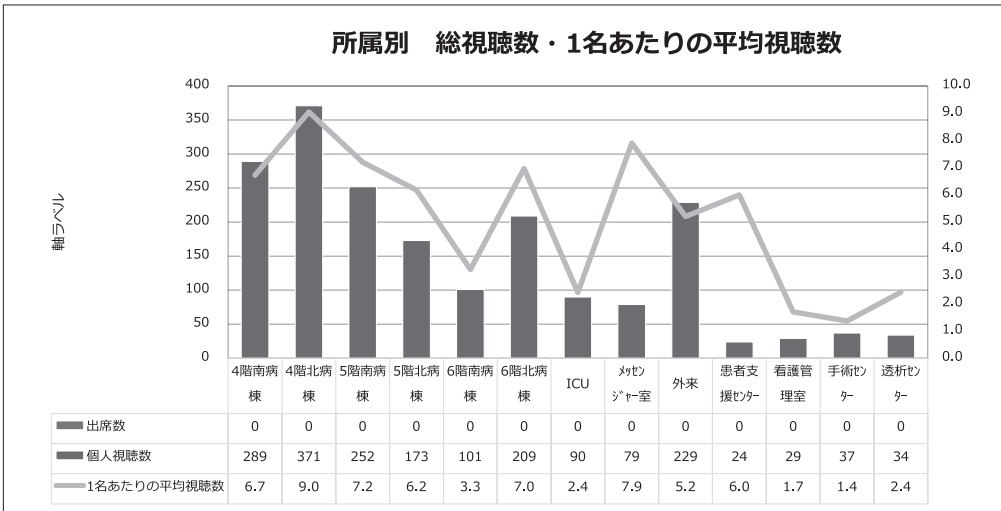
3) ストーマケア研修 (4回シリーズ)

講師：ETナース 梶西ミチコ

受講者：8名

7月7日	ストーマの種類と早期、晩期合併症について
9月15日	セルフケアと装具の種類と選択
11月17日	スキンケアと合併症対策
2月9日	退院支援(患者指導)と社会資源の種類と活用方法

4) 学研ナースング視聴履歴 (インターネット講義)



Ⅲ. 業績

1. 実習生受け入れ人数

学校名	期間	人数	実習部署
* 福岡市医師会看護専門学校 看護専門課程第1看護学科 基礎看護学Ⅰ	5月1日・2日	80名	全部署
	1月15日～2月7日 (2024年)	25名	4階南病棟
	9月4日～10月13日 1月30日～2月7日 (2024年)	35名	5階南病棟
	2月27日～3月13日 (2024年)	37名	
基礎看護学Ⅱ/成人看護学Ⅰ・Ⅱ	5月8日～7月28日 10月16日～11月2日	4名	
老年看護学Ⅱ/成人看護学Ⅱ・Ⅲ 統合看護学			

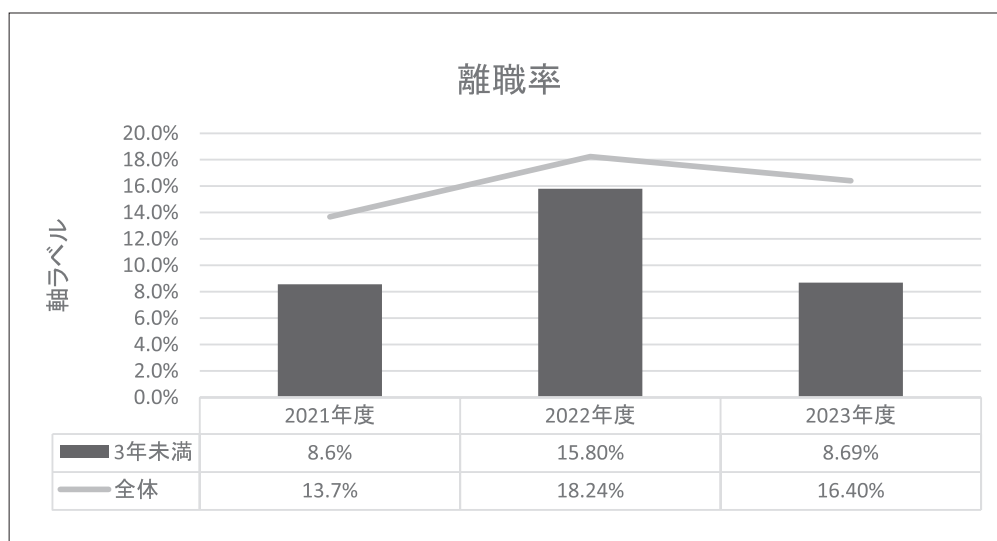
学校名	期間	人数	実習部署
*福岡看護大学 統合看護学 高齢者看護 慢性期看護学・終末期看護学	5月29日～6月9日 10月2日～10月13日 2月5日～2月22日 (2024年)	2名 4名 10名	4階北病棟 6階北病棟
*福岡県私設病院協会看護学校 成人看護学Ⅰ・Ⅱ	7月31日～11月24日	44名	ICU
*日本赤十字九州国際看護大学 慢性看護学	1月15日～2月2日 (2024年)	7名	4北・6北
*麻生看護大学校看護科通信課程 基礎看護学 成人看護学 老年看護学	8月17日・8月18日 11月28日・11月29日 12月21日・12月22日	2名 2名 2名	5階南病棟 4階北病棟 6科北病棟

◎受け入れ総数 254名

2. インターンシップ研修

内定者向けインターンシップ	2024年3月12日・13日	15名
外部向けインターンシップ	2024年3月21日・22日	37名

3. 離職率（全体・3年未満）



IV. 現状と展望

病院機能評価〈3rdG : Ver.3.0〉においては、多職種のチームワークで無事に受審することができた。改善が必要な項目については対策を講じていく。

看護部教育委員会

委員長 浜谷 千枝子

I. 構成員

次長 金子 まりこ
課長 浜谷 千枝子 檜崎 陽子
主任 南 仁美 岩田 真紀 吉村 知子 月野 百合香

II. 臨床活動

【目的】

- 1) 全看護職員の主体的学習を支援することにより、専門的知識・技術の向上と質の高い看護サービスを提供できる。
- 2) 看護職としての倫理観を備え、病院の理念の達成のために必要な知識、技術を発揮できる自立・自律した看護職員を育成する。

【目標】

- 1) 全看護職員が看護専門職として主体的に学習し、全員が教育的視点と思いやりの心と確かな根拠を持ち新人・中途看護職員を育て、自分自身の成長に繋げることができる
- 2) クリニカルラダーⅡ（2年目看護師）教育計画（パス）に沿った教育を展開し、ラダーⅡ認定者が20名となる
- 3) クリニカルラダーⅡ以降の運用指針の策定とラダーⅠの運用を評価し、クリニカルラダー運用の基盤を整備できる

【活動内容】

- 1) 主体的学習機会の提供と推進
 - ①看護部教育計画に沿った研修開催、福岡県看護協会、専門認定看護師勉強会、OJTに看護技術動画を取り入れる事や、学研ナースिंगサポート受講計画を配布し、ラダー個人シートに個人の学習計画を立案し主体的学習を推進した。
 - ②コロナ禍に学生時代を過ごした新人看護職員の特性に応じたOff-JT、OJTの実施
 - ③教育LSを中心としたOJTを展開による、教育者としての基盤整備
- 2) 2年目パスに沿ったOFF-JT、OJTの実施、評価
- 3) JNAラダー移行のための運用指針の作成

III. 【業績】

- 1) 看護部教育計画に沿ったラダー別の研修を開催し、アンケート結果ではすべての研修でリッカード比4.4（5段階）以上と、受講者のニーズに合った内容であると評価できる。
一方、看護技術動画、学研ナースिंगサポートの視聴や活用は十分ではなかった。新人看護職員の特性の理解とメンタルヘルスを目的として、全新人看護師に対し教育担当課長が面談を実施し、必要に応じ継続的に面談を行い支援した。離職率は昨年度20.0%と全国水準を大きく上回っていたが、今年度は5.8%と改善した。
- 2) 2年目へのOFF-JTを7回開催し、その中で看護を考える機会を作り、まとめでは全員がケーススタディを発表し自己の成長を実感することが出来ていた。OJTでは2年目パスの運用により個人の課題が明確となり、指導者・2年目看護師双方が成長に気づく機会として教育に役立てられ

ていた。

- 3) JNAラダーの運用に関しては、作成の過程で日本看護協会の「看護職の生涯学習ガイドライン」が作成され、これまでの趣旨との違いや方針についてすり合わせを要し、一部計画通りには進まなかった。

IV. 【現状と展望】

OFF-JTに関しては、ラダー別に系統だった研修を開催し、受講者のニーズに合った教育を展開できているが、中途採用者の受講機会が限られている現状があり、平等かつ公平に教育機会を作ることが必要である。倫理に関する知識がないままに、中途採用者が現場の倫理カンファレンスを担当している現状もあり、倫理研修への参加の機会を作り、看護部全体で倫理的風土を高めていく機会としたい。新人看護職員、中途採用者へのOJTについては、教育側が相手をより理解し、意欲を高めるような支援が一層求められる。これまで、教育を受ける側の評価に終始する傾向があったが、新人看護師を担当するエルダーやメンター、リンクスタッフの関わり方がどのように新人看護職員の成長に影響しているのかについて、評価し、教育者側への教育を強化する必要がある。次年度は、教育者への教育、評価を強化し、さらに全看護職員が看護にやりがいを見出せるような教育を展開できるよう尽力したい。

看護部感染対策委員会

委員長 ネルソン咲子

I. 構成員

吉野次長、ネルソン課長、山口課長、三島課長、山下主任、中原主任、入江主任、成松主任

II. 臨床活動

＜2023年度目標＞

1. 経路（場面）別感染予防策が実施できる
2. 2年目NS、中途採用者がPPE着脱・ゾーニングの理解ができる
3. 感染対応発生時の対応シミュレーションができる

＜活動内容＞

- ・感染環境ラウンド

環境整備、手指消毒の遵守状況を重点項目とした委員が担当部署をラウンドし、リンクスタッフへ指導した。

- ・2年目NS、中途採用者への感染予防策の指導

病棟の個室、多床室でコホートできるように、教材のゾーニング動画を作成した。

すべての看護師へゾーニング動画の視聴、年2回のテストを実施した。

- ・コロナ感染者発生時の対応シミュレーション

コホートに必要な物品を収納した棚を作成、病棟のある各部署へ配置した。棚の管理はリンクスタッフが行うこととした。

- ・各病棟でコホート作成のシミュレーションを、リンクスタッフを中心に委員の立ち合いのもと9月に3回実施した。

III. 業績

新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類に移行し、専門病棟での隔離は不要となったが、院内での感染予防対策は変わらないことを意識付ける必要があった。病院の方針として各部署でもコロナ

患者を個室隔離のうえ看護することが求められたことで、すべての看護師が感染予防策をとりながらコロナ患者を看ることができるよう体制の構築が必要であった。各病棟でコホート作成のシミュレーションを体験してもらうことが、部署全体でコロナ患者を受け入れる心構えと、スムーズな対応ができるようになるための一助となった。

リンクスタッフが行う自部署の感染環境ラウンドの結果と、委員が行うラウンド結果において齟齬が発生していた。要因としてリンクスタッフの知識不足、役割認識の不足が考えられた。

IV. 現状と展望

委員による感染環境ラウンドの結果や、当院は近隣病院のなかでも、手指消毒剤の使用量が一番少ないという情報から、看護師に標準予防策が実践できていないことが示唆された。コロナ患者の感染予防も大切だが、院内感染予防の観点から、基本に立ち戻り、標準予防策の確実な実践が重要である。リンクスタッフや部署管理者を巻き込んで、感染予防対策の強化に取り組む。次年度は今年度実施していなかった、リンクスタッフ会議を年4回開催し、動機付けや学習の機会にできるように計画している。

看護部安全委員会

委員長 八尋 裕美

I. 構成員

吉野次長 八尋課長 樋口課長 吉村課長 大森主任 瀧本主任 松田主任

II. 臨床活動

【目標】

- ・患者誤認におけるインシデント・アクシデント 0 件（2021年21件、2022年23件）
- ・リストバンド装着率 100%

【活動内容】

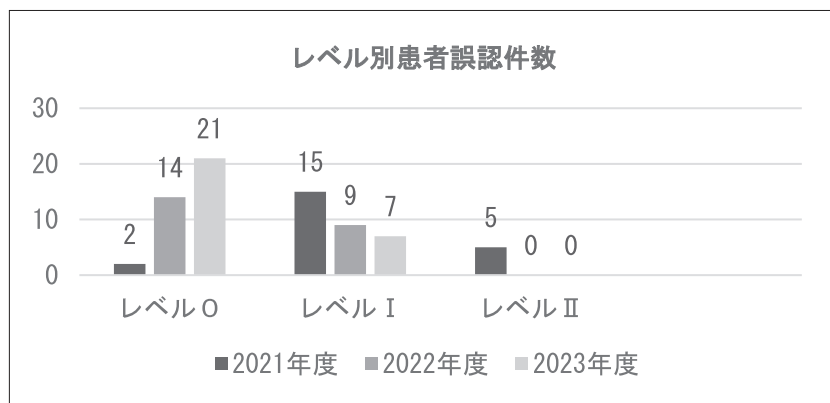
- ・患者確認方法のポスターを改訂。各部署、毎週火曜日朝礼時に復唱、指差呼称行動を行い、患者確認方法の周知を行う。
- ・『指差呼称の効果』について講義し、安全リンクスタッフ（以下安全LS）が自部署で伝達講習を行った。
- ・安全委員課長、主任によるラウンドを行い、患者確認行動の場面（病棟・透析：配膳時/OP：入室時/外来：患者呼び入れ時）をチェックし、評価をフィードバックした。その評価をもとに、安全LSが自部署で対策を検討し実行した。
- ・患者誤認インシデント・アクシデントが起きた部署主催で、患者誤認カンファレンスを開催。安全委員がカンファレンスを支援した。
- ・安全LSがリストバンド装着するよう自部署看護師に関わり、週1回リストバンド装着率を委員会に報告した。
- ・口頭指示用紙の見直しを行い、医療安全管理委員で使用の承認を得、各部署使用できるように環境を整えた。
- ・注射薬ひとりダブルチェック運用を開始。
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプを使用しての持続静注ルート2本以上管理の看護手順を作成
- ・身体行動制限に関する看護基準手順の作成

- ・注射薬ひとりダブルチェック看護手順の作成

Ⅲ. 業績

患者誤認件数

2022年度	23件
2023年度	28件



リストバンド装着率

2022年度	72.4%
2023年度	99.3%

Ⅳ. 現状と展望

確認行動のポスターを改訂し、全部署で朝礼時に確認行動をすることによって確認方法の周知はできてきたと考える。しかし、ケアスタッフは、朝礼時参加できないことが多くあり、確認方法の周知が不足していた。そのため、安全LSが指導・支援する対象は、看護師だけでなく、ケアスタッフも対象とする必要がある。

患者誤認カンファレンスの開催は2年目となり、習慣化はできてきた。しかし、類似している患者誤認事例が起きており、部署内や他部署の情報共有が不足していた。患者誤認件数は、前年度より増えているが、インシデントアクシデントレベル別にみると、明らかにレベル0が増えている。全体的にレベル0の報告件数が前年度と比較し約9倍になっていることも、要因であると考えられる。

リストバンドの装着率は、前年度比+26.9%と上昇した。感染隔離患者が装着されていない場合や、患者自身が外す場合が見受けられた。今後とも、患者確認を徹底するための一端であるリストバンド装着を促進するアプローチが必要である。

退院支援委員会

委員長 中里 友子

Ⅰ. 構成員

金子次長 中里課長 室井課長 筒井課長 田中主任 住山主任

Ⅱ. 臨床活動

【目的】

看護部職員が主体的に退院支援を実践する体制を構築し、退院支援の質の向上を図る。

【目標】

- 1) スタッフが3次スクリーニングの対応ができるように育成する。
- 2) 退院支援の介入状況を看護記録に残し、部署・チームで情報を共有できる体制を構築する。
- 3) 法人内施設の特徴や受け入れ条件を一覧にして活用する。

【活動内容】

- 1) 退院支援委員、退院支援LSが3次スクリーニングに同行する。
 - ・担当看護師が3次スクリーニングに参加
 - ・2年目以上の看護師がスクリーニングに参加できるようLSが調整
- 2) 記録監査
 - ①病前の生活・療養情報の記録②治療経過・スケジュール・今後の予定③スクリーニングで挙げた課題への介入④退院調整の内容が記録されている⑤担当患者の問題の抽出ができ退院支援の看護問題が立案し、指導後に改善できているか確認する。
- 3) 法人内施設との契約件数の増加
 - 施設基準一覧表を作成し、各部署に配布し活用
 - 看多機「ずっと一緒に」の勉強会の開催

Ⅲ. 【業績】

- 1) 2年目以上のスタッフのスクリーニング参加者77%であった。
スクリーニング参加後の変化として、入院3日以内に病前の情報収集の記録が増え、退院支援につながる情報収集をスタッフが主体的にできるようになった。
また、家族や施設、ケアマネージャからの情報量が増加し、課題抽出もできているスタッフも増えた。
- 2) 監査結果は、70.4%（目標80%以上）4月～6月までの退院支援の標準看護計画の立案率が11%と低く、7月より監査結果をフィードバックしたスタッフに対し、翌月も再度監査を実施した。7月～2月までの標準看護計画の立案率は36%にとどまった。
- 3) 法人内施設の施設
 - ・在宅サービス調整件数 2501件（目標値 1570件）
 - ・法人内施設契約件数 123件（目標値 130件）

Ⅳ. 【現状と展望】

退院支援LSが3次スクリーニングに同行したことで、スクリーニングの目的、他部署の取り組みを知り、3次スクリーニングの対応ができるスタッフの育成に繋がった。退院支援に関する情報量が増し、部署で情報を共有できる体制は構築できつつあるが退院支援に関する看護計画が少なく、また計画が追加立案されたとしても、実践していることが計画として上がらずに継続看護として活かされていない。

また、法人内施設一覧表を作成し、法人内施設の特長性を把握する手段として活用することができているが、施設契約件数には結びつくことができていない。次年度は、退院支援の課題解決について多職種で取り組む方法の検討が必要であり、退院支援に関する標準看護計画の見直しを行う。また法人内施設見学を計画的に行い、法人内施設の理解を深めていく必要がある。

看護の質管理委員会

委員長 馬場 聖子

I：構成員

藤田美保、馬場聖子、三村美和、平田夕紀、松崎茜己、掛屋かおり、森友高介

II：臨床活動

【目標】

1. 重症度、医療・看護必要度に対する教育を行い、必要度の入力精度の向上を図る
2. クリニカルパスの実績を分析し、クリニカルパスの改定を行うことにより、さらに看護の質を高める
3. 看護記録マニュアルの見直しを行い、記録監査及びマニュアルに沿った教育を実施し、看護記録の精度管理を行う。

【活動内容】

1. 重症度、医療・看護必要度：e-ラーニング教材を用いた学習
2. クリニカルパス：オーバービューの見直し
3. 看護記録マニュアル：既存のマニュアルの見直し、修正
抗生剤初回投与時の記録作成
行動制限使用中の記録について検討

III：業績

【成果】

1. 重症度、医療・看護必要度：受講率 100%、合格率 80%
2. クリニカルパス：全クリニカルパスに対するオーバービューの作成
3. 看護記録マニュアル：マニュアル見直し進行中
抗生剤初回投与時の記録作成
行動制限使用中の記録について検討

IV：現状と展望

【活動評価】

1. 重症度、医療・看護必要度：全職員必要度に関する学習ができ、精度の高い評価に繋がられた
2. クリニカルパス：クリニカルパス使用の患者に対しオーバービューを使用して説明できるようになった。
3. 看護記録マニュアル：二重記録していたところを削減できた

【今後の課題】

看護の質向上に向け、各領域での見直し・改善を今後も継続していく。重症度、医療・看護必要度については2024年度に診療報酬改定されることでの評価指標の変更においても適切な評価ができること学習を継続していく。クリニカルパスにおいては、治療やケアに即した内容のパスに適宜改訂しながらより使用しやすいパスを完成させていく。看護記録マニュアルに関しては。マニュアルに沿った記録ができるよう改訂したマニュアルを使用した監査を今後行っていくようにする。

部署紹介

● 外来

課長 檜崎 陽子

I：構成員

看護課長 1 名、看護主任 3 名、常勤看護師20名、非常勤看護師15名、救急救命士 3 名
外来アシスタント主任 1 名、外来アシスタント常勤 1 名、外来アシスタント非常勤27名
(緩和ケア認定看護師 1 名、脳卒中看護認定看護師 1 名、法人内認定急性期ナース 1 名、
法人内認定外來說明支援ナース 5 名)

II：臨床活動

- ・安全で専門性の高い看護を提供する。
- ・地域のニーズに応える救急医療を提供する。
- ・地域連携・法人内連携を強化し、継続看護の充実に努める。
- ・新しい生活様式、働き方に対応し経営基盤の強化に努める。

III：業績

表 1. 救急センター受診内訳

	救急車受け入れ件数	自主来院件数	合計
2021年度	3,643件	1,484件	5,146件
2022年度	3,995件	1,069件	5,064件
2023年度	4,308件	1,127件	5,435件

表 2. 救急センター各種データ

	CPA搬送	ICUへの入院	外来からの手術室搬入	時間外緊急検査
2021年度	77件	358件	27件	42件
2022年度	50件	363件	45件	70件
2023年度	54件	338件	82件	208件

表 3. 外來說明支援件数

2021年度	4,416件
2022年度	5,037件
2023年度	5,665件

IV：現状と展望

救急・検査部については、夜勤 3 名体制、オンコールに廃止を確立、時間外緊急検査に対応できるスタッフの育成を強化した。また、COVID-19の 5 類化に伴い、感染ブースを縮小し、観察ブースを増床した。さらに2025年度の救急センターとICUの一元化に向けて、救急、ICUを兼務できる看護師の育成に取り組み、応援体制を強化した。

結果（表 1， 2）に示すように救急搬送数の増加、時間外緊急検査件数の増加、緊急手術の外来からの手術搬入が増加し、地域の救急医療、専門性の高い看護の提供に貢献できたと考える。今年度、新に救急救命士 3 名が就勤し、各職種で専門性を活かしたタスクシェア、タスクシフトを進め、さらに受け入れ態勢を強化していきたい。

診療部については、紹介からの当日入院となった患者が2022年度1,393件を上回り1,557件となった。当日紹介患者は午後以降の来院も多く、パート看護師の時間を流動的に変更し、17時まで対応できるように業務改善を行った。また診察に同席している外来アシスタントと情報共有し、看護介入が必要な患者の抽出を行い看護介入することで継続看護の充実を図った。外來說明支援については、看護師育成用の動画を作成し、説明の質の担保、育成時間の短縮を図っている。今後は、通院患者の生活背景や疾病に対する認識なども把握し病棟や連携施設と情報共有し継続看護の充実を図っていききたい。

● 透析センター

課長 樋口 文子

I：構成員

透析センター課長：樋口 文子

主任：松崎 茜己

看護師：11名

II：臨床活動

今年度は特に育成に力を入れ、それぞれが目標をもって年度をスタートさせた。育成表を見える化し、誰が育成中なのか、いつまでに育成するのかなど、誰が見てもわかるように表にした。

シャントPTAに関しては新人と2年目以外のスタッフは全員対応可能となった。PDは導入件数が少なく、なかなか育成が進んではいないが、PD外来の対応時に育成することでマニュアルの改訂や学習は継続することができた。『透析時運動指導等加算75点』が診療報酬改定で開始になったことから当院でも透析中の腎臓リハビリテーションを開始した。また、1名しか活動できていなかった説明支援ナースによる介入だが、『腎代替療法指導管理料500点』が算定できることもあり、2名体制で介入するようにした。スタッフも『腎臓病療養指導士』の資格を取得（2名）するなど、知識習得、質の向上に努めた。

2022年度と比較すると全体的に件数も増え稼働率も上がっている。

III：業績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	2022年度
HD件数	692	743	766	770	764	728	761	734	774	800	728	723	8983	8266
稼働率(%)	87.26	85.3	92.07	92.55	89.15	87.5	91.47	88.22	93.03	91.85	91.8	86.9	89.75	82.59
HD導入件数	3	2	7	6	5	1	5	2	7	10	2	3	53	29
PD導入件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
説明支援介入件数	6	12	4	6	2	7	9	8	4	2	6	2	68	46
療法選択加算件数	2	1	3	0	0	3	6	2	4	2	1	0	24	5
シャントPTA件数	5	1	8	2	6	6	7	5	5	7	4	4	60	41
腎リハ介入加算件数	4	4	4	4	2	3	3	3	3	2	2	4	38	—

Ⅳ：現状と展望

説明支援ナースを中心に、外来に出向き透析前の保存期から『療法選択』で介入している。また、今後さらに高齢化していく透析患者に対してACPの視点からも介入し、在宅へと繋げる必要性を感じている。COVID-19の感染も少し落ち着いたところで腎臓病教室も再開となった。記録の工夫により病棟スタッフとの情報共有も充実させていく必要がある。

透析センター内の業務にとどまらず範囲を広げ、それぞれの活躍の場を拡大することが、スタッフのやりがいやモチベーションのアップにもつながると思われ、さらにそれが患者満足にもつながると考える。

● 手術センター

課長 八尋 裕美

Ⅰ：構成員

看護課長 1 名 看護主任 2 名 看護師 21 名 CE 1 名 (2024 年 2 月退職)

Ⅱ：臨床活動

1. 安全で専門性の高い周術期看護を提供する
2. チーム医療を発揮し効率的運用を行う
3. 倫理観を持った人材育成を行う

Ⅲ：業績

《手術件数》

	2021年度	2022年度	2023年度
手術室利用件数 (件)	2134	2398	2640
内) 緊急手術利用件数 (件)	272	262	309
内) 予定手術利用件数 (件)	1862	2138	2331
手術件数 (検査を除く) (件)	2052	2306	2537
平日予定 17:30以降の退出割合 (%)	11%	18%	12%
各部署看護師手術関連残業時間 (時間)	-	181.1	141.0

Ⅳ：現状と展望

2023年度も、昨年度より大幅に手術件数が増加した。主任や手術看護認定看護師を中心に、25件の業務改善を行い、効率的かつ安全な周術期看護を提供できるよう努めた。中には、資材のセットの見直しや新たなセットの作成により、手術の準備の時間短縮と、従来のセットからコストダウンできたものもあった。勤務帯リーダー業務ができるスタッフを5人育成した。リーダー的視点をもったスタッフが増えることによって、能動的な業務進行になった。その結果、昨年度より残業時間が一人あたり4.1時間(昨年度比-1.0時間)に削減された。そして、午前中の入室を促し、平日予定手術の17:30以降の退出が減少するよう多職種協働し、その結果、病棟看護師の手術関連の残業時間が昨年度より減少したことも成果と言える。

看護師一人ひとりの各診療科症例別スキルマップを活用し、教育的視点からの采配を継続し、新たにオンコールができる看護師を5人育成した。土日祝日の緊急手術件数は昨年度より2倍に増加しており、引き続きオンコールができる看護師の育成が必要である。

昨年度から資材課スタッフの協力により、手術センター内の資材関連の一部業務、一部医事送信業

務をタスクシフトしていたが、資材課スタッフの人員不足のため、業務撤退された。また、看護部手術センターに臨床工学技士が配属され、器械出し業務を行っていたが、一身上の都合のため残念ながら退職となった。初めての試みであり、看護師以外の職種は、履修教育カリキュラムが違うため、教育に課題が残った。

2024年度ロボット支援下手術ダヴィンチ導入にむけて、準備を行っている。マニュアル作成や多職種へのシミュレーションを引き続き行っていく。

● ICU病棟

課長 吉野 勝也

I：構成員

看護課長 1 名、看護主任 2 名、看護師29名、クラーク 1 名
(クリティカルケア認定看護師 1 名、特定行為研修修了者 1 名) 看護配置：2：1

II：臨床活動

- ・地域医療支援病院、救急指定病院としての役割を果たす為、ICUの効果的な病床運営を行った。
- ・各種勉強会、症例検討の実施、多職種協働により安全で質の高い、高度な医療を提供した。
- ・救急センターの立ち上げ、タスクシフト、シェアを目指し、ERとICUの一元化に着手した。

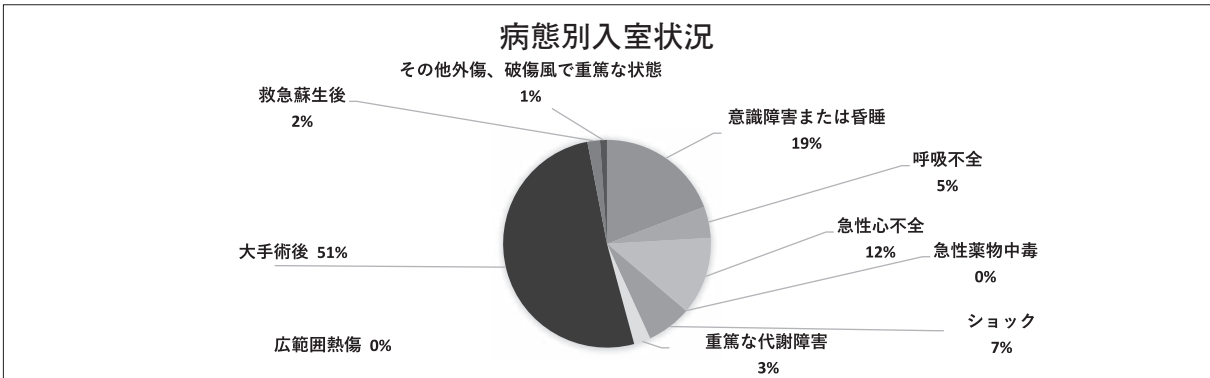
III：業績

《2023年度ICU各種データ》

平均患者数	病床稼働率	新規入院患者数	平均在棟日数	平均看護必要度
8.7人	73.7%	354人	4.8日	69.57%

《専門的処置件数》対象者/延べ回数or日数

CHDF	IABP	PCPS	血栓回収療法
11人/65回	16人/69日	2人/11日	25件



IV：現状と今後の展望

新病院移転後 3 年目、病棟目標も「質の高い看護が提供できる」を掲げ 3 年目と節目の年となった。3 年間、多職種協働で病床運営に取り組んだ結果、患者数、稼働率、ICU単価とも上昇し、効果的な病棟運営ができた。看護では、1 年目に勉強会チーム(心臓、脳、栄養・代謝、呼吸器・早期離床)で専門性の向上。2 年目に看護の質の向上と標準化をはかるべく、16項目に分けた疾患別チェッ

クリストを作成し、定着化。3年目となる今年度は、得た知識・技術を日々の看護に活用し、毎月症例検討を実施した。その結果、アクシデント3b事例は0件となり、安全で、質の高い医療（看護）の提供に繋げることができた。また、今年度から救急センターの立ち上げ、ER・ICUの一元化と大きなプロジェクトが開始されたため、引き続き、病棟全体で知識・技術の向上をはかり、地域から信頼される質の高い医療(看護)の提供ができるように努めていく。

● 4 階北病棟

課長 三村 美和

I：構成員

看護配置 7 対 1

看護部課長 1 名、看護部主任 2 名、看護師20名、ケアスタッフ10名、クラーク 2 名

II：臨床活動

- ・心臓リハビリテーション介入により、患者のセルフケアマネジメント能力を向上できるようにチームで支援する。
- ・心臓弁膜症センターとして、地域のニーズに応える救急医療を提供する。
- ・チーム医療を発揮し、入院早期より退院支援を行う。
- ・新しい生活様式・働き方に対応した経営基盤の強化に努める。

III：業績

	入院総数	緊急入院件数	平均入院 在院患者数	在宅復帰率	地域包括ケア 病棟転出件数
目標	1,245	670	39人	95%	120人
実績	1,115	595	38.6人	97.70%	117人

	HCU稼働率	必要度Ⅱ	手術搬入 総件数	心臓血管外科 手術件数	心臓リハビリ 介入件数
目標	110%	29%	90件		200件
実績	105%	26.29%	244件	155件	311件

IV：現状と展望

2023年度は、前年度に引き続き、心臓弁膜症センターとして地域のニーズに応える救急医療提供の為に、病棟の総合的なレベルアップが求められた年であった。心臓血管外科の手術件数は155件と年々件数が増加している。術後は、包括的心臓リハビリテーションを積極的に行い、外来リハビリへ引き継ぎ、患者のセルフケアマネジメント能力の向上へのアプローチが多職種で実施できた。心臓血管内科では、アブレーション治療が開始され、初年度は10件の治療実績であった。治療に伴う除細動処置を病棟で行う機会も増え、更なる専門的な学習機会となった。毎週開催されているハートケアカンファレンスでも、チームで治療やリハビリの進捗を確認し、現状の課題について考え、個別的な退院支援が実践できている。腎臓内科では、腹膜透析導入の症例が増え、退院前訪問を行い、透析室と協働して退院後を見据えた患者指導ができた。また、透析導入についての意思決定支援や高齢化する患者のニーズに対する退院支援がチームで介入することができた。

今年度は病床稼働率が落ち込む時期があり、コントロールに難渋することがあった。しかし、救急医療のニーズは高く、日々患者の受け入れができるように病床管理を行い、退院促進と患者数を維持することをバランスよく管理し、患者数の平準化することが課題と考える。

今後も、心臓弁膜症センターとしての役割を発揮するために、計画的に人材育成を強化し、専門性の高い看護の提供を行っていく。

● 4 階南病棟

課長 中里 友子

I：構成員

看護配置 7 対 1 SCU：看護配置 3 対 1

看護課長 1 名、看護主任 2 名、看護師38名、看護補助者 3 名、クラーク 2 名
(脳卒中リハビリテーション認定看護師 1 名、法人内脳卒中リハビリテーション看護師 2 名、
脳卒中相談療法士 4 名)

II：臨床活動

【4 階南病棟目標】

- ・多職種で協働し患者や家族のニーズに応じた退院支援を行います。
- ・安全に対するスタッフの意識向上を図り、病棟内の安全の風土を高めます。
- ・患者・家族が安心して入院生活を送れるよう快適な療養環境を提供します。

【SCU目標】

- ・多職種と協働し専門性を高め、脳卒中看護の質の向上に努めます。

<行動計画>

- ・緊急血管内治療が実施される際に、OPE室での初期対応が可能なスタッフを育成する。
- ・入院時より早期離床・リハビリテーションを実施しチームで総合的な離床の取り組みを行う。
- ・SCUでt-PA対応できるよう超急性期看護の知識・技術を身につける。

III：業績

入院患者 総数	4 南病棟 稼働率	SCU 稼働率	ICUから 4 南へ転床	ICUから SCUへ転床	白十字リハビリテーション 病院への転院件数	地域包括ケア 病棟（6 南） 転出件数
848名	93.1%	93.5%	145件	67件	178件	129件

※SCUは、2023年 8 月 1 日より新設。2024年 3 月 16日～ 4 月 14日の期間は 3 床で運用

脳神経外科 入院患者数	脳血管内科 入院患者数	手術件数	t-PA件数	脳卒中再発予防 教室参加者	脳血管障害地域 連携パス使用件数
478件	298件	459件	9 件	131件	155件

IV：現状と展望

脳卒中センターは2023年 8 月にSCUが新設され、SCU 6 床と一般病床39床の45床となった。
SCUでは、入院時より多職種で早期離床のカンファレンスを開催し早期離床加算を算定している。
また脳卒中リハビリテーション認定看護師を中心にアルテプラゼ療法の知識、技術を深め、2024
年 2 月よりSCUでアルテプラゼ療法の対応が可能となった。また、年々、緊急血栓回収療法が増
加しているが、夜間祝祭日、院内発症時の対応は治療開始までに時間を要している現状にある。その
ため、院内発症においては、各部署にスクランブル対応時のフロー、スクランブルセットを配置し緊
急時に活用できるようにした。また、緊急血栓回収療法の際、SCU看護師が手術室の初期対応が行
えるようにマニュアルを作成し、夜間、祝祭日に手術室のオンコール看護師が来院するまでの間、物

品の準備等を行えるスタッフを4名育成した。しかし、現時点では手術室搬入までの時間は短縮されておらず今後も育成スタッフを増やし、1分、1秒でも早く治療が開始できる体制を構築していく必要がある。

また今年度は、脳卒中センター主催でいしまるしえで地域住民を対象に、第1回脳卒中予防講座を開催し25名が参加した。脳卒中予防講座を開催することで、地域住民の脳卒中予防への意識、知識が深まり予防策の普及、早期治療推進にもつながると考え、次年度は開催件数を増やす予定である。脳卒中リハビリテーション認定看護師、法人内認定脳卒中リハビリテーションナースを中心に、入院患者の脳卒中再発予防教室を行い参加者は昨年度よりも1.5倍に増加している。脳卒中は再発率が高い疾患であり、より効果的な患者教育の推進にむけ個別指導を取り入れていく必要がある。また患者だけでなく、家族も疾患に対する理解が乏しく不安を抱いているケースも少なくない。危険因子の管理と生活習慣の改善には家族の協力も不可欠なため、家族指導にも取り組むことが重要と考える。

● 5 階北病棟

課長 三島 久美子

I. 構成員

看護課長：三島久美子
看護主任：入江 育美、瀧本 幸久
看護師：25名
病棟クラーク：1名

II. 臨床活動

前年度の3/16から看護課長1名、主任1名、看護師9名、ケアスタッフ2名が配属となった。COVID-19患者の減少に伴い、コロナ専用病床7床、一般急性期病床38床とし、診療科に関わらず入院患者の受け入れを行った。5/8からCOVID-19が感染症法上の5類となったことから、専用病床は優先病床となった。7/16から病棟再編が行われ、外科、泌尿器科、乳腺外科を診療科とする病棟となった。看護師も12名が異動となり、総勢27名となった。外科の経験がない看護師が11名加入し、外科看護が安全に提供されない懸念があったが、固定チームナーシング受け持ち制を再開し、外科の経験がある看護師を中心に、重篤なアクシデントもなく看護の提供ができた。2024/1/18から病床管理における方針転換で、優先病床であった7床は停止、他の病棟でもCOVID-19患者を受け入れることとなった。他病棟の多床室でCOVID-19患者が発生した場合、同室者をコホート隔離のうえ、5階北病棟でも受け入れ、常時COVID-19患者が1～3名入院した。5階北病棟ではクラスターの発生はなく、周術期の患者を安全に看護することができた。

2023年度は外科病棟として、周術期に適切な看護を提供できる礎を築くことができたと考える。

III. 業績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均在院患者数 (静態)	20	28.3	29.5	33.4	39.8	38.2	39.2	38	36.8	36	40.1	38.1
病床稼働率	65.5	70.5	72.3	81.5	94.6	91.6	95	92.6	90.8	86.7	98.4	93.4
緊急入院患者 受け入れ数	53	55	62	61	43	43	47	38	37	51	52	46
手術件数												
外科・乳腺	6	12	16	20	18	14	26	35	35	29	38	35
泌尿器科	20	14	15	18	24	16	26	30	25	32	32	28
その他	1	1	3	5	1	5	8	2	0	0	2	0

IV.現状と展望

2023年度は入院1243件、退院1091件と、手術が必要な患者を受け入れることができた。

看護体制の構築や必要物品の確保など基礎的な病棟機能を備えることができ、外科病棟として標準的な看護の提供ができています。今後は学習会や事例検討などの機会を増やし、すべてのスタッフが学習、成長できる病棟にするとともに、看護に専念できる働きやすい職場となるよう業務改善を行う。2024年度はダビンチ手術支援ロボットの導入が決定しており、クリニカルパスを作成し、手術を受ける患者の更なる安全確保に向けて活動する。

● 5 階南病棟

課長 馬場 聖子

I：構成員

看護配置 7 対 1

看護課長 1 名、看護主任 2 名、看護師23名、看護補助者11名、クラーク 2 名

(緩和ケア認定看護師 1 名、法人内認定皮膚ケアナース 2 名、法人内認定NSTナース 1 名、法人内認定認知症ケア指導者 1 名)

II：臨床活動

- ・安全で専門性の高い看護を提供する。
- ・地域のニーズに応える救急医療を提供するため、スムーズな入院受け入れができるように努める。
- ・地域連携・法人内連携を強化し、シームレスなケアが行えるよう努める。
- ・超高齢化社会のニーズに対応した職場環境の構築に努める。

III：業績

病床稼働率 (昨年度)	年間入院患者数 (昨年度)	緊急入院患者数 (昨年度)	年間退院患者数 (昨年度)	白十字リハビリテーション 病院転院患者数 (昨年度)
92.02% (96.9%)	1,298人 (1,482人)	731人 (735人)	1,106人 (1,347人)	234人 (223人)

平均在院患者数 (静態) (昨年度)	手術搬入件数 (昨年度)	超過勤務時間 (1人当たり月平均) (昨年度)	重症度、医療・看護必要平均 (昨年度)
38.38人 (41.0人)	808件 (821件)	4.64時間/人 (4.89時間/人)	45.05% (39.65%)

IV：現状と今後の展望

当病棟は整形外科、形成外科、眼科、歯科口腔外科の専門病棟である。緊急入院患者が多い診療科を有する病棟であるため、緊急入院対応ができるよう病床コントロールと人員采配を行っている。年間800件以上の手術件数に対応し、重症度、医療・看護必要度は45.05%と高かったが、看護師の超過勤務時間は昨年度より減少できた。手術患者の対応や緊急入院受け入れにより、看護業務負担が増加したが看護補助者との連携を密に行い対応できている。今後も、看護補助者とのタスクシェア、タスクシフトを進め、看護師、看護補助者ともに働きやすい病棟づくりを目指していく。

多くの緊急入院患者を受け入れるにあたっては、退院支援の充実が欠かせない要素となるが、当病棟では入院時からリハビリ担当者や病棟担当MSW等の関係各所と連携を図りながら、患者一人一人に合った退院先を選択できるように支援を行っている。特に、白十字リハビリテーション病院への転

院調整に関しては、医師やリハビリテーション担当者とのチームワークを活かし手術後 1 週間での転院調整開始をすすめている。今後も自立支援・退院支援に向けた多職種カンファレンスを積極的に開催し、チームで患者の社会復帰に向けて取り組む体制を構築し、安全で専門性の高い医療・看護が提供できるように努めていく。

● 6 階北病棟

課長 室井 美枝子

I：構成員

看護配置 7 対 1

看護課長 1 名、看護主任 2 名、看護師 27 名、クラーク 2 名

(がん化学療法看護認定看護師 1 名、日本糖尿病療養指導士 1 名、福岡糖尿病療養指導士 4 名)

II：臨床活動

- ・病床を有効に活用し、緊急入院患者のスムーズな受け入れを行う。
- ・チーム医療を発揮し、患者家族が目指す退院支援が促進できる。
- ・多職種と協働し、専門性を高め糖尿病看護の質の向上に努める。

III：業績

<2023年度各種データ>

病床稼働率	年間入院数	年間退院数	緊急入院受け入れ数	HCU稼働率
90.9%	1,247人	1,127人	681件	106.4%

<看護師療養指導件数>

糖尿病教育患者数：51人 糖尿病外来新患患者数：225人 再診患者数：7732人

新患指導	フットチェック	外来教育	インスリン	SMBG	リブレPro	リブレ
150	119	107	58	36	5	4

デクスコム	フットケア外来	透析予防加算	糖尿病療養指導総数
25	157	6	1,309

<化学療法実施件数>

泌尿器	外科	乳腺外科
50件	40件	30件

IV：現状と展望

当病棟は、糖尿病内科・肝臓内科・呼吸器内科・消化器内科の混合病棟である。外来の糖尿病センターは、病棟と一元化している。糖尿病療養指導士を中心に糖尿病外来での療養支援としてフットケア・外来教育・インスリン指導・持続グルコースモニタリングの管理指導を行っている。

持続グルコースモニタリング（デクスコム、リブレ）は、これまでで分らなかった血糖変動、特に夜間の低血糖を見つけることが可能となった。可視化された血糖変動を患者と一緒に確認することで、治療に関するサポートだけでなく、患者の日常生活の相談にのる事も可能となる。

今後も、持続グルコースモニタリングを看護師の療養支援に取り入れていき、患者との信頼関係の

構築や治療意欲の向上につなげていきたい。糖尿病教育入院患者では、プログラムに沿い、医師、看護師・薬剤師・栄養士・検査技師、理学療法士で講義・指導を行っている。今後も専門的な指導や退院支援が行えるよう、病棟全体で計画的に人材育成を行っていく。

当病棟にて、初回の化学療法を担っており、アレルギーの早期発見、不安の軽減、セルフケア支援を行っている。安全に投与管理が継続できるようレジメ毎に看護手順マニュアルを作成し、セルフケア支援が充実するように、クリニカルパスの作成、改訂を行っていく。

緊急患者の受け入れがスムーズに行えるように、重症個室・HCUのベッドコントロールを行い、緊急入院患者を待たせないような調整を行っている。入院受け入れ態勢が強化できるように業務改善を行っていく。多職種での退院支援カンファレンスを実施することで、退院先を見据えた支援が行えている。退院前は、施設担当者や在宅担当者と退院前カンファレンスを行う事で、安心した退院ができる支援体制の構築を築いている。

● 6 階南病棟

次長 藤田 美保

I：構成員

病棟担当課長 1 名、主任 2 名、看護師20名（常勤18名、非常勤 2 名）、介護福祉士 3 名（常勤 1 名、非常勤 2 名）、看護補助者 3 名（常勤 1 名、非常勤 2 名）、クラーク非常勤 1 名

II：臨床活動

1. 目標地域の救急医療に対するニーズに応えるためにPost Acuteとしての役割りを自覚しMSWやセラピスト、医師と協働して退院支援を進め、病床を有効的に活用する。
2. 地域の医療・介護スタッフと連携し、病状や生活状況に合わせた必要なサポートを指導し、在宅復帰への準備を整える。
3. 在宅からの入院を 4 割以上（入院割合のうち）受け入れ、Sub Acuteとしての機能を担い、病床管理に貢献する。

III：業績

	実績
患者数	42.3人/日
病床稼働率	100.6%
平均在院日数	15.6日
自院転床割合	55.2%
自宅等からの入院割合	44.1%
在宅復帰率	78%
重症度、医療・看護必要度	13.52
在宅サービスの調整	323件
認知症患者の割合	33.1%
退院時患者満足度アンケート③	4.73
ユマニチュードバッチ取得	11人
離職率	12%
時間外	2126.8時間/年

Ⅳ：現状と展望

地域包括ケア病棟の施設基準は達成しました。今年度は退院支援を充実させるために、早期の多職種カンファレンスを開催できたことで、在宅サービス調整や家族への支援もできました。今後も老々介護や独居高齢者に対しても退院支援が増加することが考えられるため、スタッフの知識の向上と多職種で協力して支援していきたいと考えています。自部署で認知症患者が3割を超え、高齢の認知症患者対応のスキルもさらに求められます。看護師、看護補助者がユマニチュードインストラクターの指導も積極的に受け、技術の向上を目指しました。今後も病棟全体、多職種協働し、認知症患者ケアを充実させたいと考えています。

6. 感染制御部

感染制御部部长 井手 均

I：構成員

部長：井手 均

課長：山口 佐月

看護師：小方 直子

II：臨床活動

感染制御部部长 井手均、感染制御部課長 山口佐月（ICN、院内感染管理者）、薬剤部副主任 八木美里、臨床検査技術部主任 助川悠紀子を中心とし、病院感染対策委員会と各部会にて活動を行った。本年度の目的は、病院内で問題となる感染症の発生状況を早期に把握し、感染拡大を防止することで、患者及び職員を守り、また医療経済の面でも貢献することとした。年間を通した定型業務としては、環境整備、手指衛生、抗菌薬適正使用などのコンプライアンスに関する巡回、マニュアルの整備、院内全体および部署ごとの研修、指導、患者や職員向けの広報活動、各種ワクチンの接種などを行った。抗菌薬適正使用については、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）での活動を継続し、本年度は123症例に介入を行った。

新型コロナウイルス感染症については、引き続き協力医療機関として162症例の入院治療を行った。院内での感染対策については、2023年5月に5類感染症に移行後も新型コロナウイルス対策本部で方針を決定し、対応を行った。（なお、新型コロナウイルス対策本部は、2024年3月をもって解散した。）年間で計4回の院内発生、水平伝播が生じたが、発生初期に検査を行って感染者を隔離し、診療に対する影響を最小限にとどめ、入退院制限を行うことはなかった。感染経路は不明であることが多かったが、職員による持ち込みが疑われる事例もあり、再発防止が必要と考えられた。

2023年10月の病院機能評価受信では、1.4.1「医療関連制御に向けた体制が確立している」ではA評価、1.4.2「医療関連制御に向けた情報収集と検討を行っている」ではB評価であった。後者に対して、中心静脈カテーテル感染、人工呼吸器関連肺炎のサーベイランスが行われていないこと、尿路感染、手術部位感染のサーベイランスが一部の病棟、診療科に限られていることを指摘されており、今後体制を構築していく必要がある。

施設基準に関しては、感染対策向上加算2を維持し、連携する加算1施設（福岡大学病院）が主催するカンファレンス、訓練に計4回参加した。その他、福岡地区のICT交流会、サーベイランス報告会に参加した。

7. 薬剤部

I：構成員

部長：高津 宏典

主任：水之江 峻介、香月 舞、長江 真智子

副主任：八木 美里

薬剤師：20名（非常勤1名含む）＊2023年度当初の人員数

アシスタント：6名

II：臨床活動

1）病棟業務

- ・処方提案件数：1,137件（うち採択数：1,085件）
- ・薬剤管理指導料1：1,557件
- ・薬剤管理指導料2：3,653件
- ・麻薬管理指導料：60件
- ・退院時薬剤情報管理料：1,533件
- ・退院時薬剤情報連携加算：135件
- ・薬剤総合評価調整加算：10件
- ・薬剤調整加算：5件

2）外来業務

- ・外来腫瘍化学療法診療料1：928件
- ・連携充実加算：332件
- ・がん患者管理指導料：56件

3）中央業務

業務内容		件数
調剤	外来	6,440件
	入院	136,703件
	注射	177,850件
持参薬鑑別		5,224件
持参薬代替薬提案		324件
抗がん剤調製		997件

4）薬学部実務実習受け入れ

福岡大学：4名、福山大学：1名、安田女子大学：1名

Ⅲ：業績

【講演】

1. 地域医療連携に向けた薬剤師の取り組み ～薬薬連携による入退院支援～
高津宏典（西区医師会学術講演会・啐啄会、福岡、2023.7.19）
2. 薬剤管理サマリーに込めた思い
高津宏典（福岡市西区医療保険研修会、福岡、2023.8.21）
3. みんなで考えよう！服薬アドヒアランス
高津宏典（第8回福岡市西部地区 薬薬連携講演会、福岡、2024.9.27）
4. CKDに対する薬薬連携の必要性
高津宏典（糸島エリアCKD医療連携を考える会、福岡、2023.10.26）
5. irAEに対する当院の取り組みと課題
田川慎二（がん薬薬連携2023、福岡、2023.12.5）
6. 薬薬連携による入退院支援 ～急性期病院における取り組み～
高津宏典（日本病院薬剤師会 中小病院研修会薬剤師実践セミナー、東京、2023.12.7）
7. 薬薬連携による入退院支援
高津宏典（福岡県病院薬剤師会 薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ、福岡、2024.12.10）
8. 乳がんの薬物療法「免疫療法とその副作用について」
田川慎二（西区医師会学術講演会・啐啄会、福岡、2024.1.17）
9. 薬物治療の出発点 服薬アドヒアランスを考える
高津宏典（福岡西部薬薬連携スキルアップセミナー、福岡、2024.2.20）
10. 薬局薬剤師と病院薬剤師の協働
高津宏典（筑後ブロック 薬局薬剤師と病院薬剤師の合同ワークショップ、福岡、2024.3.6）
11. フォーミュラ最近の話題 ～睡眠薬を含めて～
高津宏典（高齢者薬物療法を考える会、福岡、2024.3.12）
12. 薬局薬剤師と病院薬剤師の協働 ～薬薬連携による入退院支援と服薬フォローアップ～
高津宏典（第8回 にいがたみなみ 薬薬連携を考える会、新潟、2024.3.17）
13. 地域医療連携に向けた薬剤師の取組み
高津宏典（医師・薬剤師における地域医療セミナー、福岡、2024.3.19）

【院外業務】

1. 福岡県病院薬剤師会理事 高津宏典
2. 福岡地区勤務薬剤師会理事 高津宏典
3. 腎と薬剤研究会 世話人 高津宏典
4. 福岡県病院薬剤師会精神科薬物療法研修会世話人代表 高津宏典

IV：現状と課題

2021年の分院・新築移転後、薬剤師の業務も年々増加しており、それに伴う薬剤師関連の診療報酬も年々増えています。

そのような中で、2023年度は退職者が重なり人員が限られた事により業務整理や人員配置の変更等をせざる負えない時期もあり薬剤部にとっては苦しい1年でした。しかしながら、時代に合わせた社会人教育、専門教育、薬剤師採用のあり方を再考する良いきっかけとなりました。薬剤部スタッフをはじめ他部門のご協力により薬剤部では初めて2名のスタッフが育児休暇や産休を取得できたことで、より良い職場環境づくりの良いきっかけになりました。

2023年度に開始した薬剤師インターンシップ制度を利用した学生や即戦力となる中途者を採用することができました。2024年度は業務拡大と質の向上、学術レベルの向上を図るとともに薬剤師の働き方改革、より良い職場環境の整備、そしてより良い薬物治療が提供できる部門であることを目標にしたいと考えています。

8. 放射線技術部

I：構成員

部門長

部長：兵頭 朗（～2023年9月）

部門長

課長：川口 高志（2023年10月～）

係長：山口 広之

主任：田中 良斉、立山 貴士

前田 悠葵、森田 健太郎、熊谷 衛、山川 雄大、佐藤 圭紀、中島 碧泉

中野 優、平山 健心、下田 泰輝、尾郷 亜未、兵頭 朗（2023年10月～）

受付事務：吉川 京美 検査アシスタント：山田 末子 看護師：檜崎 未菜

II：臨床活動

【資格者一覧】

第1種放射線取扱主任者1名、マンモグラフィ撮影認定技師3名、放射線管理士6名、放射線機器管理士7名、医用画像情報精度管理士4名、X線CT認定技師2名、救急撮影認定技師3名、放射線被ばく相談員2名

【放射線技術部検査件数・2023年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	2446	2586	2648	2566	2496	2480	2691	2584	2746	2732	2635	2497	31107
CT	1230	1241	1293	1246	1241	1191	1336	1222	1357	1283	1220	1239	15099
MRI	412	387	379	368	379	387	386	368	386	365	391	395	4603
RI	32	44	37	35	26	33	41	44	39	33	26	41	431
ANGIO	32	25	43	39	29	29	31	35	31	34	30	42	400
心カテ	21	28	25	32	41	30	30	22	27	31	31	34	352
胃透視・小腸透視	3	1	6	1	5	0	3	2	3	6	9	4	43
注腸	0	1	0	1	1	0	1	2	2	1	0	1	10
ERCP	26	20	27	25	27	16	20	22	23	18	23	24	271
ミエロ	0	1	0	0	0	1	0	3	1	0	1	0	7
IVP・DIP	21	32	24	27	25	17	27	22	29	16	23	14	277
UG・CG	5	5	4	2	4	2	4	7	2	1	3	1	40
マンモグラフィ	68	64	90	62	47	81	93	79	100	70	49	78	881
術中イメージ	33	29	48	29	11	38	47	41	56	52	57	45	486
その他透視検査	22	30	31	39	29	40	27	15	23	27	21	24	328
骨密度（骨塩定量）	56	40	53	63	50	64	69	60	76	76	79	78	764
健診 胸部	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
〃 胃透視	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃 マンモグラフィ	10	13	13	86	20	5	10	19	35	10	19	17	257
脳ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4417	4547	4721	4621	4431	4417	4816	4547	4936	4755	4617	4534	55359

【院外検査依頼数・2023年度】

	CT 院外検査依頼数			MRI 院外検査依頼数			RI 院外検査依頼数		
		総件数	依頼率 (%)		総件数	依頼率 (%)		総件数	依頼率 (%)
4 月	38	1230	3.1	26	412	6.3	8	32	25.0
5 月	18	1241	1.5	28	387	7.2	12	44	27.3
6 月	44	1293	3.4	29	379	7.7	9	37	24.3
7 月	22	1246	1.8	29	368	7.9	5	35	14.3
8 月	27	1241	2.2	17	379	4.5	6	26	23.1
9 月	29	1191	2.4	14	387	3.6	11	33	33.3
10月	33	1336	2.5	30	386	7.8	10	41	24.4
11月	32	1222	2.6	23	368	6.3	11	44	25.0
12月	39	1357	2.9	23	386	6.0	7	39	17.9
1 月	29	1283	2.3	23	365	6.3	7	33	21.2
2 月	27	1220	2.2	29	391	7.4	5	26	19.2
3 月	28	1239	2.3	21	395	5.3	9	41	22.0
合計	366	15099	2.42	292	4603	6.34	100	431	23.20

Ⅲ：業績

○北米放射線学会（RSNA）（2023年10月）

CT検査時アイトラッキングを用いたワークフロー評価 Canon共同発表 山口 広之

○福岡県診療放射線技師会（2023年10月）

健康相談訓練 健康講話 熊谷 衛

○第33回日本乳癌検診学会学術総会（2023年11月）

- ・「当院のマンモグラフィにおいてカテゴリー 3 のFADの所見で見つかった乳癌症例の検討」

中野 優

○2023年度白十字会放射線技術部Institute（2023年 3 月）

- ・「当院のマンモグラフィにおいてカテゴリー3のFADの所見で見つかった乳癌症例の検討」

中野 優

- ・「心外集積抑制法を用いた心筋シンチグラフィで下壁の集積低下がアーチファクトと疑われた 1 例」

立山 貴士

- ・「TI法を用いた下肢動脈造影の検討」

下田 泰輝

Ⅳ：現状と展望

2023年 4 月、開院 3 年目を迎えました。放射線技術部では10月より診療放射線技師 1 名が白十字リハビリテーション病院へ専属技師として異動し、15名体制で運用することとなりました。

2022年 3 月に導入された新CT装置はメーカー初号機（全世界初）ということもあり2023年度も全国から多くの見学者の方々が来られました。

また、今年も昨年同様「安全・安心な検査の提供」「チーム医療の推進」を目標に掲げ活動しました。

チーム医療の推進では、読影力向上を目的に放射線科医師との合同カンファレンスを行うことで医師への読影補助体制を強化しました。今後も、最新の医療機器を駆使し、安全で安心な医療の提供を行い、患者および関わるスタッフから信頼される放射線技術部をめざして努力を継続します。

9. 臨床検査技術部

I：構成員

<医師>

臨床検査科統括責任者：入江 克実

臨床検査科部長：木村 廣志

病理診断科部長：大谷 博

<臨床検査技師>

部長：森 健一

係長：尾上 由美

主任：小出 祐子（病理検査室）、助川 悠紀子（微生物検査室）、長野 淳一（生理検査室）

古賀 晶子（生理検査室）、濱口 奈津子（業務改善担当）

スタッフ（役職除く）

臨床検査技師（常勤）18名、臨床検査技師（パート）1名、看護師（パート）1名、

準看護師（パート）3名、アシスタント（パート）3名

所有資格

超音波検査士 5 名（体表 2 名、消化器 4 名、循環器 3 名）、乳がん検査超音波検査実施技師 1 名、細胞検査士 2 名、国際細胞検査士 1 名、認定病理検査技師 1 名、認定一般検査技師 3 名、二級臨床検査士 8 名（免疫血清 1 名、病理 2 名、血液 1 名、微生物 2 名、循環生理学 1 名）、緊急臨床検査士 5 名、福岡県糖尿病療養指導士 2 名、分析機器・試薬アナリスト検定 1 名、認定穿刺液細胞検査技師 1 名、臨床検査技師臨地実習指導者講習会修了 1 名、上級バイオ技術者 1 名、健康食品管理士 1 名、医療情報技師 1 名、第 2 種 ME 技術実力検定試験 1 名、特定化学物質作業主任者 1 名、有機溶剤作業主任者 1 名、毒物劇物取扱者 4 名、ICLS 蘇生トレーニング 2 名、上級救命講習修了 1 名、普通救命講習修了 2 名、タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会修了 6 名

II：活動（各種件数）

【検体検査】

単位：件

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
生 化 学	8,267	8,800	8,745	9,391	9,754	9,083	9,718	9,512	9,537	9,153	8,902	8,855	109,717
免 疫	4,772	4,772	4,917	4,788	4,996	4,511	5,090	4,846	4,881	4,836	4,818	4,606	57,833
血 液	7,503	7,726	7,981	7,874	7,996	7,264	7,954	7,554	7,812	7,800	7,387	7,439	92,290
凝 固	3,448	3,810	3,575	3,475	3,471	3,097	3,397	3,248	3,395	3,358	3,418	3,070	40,762
一 般	3,967	4,163	4,134	3,899	4,113	3,988	4,278	4,059	3,904	3,789	3,754	3,735	47,783
輸 血	539	544	623	550	562	525	586	554	597	532	627	572	6,811
外 注	1,486	1,167	1,015	995	866	1,033	1,277	1,043	1,016	1,054	2,082	1,221	14,255
細 菌	1,313	1,194	1,082	1,151	1,283	1,089	1,023	1,053	1,159	1,216	1,063	931	13,557
病理組織	231	247	266	250	234	284	264	301	293	249	246	235	3,100
細 胞 診	33	49	57	58	40	60	53	49	60	35	33	29	556
合 計	31,559	32,472	32,395	32,431	33,315	30,934	33,640	32,219	32,654	32,022	32,330	30,693	386,664

【血液製剤使用数】

単位：単位数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
RBC	222	270	238	304	224	178	254	240	278	196	240	220	2,864
FFP	84	70	72	156	62	26	112	84	44	36	68	74	888
PC	270	240	180	250	210	160	170	160	80	10	140	150	2,020
自己血	28	10	14	16	8	12	0	12	0	8	6	0	114

【血液製剤廃棄率】

単位：％

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
RBC	0.0	0.0	0.8	0.0	0.9	1.1	1.5	1.7	0.0	1.0	0.8	0.0	0.7
FFP	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	2.6	1.8
PC	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
自己血	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	2.8

【新型コロナウイルス遺伝子検査】

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
LAMP	437	363	251	302	317	280	223	238	230	234	241	231	3,347
PCR	268	205	166	212	252	188	195	167	234	269	256	189	2,601
合計	705	568	417	514	569	468	418	405	464	503	497	420	5,948

【病理組織】

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
外来件数	1,068	1,037	1,184	850	1,024	877	1,091
入院件数	1,862	1,704	1,778	1,789	1,930	1,945	2,009
外注件数	9	22	20	13	15	26	23
合計	2,939	2,763	2,982	2,652	2,969	2,848	3,123

【細胞診】

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
外来件数	418	255	259	199	339	305	281
入院件数	220	247	194	196	233	238	275
合計	638	502	453	395	572	543	556

【病理解剖】

年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
剖検数	4	2	2	0	4	1	1
剖検率	1.62%	0.82%	0.78%	0.00%	2.09%	0.49%	0.43%

剖検番号	剖検日	科・病棟	診療科	年齢	性別	主病名
HA-23-01	2023.12.18	ICU	血管外科	80	F	重症肺炎、胸部ステントグラフト内挿術後

【CPC（Clinicopathological Conference）】

開催回	開催日	司会	執刀医	主治医	診療科	参加者数
第41回	2023.12.13	大谷 博	大谷 博	松島 怜央	腎臓内科	38名

【生理機能検査】

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
心電図	796	773	748	759	768	766	825	800	799	770	838	757	9,399
トレッドミル	1	2	2	1	1	3	1	2	4	1	7	5	30
ホルター心電図	36	45	36	35	35	39	40	46	43	37	39	40	471
心臓超音波	294	340	313	298	295	287	296	314	306	326	322	314	3,705
経食道超音波	4	5	5	5	3	2	3	6	7	4	4	4	52
腹部超音波	202	224	253	211	210	224	242	250	242	202	244	250	2,754
乳腺超音波	95	93	123	92	78	102	118	104	128	97	78	111	1,219
他表在超音波	6	12	14	9	13	10	11	8	8	6	17	11	125
頸動脈超音波	100	85	91	94	96	91	88	97	89	74	89	106	1,100
他血管超音波	47	65	48	54	53	51	65	45	55	46	66	60	655
脳波	14	16	10	11	12	22	12	6	12	15	11	18	159
肺機能	4	5	6	8	7	4	11	8	7	8	9	7	84
自律神経	8	9	3	0	8	7	9	7	3	8	6	6	74
ABI	82	72	60	54	49	59	71	62	59	66	66	91	791
SPP	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
24時間血圧	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4
CPX	2	5	2	3	0	2	2	1	2	1	4	0	24
合 計	1,693	1,753	1,715	1,634	1,629	1,670	1,796	1,756	1,764	1,661	1,800	1,780	20,651

<臨地実習・施設見学>

1. 国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科 3 年次生 4 名
2023年10月 2 日～11月30日（41日間）
2. 純真学園大学検査科学科 3 年次生 1 名
2023年11月27日～2024年 2 月 2 日（39日間）
3. 純真学園大学検査科学科 1 年次生 11名
2024年 2 月28日

Ⅲ：業績

【発表・講演】

1. マンモグラフィ所見が石灰化のみであった超音波所見の検討：佐藤 佑子（第33回日本乳癌検診学会学術総会、一般演題（口演）、福岡国際会議場、福岡、2023.11.24）
2. 解析報告（尿）：尾上 由美（第52回福岡県医師会臨床検査精度管理調査結果研修会、福岡県医師会館、福岡、2024.2.17）

【座長】

1. 「医療DX」今おさえておくべきポイントとは：森 健一（福岡県病院協会 第 8 回臨床検査研修会、浜の町病院、福岡、2024.3.9）

【法人内発表】

1. 経過観察し得た肝炎症性偽腫瘍の一例：大町 安耶子（第17回白十字会臨床検査研究会（第10回白十字会臨床検査部門Institute）、Web、福岡、2024.3.16）

2. 尿攪拌方法の違いが沈渣成分に及ぼす影響について：宮崎 悠太（第17回白十字会臨床検査研究会（第10回白十字会臨床検査部門Institute）、Web、福岡、2024.3.16）
3. 採血室の運用における問題点と改善点：三木 香奈子（第17回白十字会臨床検査研究会（第10回白十字会臨床検査部門Institute）、Web、福岡、2024.3.16）

【関連団体活動】

1. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区 副地区長 森 健一
2. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区 臨床一般部門 部門長 尾上 由美
3. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 福岡地区 臨床検査総合部門 副部門長 森 健一
4. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 総務・発送部会 委員 森 健一
5. 一般社団法人福岡県臨床衛生検査技師会 総務・発送部会 委員 森谷 康弘
6. 公益社団法人福岡県病院協会 臨床検査委員 委員長 森 健一
7. 九州乳腺超音波研究会 世話人会計担当 古賀 晶子

IV：現状と展望

臨床検査技術部では、患者さんの一日も早い社会復帰のために、正確かつ迅速な検査結果・情報を提供し、医療チームの一員として24時間体制で業務にあたることを目標としている。今年度も、新型コロナウイルス感染症対応が続いた一年であった。継続して、遺伝子検査の24時間対応、入院時検体採取（鼻腔）などの業務を実施した。また、業務改善を推進し各スタッフが担当領域だけでなく、二つ目三つ目の領域の業務ができるように進めている。学会や研修会等の開催は、Web開催がメインではあるが、学会など現地でも開催されるようになっており、状況にあった参加形式が選択できるため、スケジュール調整ができ参加しやすくなっている。

各診療科では、手術、救急、治療など高度な医療提供が増加してきており、当部門でも臨床へ貢献できるように体制を強化し対応していきたい。件数や業務量も年々増加しており、今後は、業務改善・効率化を徹底して実施し、タスク・シフト／シェアへ向けて新たな業務へと繋げていきたい。

10. 臨床工学部

I：構成員

部長：浦田英明

係長：豊田竜也

主任：小川憲太朗、船原拓馬

副主任：岡田卓也

スタッフ：吉岡健志、岡村純、牟田享平、松本萌、吉満拓哉、西村香織、平岩穂乃佳

津曲優花、中村彩香、井手滉輔、渡久地風冬、古賀駿太、塔尾太城

アシスタント：千々岩美佐子

II：臨床活動

当部門では、臨床技術提供を目的とした、血液透析業務（透析センター）、医療機器の安全管理を目的とした、ME機器管理業務、手術室業務（人工心肺、スコープオペレーター）、心臓カテーテル検査業務（アブレーション含む）、急性期血液浄化業務（ICU）、人工呼吸器関連業務（ICU）、ペースメーカー管理業務、内視鏡業務、睡眠時無呼吸症候群管理業務等を行っている。

III：業績

【学会発表】

1. ACT測定におけるカートリッジ選択の有用性：平岩穂乃佳（第18回九州沖縄臨床工学会、久留米シティプラザ、2023.11.05）
2. 配管洗浄入れ忘れの事例分析と対策評価について：津曲優花（第54回九州人工透析研究会総会、別府国際コンベンションセンター、2023.11.26）

IV：現状と展望

今後、安全な医療機器、医療技術の提供とともに専門性を生かすためチーム力、技術力アップ標準化を図り院内および地域に高度な医療を提供する。

また、DX化の推進と医師、看護師業務のタスクシフト/シェアの推進を行い業務効率、安全性の向上に努めていきたい。

業務記録

【透析業務 水質管理記録】

●生菌採取結果

単位：CFU/ml

	2023年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年1月	2月	3月
原水	1.667											
ROタンク後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
個人用RO		0	0	0.033								0
セントラル	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 (前)	0											
1 (後)	0											
2 (前)	0											
2 (後)	0											
3 (前)		0										
3 (後)		0										
4 (前)		0										
4 (後)		0										
5 (前)		0										
5 (後)		0										
6 (前)			0									
6 (後)			0									
7 (前)			14									
7 (後)			0									
8 (前)				0								
8 (後)				0								
9 (前)				0								
9 (後)				0								
10 (前)					0							
10 (後)					0							
11 (前)					0							
11 (後)					0							
12 (前)						0						
12 (後)						0						
13 (前)						0						
13 (後)						0						
14 (前)						0						
14 (後)						0						
15 (前)						0						
15 (後)						0						
16 (前)						0						
16 (後)							0					
17 (前)							0					
17 (後)							0					
18 (前)							0					
18 (後)							0					
19 (前)							0					
19 (後)								0				
20 (前)								0				
20 (後)								0				
21 (前)								0				0
21 (後)												0
22 (前)									0			
22 (後)									0			
23 (前)											0	
23 (後)											0	
24 (前)										0		
24 (後)										0		
25										0		
26 (前)											0	0
26 (後)											0	
27											0	
予備機										0	0	
200si前											0	
200si後											0	

●エンドトキシン採取結果

単位：EU/ml

	2023年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年1月	2月	3月
原水	0.442				6.02							
ROタンク後	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
個人用RO												0.001未満
セントラル	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
1（前）	0.001未満											
1（後）	0.001未満											
2（前）	0.001未満											
2（後）	0.001未満											
3（前）		0.001未満										
3（後）		0.001未満										
4（前）		0.001未満										
4（後）		0.001未満										
5（前）		0.001未満										
5（後）		0.001未満										
6（前）			0.001未満									
6（後）			0.001未満									
7（前）			0.001未満									
7（後）			0.001未満									
8（前）				0.001未満								
8（後）				0.001未満								
9（前）				0.001未満								
9（後）				0.001未満								
10（前）					0.001未満							
10（後）					0.001未満							
11（前）					0.001未満							
11（後）					0.001未満							
12（前）					0.001未満							
12（後）					0.001未満							
13（前）						0.001未満						
13（後）						0.001未満						
14（前）						0.001未満						
14（後）						0.001未満						
15（前）						0.001未満						
15（後）						0.001未満						
16（前）							0.001未満					
16（後）							0.001未満					
17（前）							0.001未満					
17（後）							0.001未満					
18（前）							0.001未満					
18（後）							0.001未満					
19（前）								0.001未満				
19（後）								0.001未満				
20（前）								0.001未満				
20（後）								0.001未満				
21（前）												0.001未満
21（後）												0.001未満
22（前）									0.001未満			
22（後）									0.001未満			
23（前）											0.001未満	
23（後）											0.001未満	
24（前）										0.001未満		
24（後）										0.001未満		
25										0.001未満		
26											0.001未満	
27											0.001未満	
出張機(200si)前											0.001未満	
出張機(200si)後											0.001未満	
予備機										0.001未満		

【ME機器管理業務 月別稼働実績】

●輸液ポンプ稼働率

所有台数 (台)	104												
月別稼働率 (%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	82.08	93.17	88.79	92.07	89.98	84.93	98.76	97.09	84.63	89.39	84.95	74.5	88.9

●シリンジポンプ稼働率

所有台数 (台)	75												
月別稼働率 (%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	84.11	92.05	76.86	77.42	75.27	69.27	73.82	76.1	80.74	76.44	67.31	75.1	77.0

●メラサキューム稼働率

所有台数 (台)	11												
月別稼働率 (%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	70.3	62.17	61.82	47.21	40.76	40.3	44.28	41.21	36.07	35.78	35.11	35.78	45.9

●パルスオキシメーター稼働率

所有台数 (台)	14												
月別稼働率 (%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	30.37	34.23	32.96	40.32	44.27	49.07	47.67	34.07	46.42	44.09	39.46	37.99	40.1

●人工呼吸器稼働率

所有台数 (台)	IPPV	NPPV	NHF										
	7	4	3										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
IPPV(%)	51.11	50.18	50.74	57.35	58.78	56.67	67.03	62.22	53.41	51.25	43.68	54.12	54.7
NPPV(%)	68.89	39.78	67.78	73.12	111.83	62.22	84.95	60	36.56	55.91	41.38	68.82	64.3
NHF(日)	55.56	65.59	91.11	72.04	51.61	65.56	38.71	58.89	47.31	81.72	85.06	54.84	64.0

【アフエーシス業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
CHDF	4	17	5	9	6	2	7	13	0	0	4	5	72
吸着療法	0	0	0	2	2	4	0	0	5	5	0	0	18
腹水濾過濃縮	3	0	0	2	4	3	6	4	2	6	4	6	40
計	7	17	5	13	12	9	13	17	7	11	8	11	130

【PM チェック件数】

件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	12	8	7	12	12	41	48	35	30	28	30	10	273

【SAS 解析件数】

件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	3	4	7	3	1	1	0	4	3	1	4	2	33

【心臓カテーテル業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
CAG	10	11	10	15	19	16	9	10	5	12	14	11	142
PCI	7	11	12	9	16	8	11	9	13	10	10	16	132
PMI	2	1	0	3	2	2	2	1	2	5	1	3	24
緊急	5	7	5	5	4	3	3	0	6	3	2	9	52
シャントPTA	2	1	6	2	5	4	7	4	4	7	4	4	50
ジェネレーター交換	0	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	1	7
下大静脈フィルター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右心カテ	0	0	0	3	1	0	0	2	1	1	1	1	10
LVG	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
下肢PTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一時ペーシング	1	1	1	0	2	1	3	1	2	3	0	0	15
計	27	33	34	37	50	35	37	28	34	41	32	45	433

【手術室業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外科	22	36	39	34	28	39	43	33	38	23	37	28	400
泌尿器科	28	23	30	33	35	36	39	44	31	31	38	33	401
整形外科	1	1	3	0	3	1	1	1	1	2	2	0	16
形成外科	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	5
脳外科	14	8	14	19	15	21	20	22	21	17	19	15	205
眼科	11	22	21	16	11	15	6	9	7	7	1	3	129
歯科	0	0	2	1	2	1	2	0	1	0	2	0	11
血管外科	0	5	5	4	6	3	3	2	1	3	0	7	39
心臓外科	11	6	8	8	5	4	6	11	9	4	6	4	82
脳血管	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	6
I V R	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	8
スコピスト	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	8	2	18
その他	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	5
計	90	103	123	119	108	122	121	122	114	92	118	93	1325

【内視鏡業務 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上部	154	135	143	145	148	147	145	157	126	133	135	146	1714
下部	105	102	115	98	108	120	124	104	112	97	92	111	1288
ESD	1	3	2	2	3	3	1	4	3	4	2	2	30
EUS	2	3	2	2	2	2	3	4	4	2	2	0	28
EVL	1	2	0	1	5	3	0	0	3	2	2	1	20
EIS	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	4
PEG造設	4	0	3	2	0	1	4	2	2	1	1	1	21
PEG交換	1	2	3	1	3	0	4	2	0	0	1	1	18
ERCP,ERCP+EST	26	20	27	25	27	17	20	22	23	18	23	24	272
その他	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	6
計	294	268	295	276	297	294	302	298	274	258	258	287	3401

【オンコール対応 実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
カテ/心外	4	4	1	1	4	3	2	1	4	1	0	4	29

【医療機器 点検・修理対応 実績】

●定期点検件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ME機器	29	8	21	16	36	25	26	18	28	28	38	17	290
透析室	20	14	12	21	36	45	22	41	14	20	27	48	320
手術室	11	7	10	8	9	11	8	5	22	0	2	1	94
内視鏡室	11	7	10	8	9	11	8	5	22	0	2	1	94
計	71	36	53	53	90	92	64	69	86	48	69	67	798

●院内・院外修理件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ME機器	院内	6	6	2	5	8	5	10	7	8	1	4	63
	院外	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
透析室	院内	2	0	0	2	0	3	0	0	3	0	2	12
	院外	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
手術室	院内	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	院外	1	2	0	0	2	1	1	0	3	0	0	11
内視鏡室	院内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	院外	1	0	1	0	2	1	0	1	0	0	1	7
計		12	10	5	7	12	10	11	8	14	1	6	99

【医療機器 院内教育・研修実績】

※ 新規導入機器研修

日時	研修対象	人数	内容	主催	場所
4月5日	臨床工学部	6	IVUS説明会（手術室）※	業者	手術室
4月13日	4N看護師	13	PMI後の日常生活について	岡田	4N
4月24日	ICU看護師	4	呼吸器の基礎と使い方	平岩	ICU
4月26日	HD看護師	8	抗凝固剤について	井手	透析室
4月27日	ICU看護師	12	呼吸管理で注意する点	松本	ICU
5月6日	ICU看護師	12	IABPについて	岡田	ICU
5月15日	臨床工学部	4	ドリップアイについて※	業者	CE室
5月29日	HD看護師	9	前希釈・後希釈について	渡久地	透析室
5月31日	臨床工学部	7	在宅医療の概要	岡村	CE室
6月12日	臨床工学部	4	SATとSBTについて	津曲	CE室
6月20日	ICU看護師	6	アイノフローについて※	吉満	ICU
6月27日	HD看護師	10	透析回路の流れと組み間違い	西村	透析室
6月29日	ICU看護師	8	TPMについて	岡村	ICU
6月29日	臨床工学部	6	PCPSの管理について（前編）	平岩	CE室
6月30日	臨床工学部	10	PCPSの管理について（後編）	平岩	CE室
7月11日	臨床工学部/OP看護師	10	血栓回収について	脳内 徳永	手術室
7月25日	5S看護師	8	Survo-Air画面の見方について	吉岡	5S
7月26日	臨床工学部	6	塩素ガスの危険性と人体への影響	牟田	CE室
7月27日	臨床工学部	6	介護保険について	岡村	CE室
7月27日	ER看護師	5	呼吸器の基礎とNPPV	西村	ER室
7月28日	臨床工学部	8	人工呼吸器 ファイティングについて	井手	CE室
7月28日	ICU看護師	7	NO療法について	吉岡	ICU
8月8日	臨床工学部	6	日本臨床工学会還元報告	岡田	応接室5
8月31日	臨床工学部	4	ケアプランについて	岡村	CE室
9月6日	HD看護師	7	HD患者とHDF患者の違い	松本	透析室
9月7日	ICU看護師	9	ACTについて	岡田	ICU
9月11日	臨床工学部	11	リードレスペースメーカについて	渡久地	会議室2
9月12日	臨床工学部	7	和白病院見学還元報告	岡田	CE室
9月19日	臨床工学部	5	SNVを活かそう！	岡村	CE室
9月28日	HD看護師	7	透析効率を上げる為には	津曲	透析室
9月29日	臨床工学部	6	持続腎介助療法（CRRT）をうけた重症患者における高い血圧目標値の有用性	吉満	CE室
10月3日	臨床工学部	7	気切用人工鼻について	吉満	CE室
10月5日	臨床工学部	4	下肢順行性送血について	岡村	CE室
10月5日	HD看護師	9	RO水が出来るまで	中村	透析室
10月6日	臨床工学部	9	吸着型血液浄化器リクセルについて	松本	CE室
10月11日	臨床工学部	5	人工呼吸器装着患者の在宅復帰の流れ	岡村	CE室
10月16日	全職員	114	シリンジポンプの構造と正しい使用方法	岡田	e-ラーニング
10月20日	ずっと一緒にスタッフ	7	AEDの使い方	井手	GH
10月30日	4N看護師	9	除細動器の使用方法和注意点	渡久地	4N
11月1日	臨床工学部	9	ACT測定におけるカートリッジ選択の有用性	平岩	CE室
11月4日	臨床工学部	6	安全安心いっぱい月間 予行	井手	CE室
11月7日	臨床工学部	5	還元報告 患者の愁訴改善を目的としたオンラインHDFの実践	松本	CE室
11月7日	ICU看護師	5	NO療法の病体・管理について	中村	ICU
11月20日	臨床工学部	2	フルPSG検査装置「Nox Als」について	メーカ(松本)	CE室
11月30日	放射線技術部	9	自動心肺蘇生器使用方法について	井手	心カテ室
12月28日	臨床工学部	6	白十字会の在宅サービスについて	岡村	CE室
1月4日	HD看護師	9	シャントPTAの基礎	平岩	HD室
1月18日	HD看護師	10	シャント合併症について	岡田	HD室
2月6日	臨床工学部	7	在宅呼吸療法の診療報酬について	岡村	CE室
2月10日	ICU看護師	6	NO療法について	吉岡	ICU
2月14日	4N看護師	13	NO療法について	吉岡	4N
2月14日	臨床工学部	6	NO療法について	吉岡	CE室
2月28日	臨床工学部	7	透視室の検査について	西村	CE室
3月8日	ES看護師/臨床工学部	9	内視鏡勉強会	西村	ESセンター
3月8日	臨床工学部	11	スコープオペレーターについて	中村	CE室
3月9日	臨床工学部	5	生食による緊急回収について	吉満	HD室
3月18日	臨床工学部	5	介護保険サービスの種類について	岡村	CE室
3月22日	全職員	299	パルスオキシメータの原理と正しい使用方法	岡田	e-ラーニング

11. 眼科技術部

I：構成員

係長 岩崎 聡
 稲藪 美羽
 無津呂 茉莉

II：臨床活動

【2023年度 眼科技術部検査件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
矯正視力検査	349	312	351	291	277	298	299	271	262	235	223	274	3,442
眼鏡処方箋交付	5	2	5	4	4	4	3	3	0	4	5	4	43
屈折検査	109	113	135	119	116	123	129	101	103	99	71	89	1,307
角膜曲率半径計測	99	113	135	119	116	123	129	101	103	99	71	89	1,297
精密眼圧測定	339	314	354	296	281	300	300	273	264	235	226	279	3,461
眼底三次元画像解析	156	125	132	121	110	116	142	128	146	116	123	156	1,571
光干渉断層血管撮影	2	2	4	6	8	5	4	2	1	6	6	6	52
前眼部三次元画像解析	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
眼底カメラ撮影	72	79	72	59	33	60	56	52	65	42	26	67	683
静的量の視野検査	14	22	13	12	17	16	14	15	6	9	10	12	160
動的量の視野検査	16	17	18	19	18	19	20	14	17	19	17	20	214
角膜内皮細胞顕微鏡検査	21	23	25	14	14	13	17	6	10	5	2	6	156
光学的眼軸長測定	11	14	8	2	7	2	6	3	4	1	0	2	60
超音波検査（Aモード法）	0	1	0	3	1	3	3	2	2	0	1	2	18
超音波検査（Bモード法）	0	3	5	12	6	2	6	1	2	4	13	6	60
網膜電位図	2	4	3	2	2	4	4	1	0	1	0	1	24
眼球運動精密検査	1	2	3	5	5	7	4	7	5	8	6	5	58
蛍光眼底造影検査	1	3	2	1	1	2	1	1	0	2	1	2	17
自発蛍光眼底カメラ撮影	1	0	0	1	0	1	2	0	1	2	0	0	8
角膜形状解析検査	1	0	0	1	2	2	1	1	1	0	1	3	13
精密視野検査	3	3	6	2	3	9	2	3	0	1	2	3	37
調節検査	2	1	3	3	2	1	0	1	0	1	2	1	17
中心フリッカー試験	2	4	2	4	1	4	2	1	1	1	3	0	25
全視野精密ERG	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
多局所網膜電位図	1	0	0	1	0	0	3	2	0	0	0	1	8
視覚誘発電位	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
小型網膜電位計（DR判定）	12	12	7	7	16	11	17	11	7	10	12	9	131
涙液分泌機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼球突出度測定	0	0	0	1	0	2	1	0	1	1	0	0	6
色覚検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
アデノウイルス抗原精密測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
ロービジョンケア	2	0	2	4	0	1	1	0	2	2	3	3	20
合計	1,222	1,171	1,286	1,111	1,040	1,128	1,167	1,000	1,003	904	824	1,044	12,900

Ⅲ：業績

○第44回ふくおか市民糖尿病教室（2023年11月）

眼底写真検査担当 岩崎 聡

Ⅳ：現状と展望

糖尿病合併症である糖尿病網膜症進行を予防するべく、積極的に糖尿病内科医師と情報共有を図り、糖尿病入院患者への糖尿病網膜症スクリーニング検査を58件実施、眼科受診ドロップアウト患者の眼科受診提案を37件実施した。

ロービジョンケアとは、視覚に障害があるため生活に何らかの支障を来している人に対する医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援の総称である。発達・成長期にある小児に必要なハビリテーションあるいは主に成人の中途障害に対応するリハビリテーションを目的とし、よりよく見る工夫、視覚以外の感覚の活用、情報入手手段の確保、その他の生活改善、進路の決定、福祉制度の利用、視覚障害者同士の情報交換等ができるよう情報提供し、諸種の助言、指導あるいは訓練を行うことである。

2023年度は延べ20回（新規導入8名）ロービジョンケアを実施し、視覚に障害がある患者のQuality Of Vision Life（視的生活の質）の維持・向上の助けとなるべく活動してきた。

12. リハビリテーション部

I：構成員

課 長：福井 哲

係 長：谷口 由香理

主 任：古賀 研人

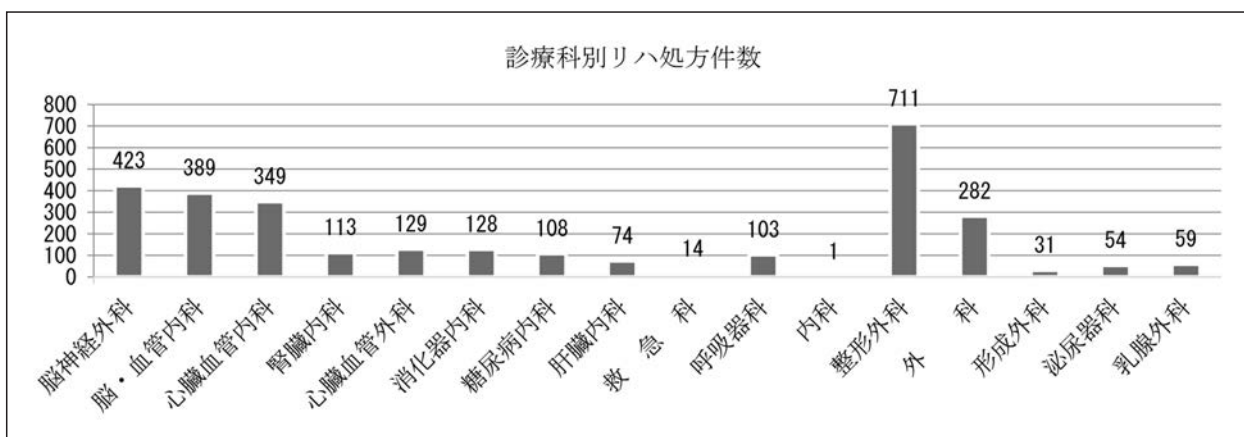
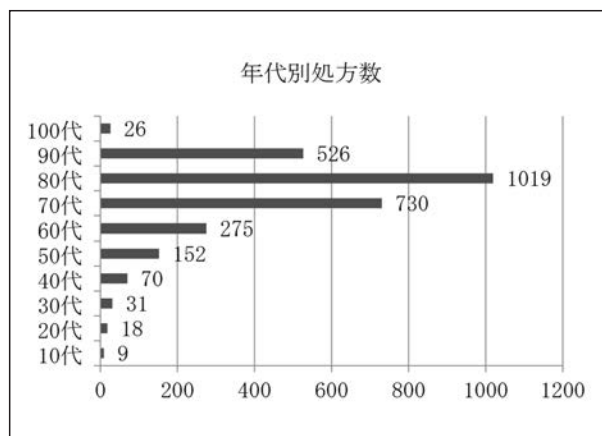
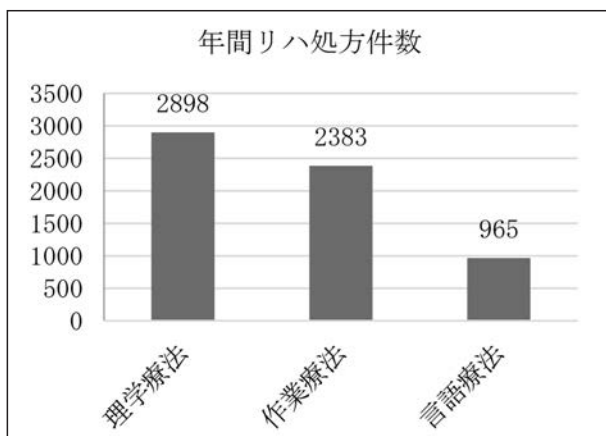
副主任：田代 千晴、田中 英二、梅田 裕樹

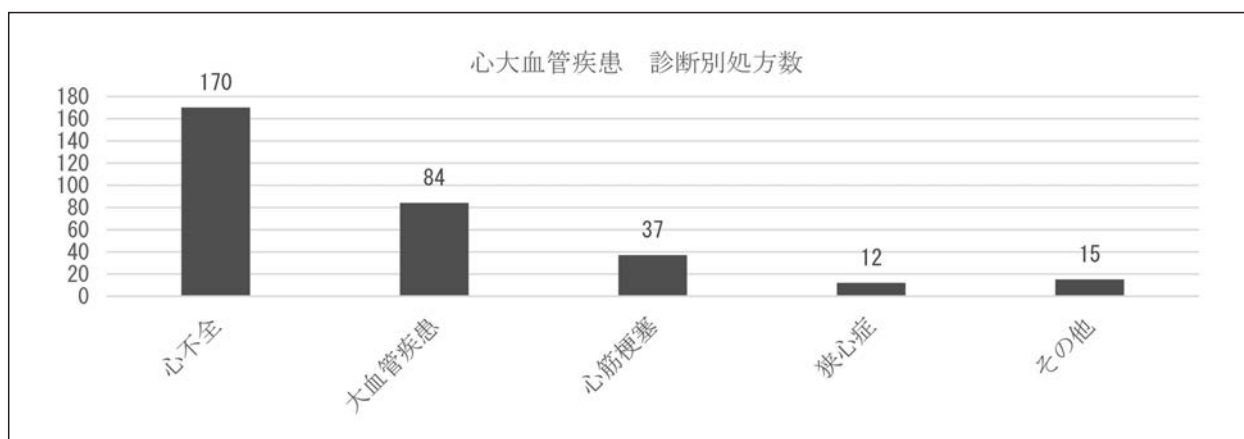
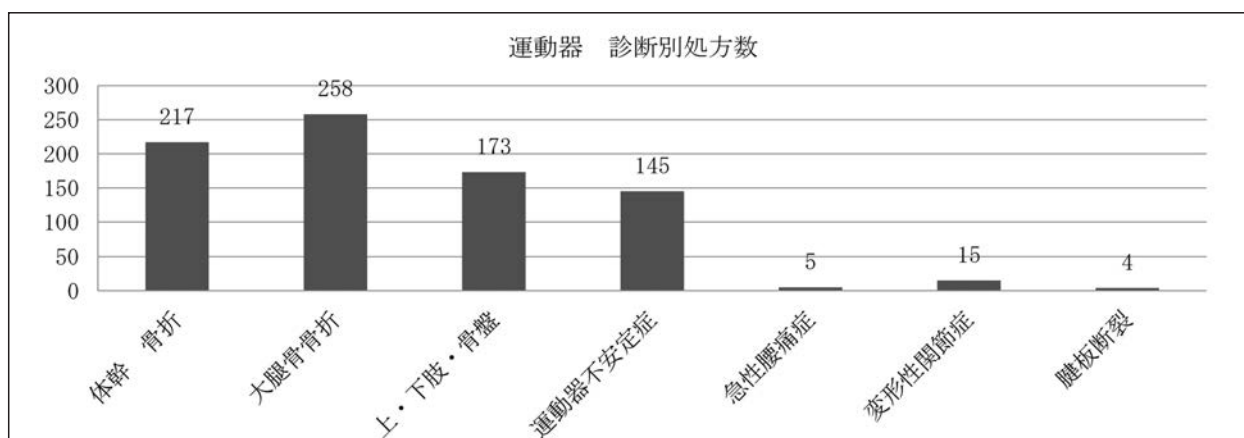
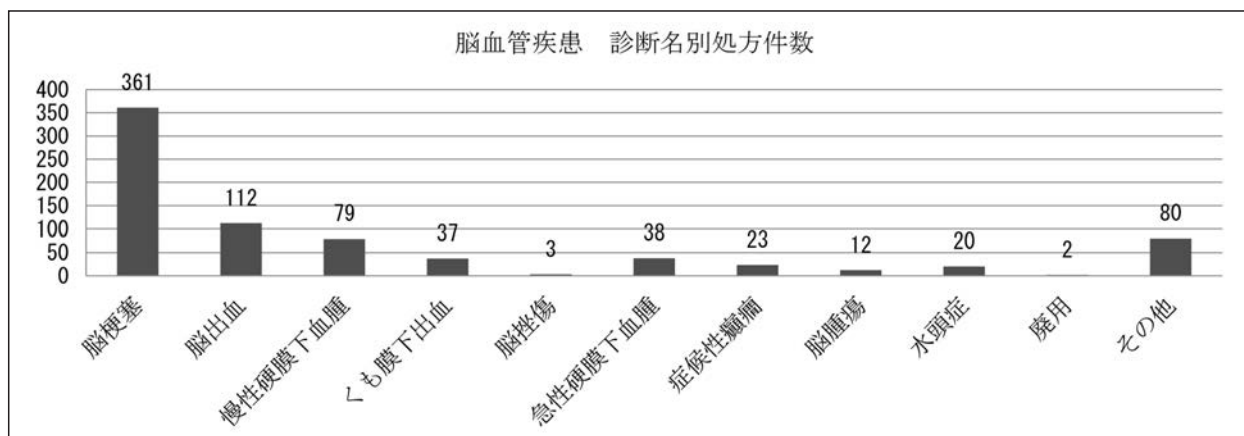
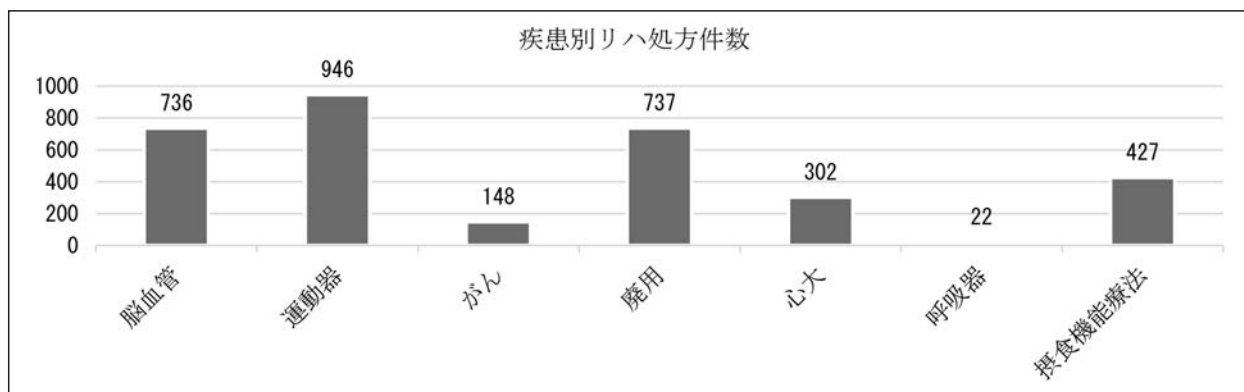
理学療法士：16名（上記役職者を除く）

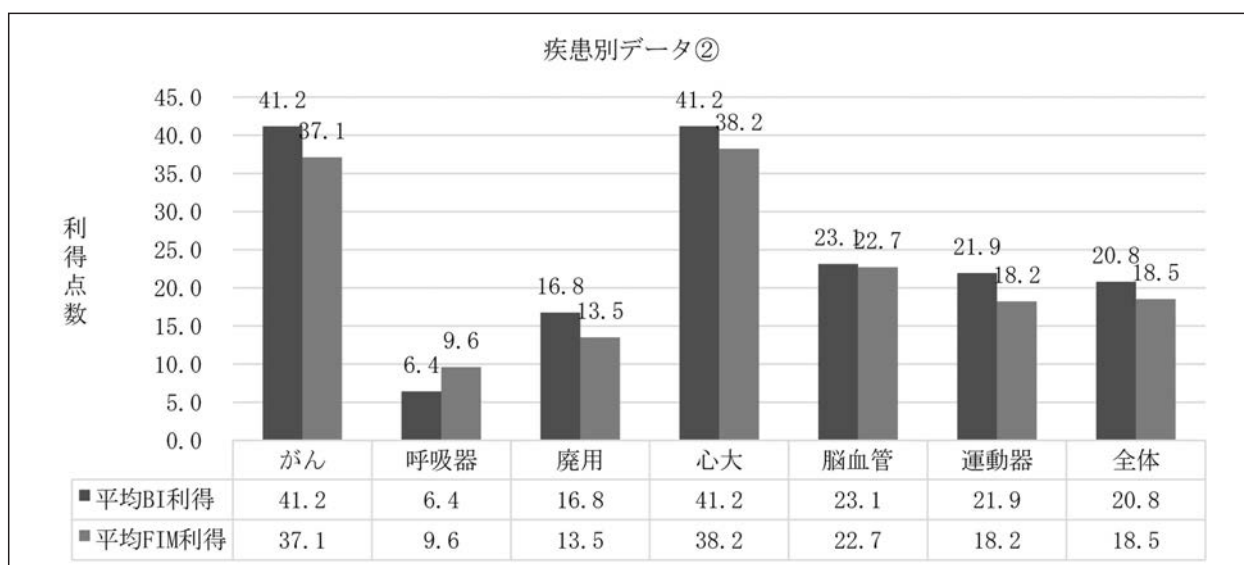
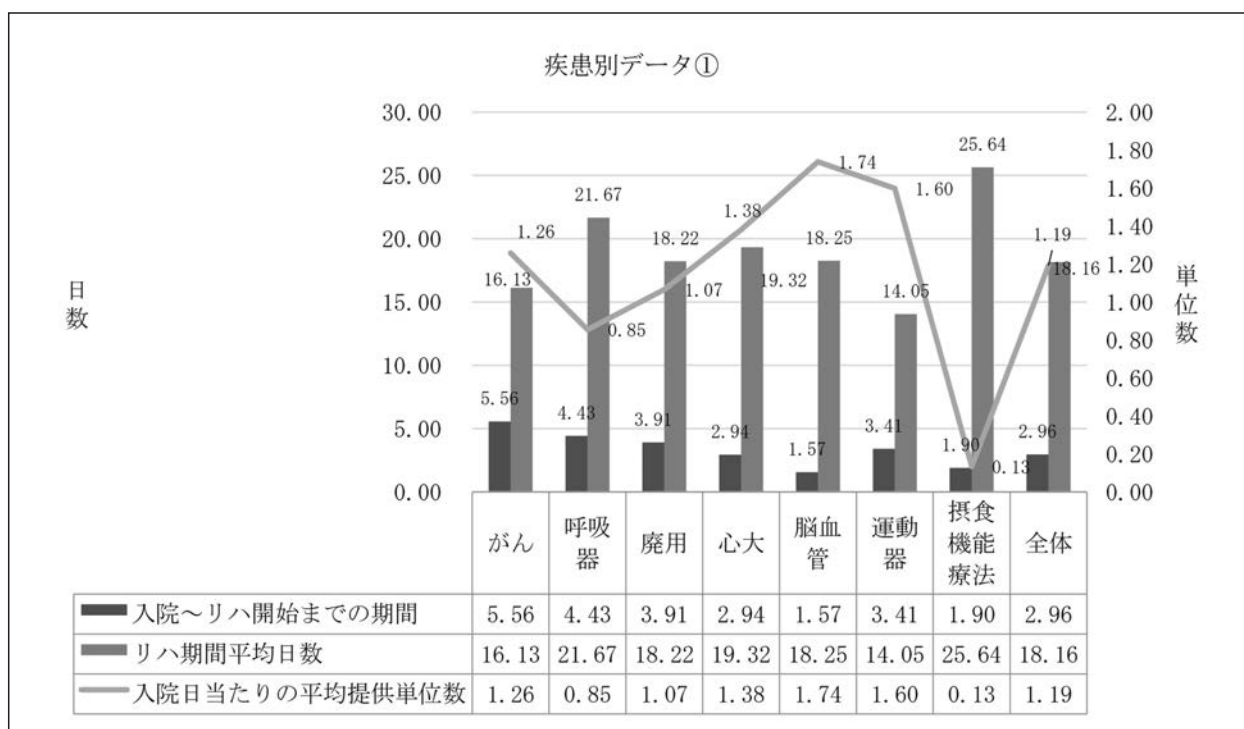
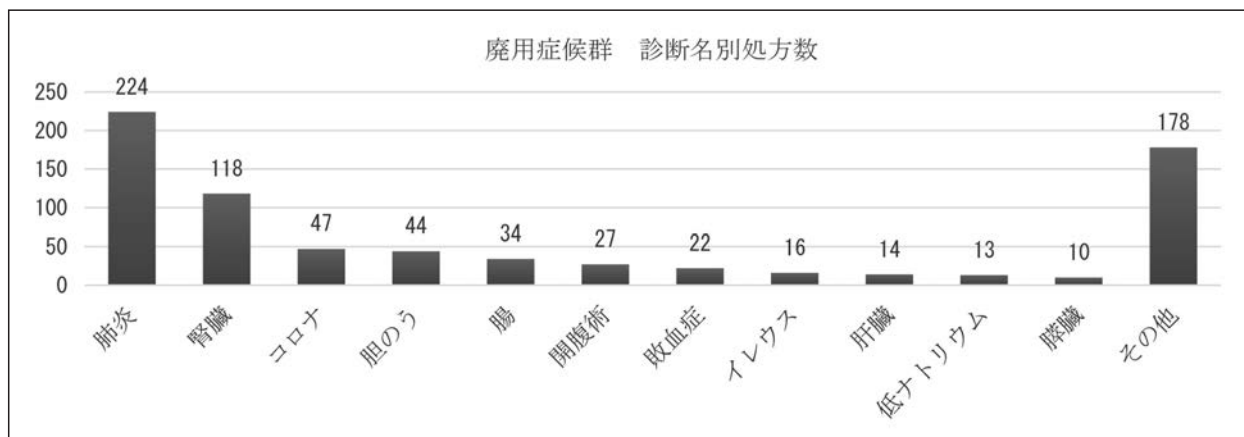
作業療法士：11名（上記役職者を除く）

言語聴覚士：5名（内：パート職員1名）

II：臨床活動 リハビリテーション処方内容







【心肺運動負荷試験（CPX）】

心臓血管内科医及び臨床検査技師、理学療法士立会いのもと、CPX検査を実施し、運動処方などに役立っている。

対象は心不全、心筋梗塞、心外術後等とし、24件の実施となった。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	5	2	3	0	2	2	1	2	1	4	0	24件

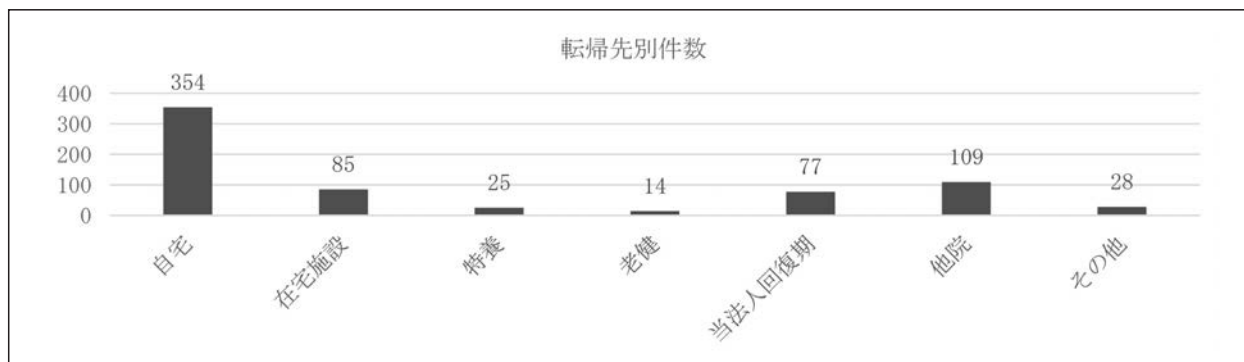
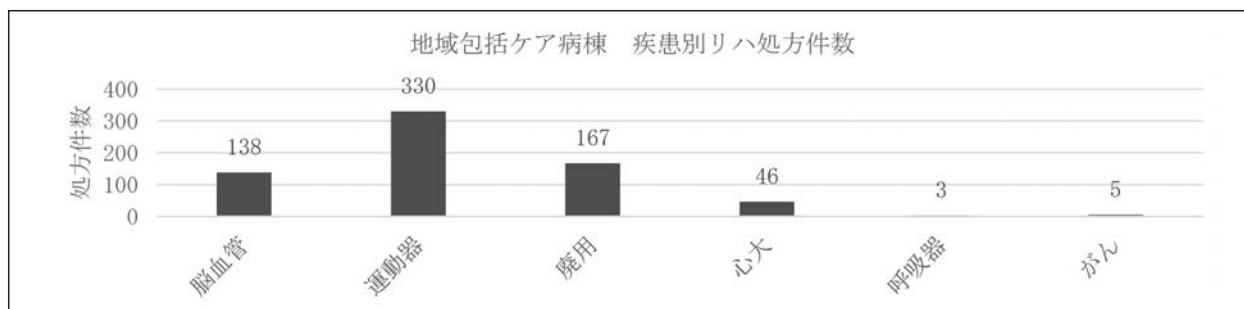
【HAL】

昨年度に引き続きHAL®医療用単関節タイプとHAL®腰タイプ自立支援用を用いて73症例に対して合計388回の実施を行った。1名HAL®医療用単関節タイプのインストラクター資格を取得し、学術活動は第12回日本脳神経HAL研究会にて2演題、第2,3回九州HAL愛好会、第9回地域包括ケア病棟研究大会、第60回日本リハビリテーション医学会においてそれぞれ1件ずつの合計6演題の発表を行った。今後も患者のリハビリテーション治療への活用、学会発表等を積極的に行う予定である。

【地域包括ケア病棟】

2023年度は理学療法士5名、作業療法士（専従1名）4名、言語聴覚士1名、リハ助手1名で地域包括ケア病棟に入棟された方に対し在宅復帰に向けたリハビリテーションを展開した。今年度も疾患別のリハビリテーションに加えて包括算定を活かした補完代替リハ（通称CARB）の取り組みを強化した。リハ助手を配置することで定期的な集団リハの開催、院内デイサービスの充実が図れ、入院患者の離床の拡大に繋がった。

リハビリテーションの処方率は約63%、患者一人当たりの提供単位数は2.1単位であり、リハ処方患者における在宅復帰率は67%と施設基準維持に貢献した。



Ⅲ：業績

【学会発表】

1. 地域包括ケア病棟においてロボットスーツHAL®短期入院を行った一例：古賀研人、渡邊芳彦、山下泰貴、梅田裕樹、谷口由香理、神崎由起、三浦聖史、井上 亨（第60回日本リハビリテーション医学会学術集会、福岡県、2023.7）
2. 当院地域包括ケア病棟における集団リハの取り組み報告～リハ助手、HAL®腰タイプ自立支援用の活用～：古賀研人、渡邊芳彦、山下泰貴、因幡星二、吉岡凌汰、井上 亨（第9回地域包括ケア病棟研究大会、東京、2023.7）
3. 運動主体感が低下した脳卒中患者に対するHAL®の使用効果：谷口由香理、渡邊芳彦、山下泰貴、梅田裕樹、古賀研人、井上 亨（第3回HAL愛好会、福岡、2023.9）
4. 脳卒中後の肩関節運動障害に対するHAL®の有効性の検討：梅田裕樹、渡邊芳彦、山下泰貴、田代千晴、古賀研人、谷口由香理、福井 哲、藤原史明、福田健治、林 修二、井上 亨（第12回日本脳神経HAL研究会、福岡、2023.12）
5. 「HAL®医療用単関節タイプを用いた足部・足関節骨折術後リハビリテーションの効果」－シングルケースABAB法デザインによる検討－：山下泰貴、渡邊芳彦、谷口由香理、梅田裕樹、古賀研人、小林知弘、井上 亨（第12回日本脳神経HAL研究会、福岡、2023.12）

【資格取得者一覧】

2023年度 新規取得資格

・三学会合同呼吸認定療養士	1名
・心リハ指導士	1名
・心不全療養指導士	1名
・福岡県糖尿病療養指導士	1名

Ⅳ：現状と展望

2023年度は新型コロナウイルスの感染拡大が下火となり、徐々に活動を再開できつつある。その一つとして、ノルディックウォークミニ体験会を開催し、地域に開かれた事業を開催出来た。また、急性期病院である白十字病院でのリハビリテーションは、ロボットスーツHAL®等の最新の機器を取り入れ、早期介入、早期離床に力を入れ、今後も地域支援病院として様々な活動を行っていききたい。

13. 栄養管理部

I：構成員

管理栄養士 8 名

II：臨床活動

①2023年度 栄養指導件数（2023年 4 月～2024年 3 月）

	集団指導（糖尿病・腎臓病教室）				個人指導 (非加算含む)	糖尿病 療養支援外来 (非加算含む)	糖尿病透析 予防指導	合計
	開催クール数	実施件数						
		延べ実施回数	(非加算含む) 延べ人数					
4 月	2	12	5	26	126	53	1	185
5 月	3	13	13	34	149	47	0	209
6 月	1	2	2	4	117	54	0	173
7 月	1	1	6	6	119	34	1	160
8 月	1	6	3	18	96	29	0	128
9 月	3	11	16	53	118	19	0	153
10 月	2	11	3	16	118	25	0	146
11 月	2	6	8	19	124	27	0	159
12 月	1	6	3	18	115	26	0	144
1 月	2	11	5	32	131	46	0	182
2 月	2	11	6	31	120	39	0	165
3 月	0	0	0	0	141	57	0	198
合 計	20	90	70	257	1,474	456	2	2,002

【個人栄養指導内訳】

糖 尿 病	1,108件 (57.4)	肝 疾 患	18件 (1.0)
脂 質 異 常 症	66件 (3.4)	胃 切	24件 (1.3)
高 血 圧	274件 (14.2)	胃・十二指腸潰瘍	10件 (0.5)
腎 疾 患	187件 (9.7)	低 栄 養	3 件 (0.1)
透 析	165件 (8.6)	嚥 下 障 害	4 件 (0.2)
膵 炎	6 件 (0.3)	が ん	10件 (0.5)
イ レ ウ ス	2 件 (0.1)	そ の 他	51件 (2.6)
肥 満	2 件 (0.1)	合 計	1,930件 (100.0)

② 1 ヶ月あたりの給食食数（食）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
一 般 食	一般食	7,823	7,635	8,092	9,577	9,796	8,214	9,492	8,301	8,359	8,886	7,762	8,813	102,750
	ハーフ食	1,495	1,641	1,270	1,343	1,132	1,036	1,453	1,557	1,153	1,078	1,653	1,266	16,077
	濃 厚 流動食	1,044	842	665	1,171	1,446	981	1,497	1,357	1,603	1,705	1,525	1,178	15,014
	合 計	10,362	10,118	10,027	12,091	12,374	10,231	12,442	11,215	11,115	11,669	10,940	11,257	133,841
特 別 食		8,211	8,704	8,159	7,962	8,071	8,191	7,824	7,507	7,928	8,479	8,761	8,935	98,732
外来透析食		131	161	156	147	153	143	145	142	134	147	119	117	1,695
合 計		18,704	18,983	18,342	20,200	20,598	18,565	20,411	18,864	19,177	20,295	19,820	20,309	234,268
特別食比率		44.2%	46.2%	44.9%	39.7%	39.5%	44.5%	38.6%	40.1%	41.6%	42.1%	44.5%	44.3%	42.5%

●月平均（食）

一般食：11,153

特別食：8,228

外来透析：141

合計（月平均）19,522

Ⅲ：業績

学会発表：なし

Ⅳ：現状と展望

2023年4月白十字病院は9名体制でスタートしたが、その後退職者が続き、年度半ばより7名体制で業務を遂行することとなった。また、部署内でのバランスや新人育成の観点から年度内での人員補充は一旦見送り、次年度早々での人員補充完了を目指して採用スケジュールを立て実施、2023年度内に次年度の人員確保を行うことができた。その他には新たな資格取得者も2名増加となり、次年度では新しいメンバーが増えることもあり、人材育成・管理栄養士の質向上に注力していく。

栄養指導件数は全体として個人栄養指導は件数が減少した。また担当管理栄養士の育成やマンパワーの問題等も影響し糖尿病療養支援外来では昨年に引き続き減少した。栄養指導や病棟業務での栄養管理の質の向上等、次年度に向けての課題は山積しており部門全体で課題改善に取り組んでいきたい。給食管理では患者からの評価にあまり変化はなかったものの、今後も安定した給食管理及び業務効率化を更に図っていく。また、新たな取り組みとして法人外（病院・施設退院）への栄養情報提供書作成および送付を開始し、転院時の情報提供、連携の強化を更に推進していく。

14. 事務部門

【入院動態患者数（退院を含む）】

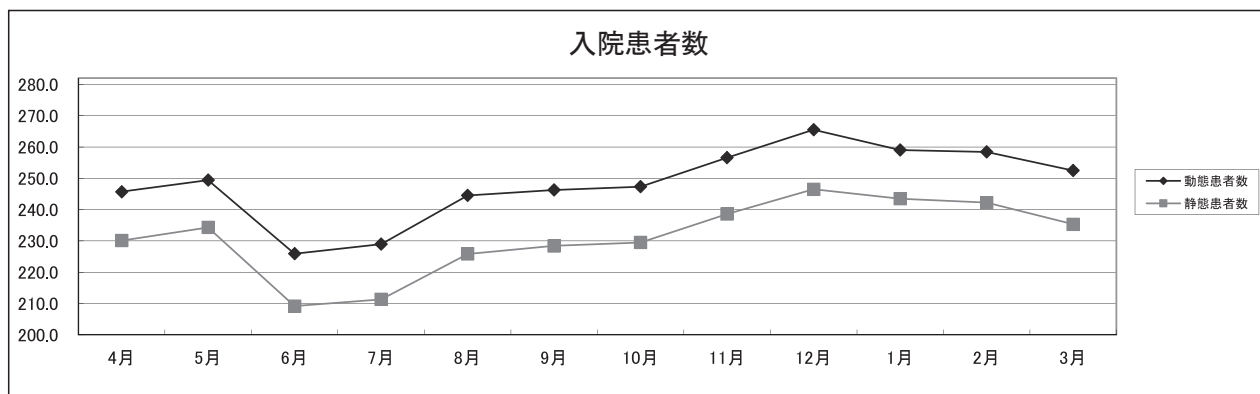
(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	稼働率
249.4	248.7	248.0	262.4	265.8	251.7	264.4	254.6	253.3	264.4	278.7	264.8	258.9	91.8%

【入院静態患者数】

(人)

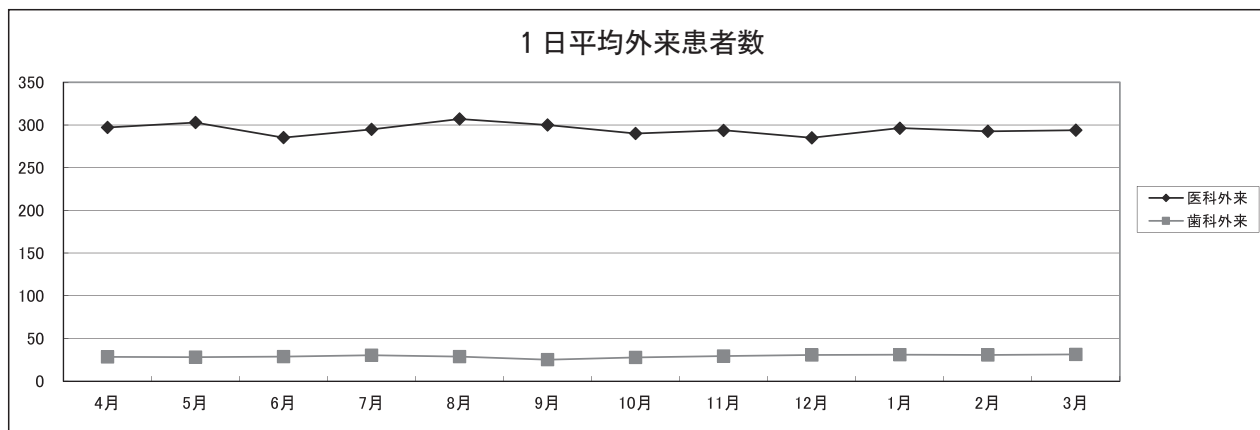
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	占床率
231.4	231.1	229.5	243.6	247.3	232.7	246.3	235.5	233.1	247.6	258.8	245.1	240.2	85.2%



【1日平均外来患者数】

(人)

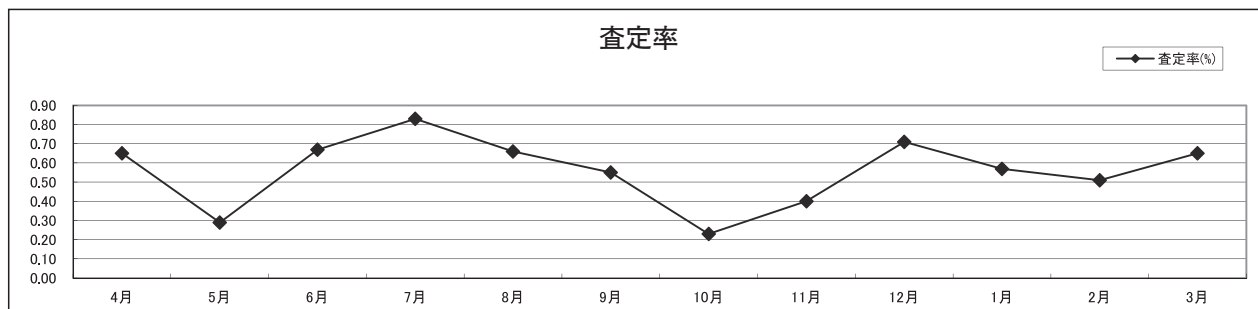
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医科外来	297.0	302.9	285.1	294.9	307.0	299.9	289.9	293.7	285.0	296.3	292.6	294.0	294.7
歯科外来	28.4	28.1	28.6	30.4	28.6	25.1	27.7	29.3	30.7	30.9	30.6	31.3	29.1



【診療報酬に対する査定率】

(%)

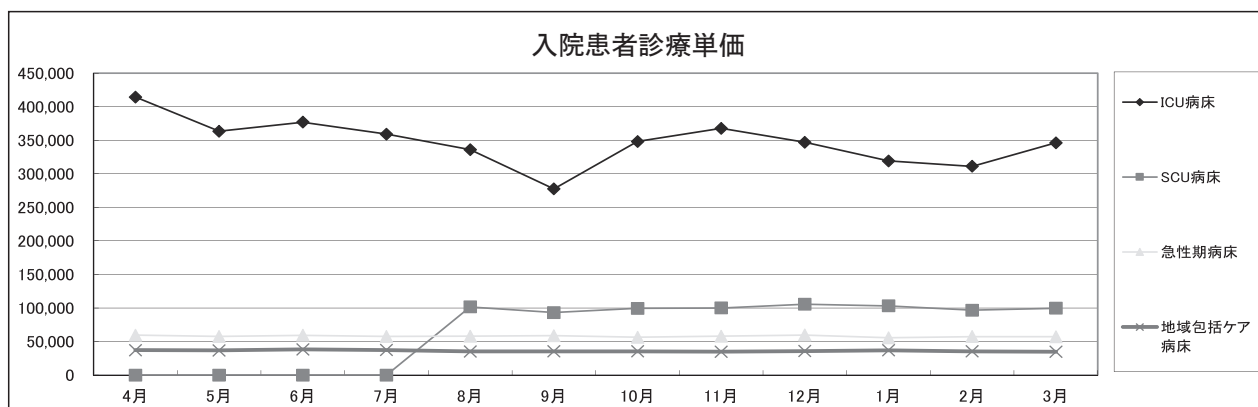
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
査定率(%)	0.65	0.29	0.67	0.83	0.66	0.55	0.23	0.40	0.71	0.57	0.51	0.65	0.56



【入院患者診療単価】

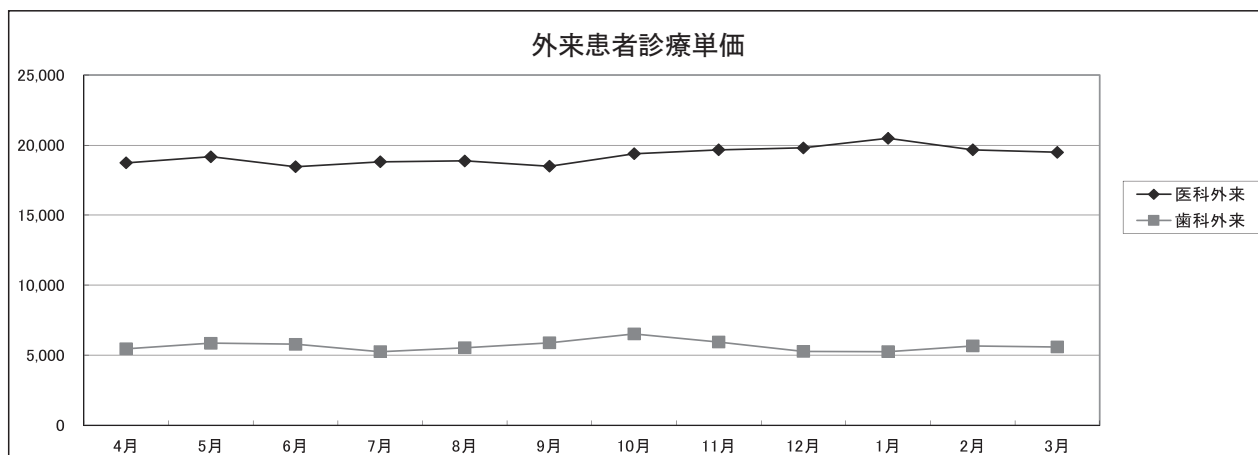
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
ICU病床	414,416	363,472	376,921	359,143	335,930	277,482	348,139	367,661	347,090	319,150	311,207	346,328	346,417
SCU病床	—	—	—	—	101,606	93,176	99,397	100,003	105,587	103,223	96,731	99,610	100,020
急性期病床	59,378	57,427	59,368	57,449	57,933	58,715	56,356	57,821	59,595	55,632	57,320	57,056	57,806
地域包括ケア病床	37,190	36,662	38,307	37,329	35,237	35,388	35,360	34,792	35,797	36,960	35,353	34,769	36,101
平均	75,702	62,810	63,633	63,336	64,245	62,848	59,481	61,787	66,311	65,369	61,795	64,803	64,305

SCU病床 2023.8月～『脳卒中ケアユニット入院医療管理料』



【外来患者診療単価】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医科外来	18,734	19,168	18,451	18,802	18,867	18,490	19,377	19,655	19,800	20,485	19,665	19,484	19,248
歯科外来	5,454	5,857	5,779	5,246	5,529	5,880	6,518	5,937	5,274	5,247	5,666	5,585	5,664



【2023年度 主要医療機器・環境設備等導入一覧】

部 門	機 器 (具) 名
診 療 部	医師用机・椅子・PC・スチールラック・サイドテーブル・モニター・プリンター・工事用配線一式
脳血管内治療科	血小板凝集測定装置
腎 臓 内 科	B粉末剤自動溶解装置
消 化 器 内 科	高周波手術装置
外 科	トンプソン社スコープホルダー 一式
脳 神 経 外 科	Primado 2
心 臓 血 管 外 科	末梢血管セット
泌 尿 器 科	腎盂鏡
整 形 外 科	MediCAD
I C U運営委員会	電動昇降リフト式体重計 スマートリフトスケール 2
手術センター運営委員会	眼科用手術台
	ポータブル透視装置 CALNEO CROSS
	ANSPACHドリルシステム 電気式（脳神経外科との共同購入）
手 術 セ ン タ ー	エアウェイマネジメントモバイルスコープ
臨床研修センター	レサシアンシュミレーターPlus+Simpad Plus
看 護 部	ベッドパンウォッシャー
	ベッド・ベッド柵・オーバーテーブル 6 台
薬 剤 部	手術室在庫管理システム
臨床検査技術部	臨床用ポリグラフ
	免疫染色全自動システム VENTANA BenchMark ULTRA PLUS
臨 床 工 学 部	経食道プローブ
	簡易陰圧装置
	シリンジポンプ 5 台
	個人用透析装置
事 務 部	手術支援ロボット 一式
	超音波診断装置（手術支援ロボット周辺機器）
	ジェットウォッシャー（手術支援ロボット周辺機器）
	液晶モニター（手術支援ロボット周辺機器）
	気腹装置（手術支援ロボット周辺機器）
	システム流し台設置（手術支援ロボット周辺機器）
医 療 事 務 課	診療費領収書のフォーマット変更および診療明細書への印字内容変更
資 材 課	SPDシールプリンタ 2 台
医 療 情 報 本 部	内線スマホ用 LINEWORKSライセンス更新

（概ね、購入金額が100万円を超えたもの）

15. 安全管理部

安全管理部 看護部課長 吉村 節子

I. 構成員

林病院長補佐 吉村（安全管理専従者 看護部）

II：臨床活動

【施設基準】

医療安全対策加算 1 医療安全対策地域連携加算 1

【2023年度目標】

- ・医療の安全を確保するために合理的な確認と危険を予測した医療の提供を実践する。
- ・病院機能評価受審準備を活かし、業務の見直しと改善活動を行う。

【活動内容】

◇医療安全研修

- ・新任医師オリエンテーション 参加者：34名
- ・新入職時研修 参加者：92名
- ・看護部新入職時研修 参加者：36名
- ・医療安全管理研修開始（Aコース 5回開催：6月～11月） 参加者：24名
- ・中途採用者研修（10月、11月、1月、2月） 参加者：22名

◇セーフティワーキンググループ活動

- ・会議 第4金曜日開催
- ・7月「安全・安心いっぱい！月間」

病院テーマ：合理的な確認の徹底！～要点をおさえ、しっかり確認～

病院テーマをもとに各部門・部署でテーマを決め取り組んだ。また、テーマに沿った安全カルタを作成し、投票を行った。

1位：看護部 外来 2位：看護部 透析センター 3位：臨床検査技術部

- ・12月「安全・安心いっぱい！月間」

テーマ『部署のgood job（レベル0報告）イチ押し自慢』としてレベル0事例の報告を行いその中で最もよかった1事例を選択し、投票を行った。

1位：看護部 5階北病棟 2位：放射線技術部 3位：看護部 4階北病棟

◇事例検討会 5回開催

◇白十字グループ安全管理協議会活動

◇医療安全対策地域連携

- ・医療安全対策加算Ⅰ-Ⅰ連携

公立学校共済組合九州中央病院、医療法人西福岡病院、

医療法人博仁会福岡リハビリテーション病院、社会医療法人大成会福岡記念病院

- ・医療安全対策加算Ⅰ-Ⅱ連携

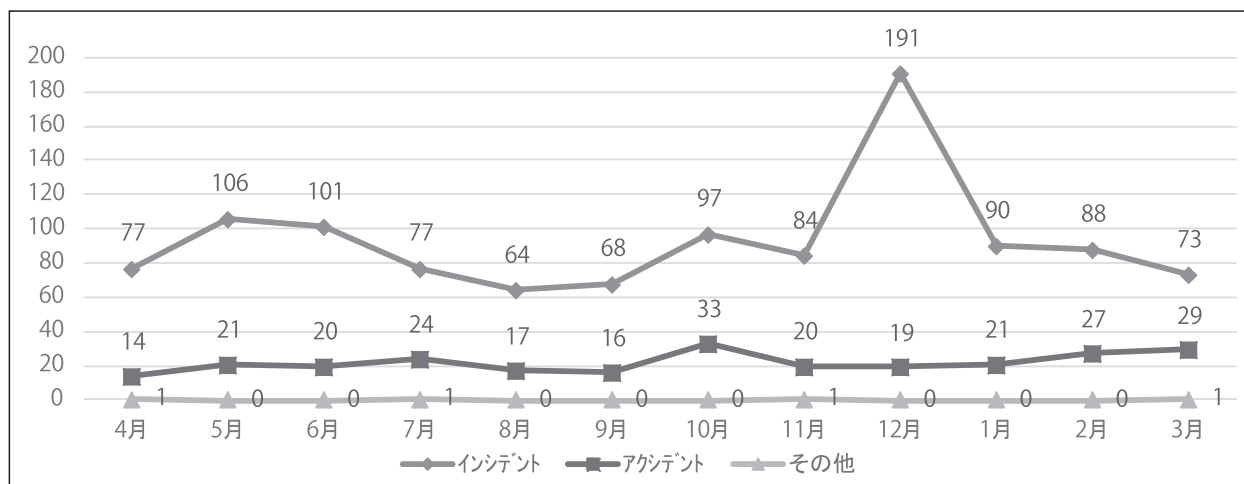
糸島医師会病院

（社会福祉法人喜悦会 那珂川病院、医療法人輝松会 松尾内科病院、

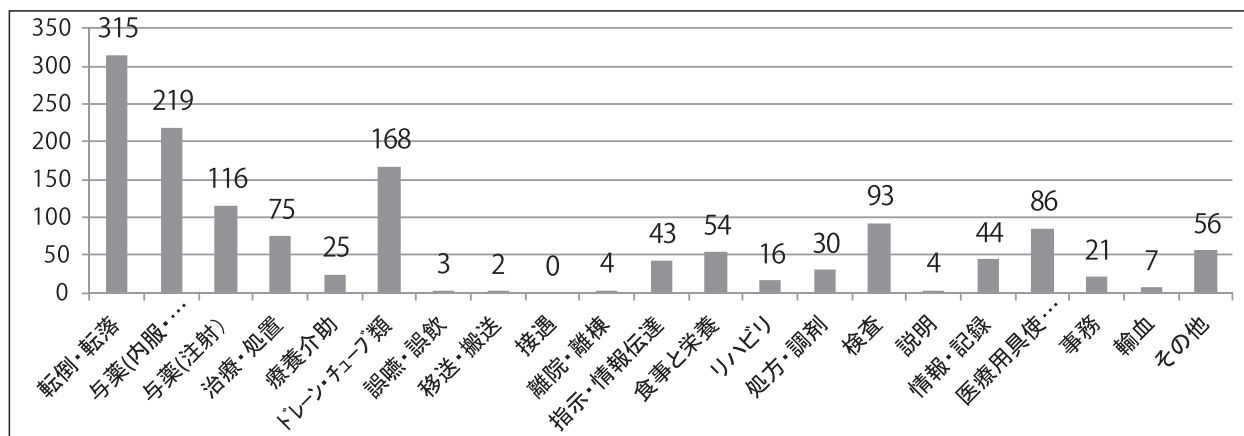
日本赤十字社 今津赤十字病院、医療法人 南川整形外科病院）

Ⅲ：業績

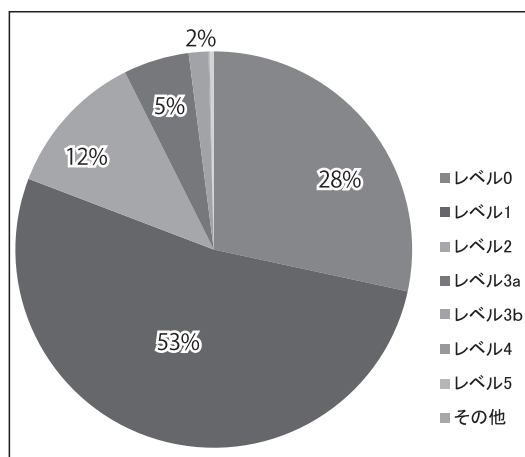
【インシデント・アクシデント報告統計】



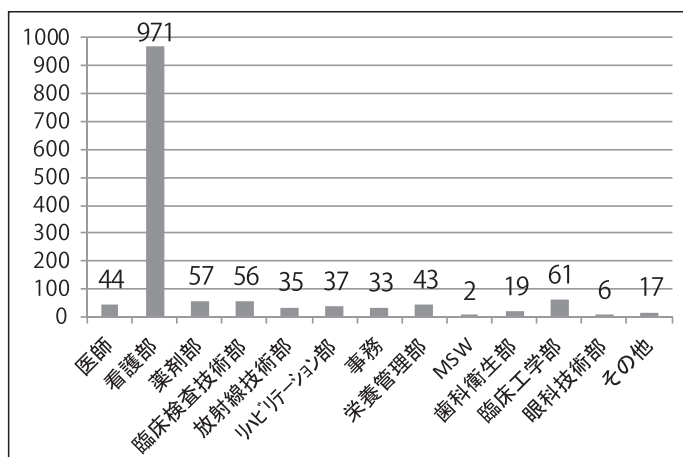
【分類別件数】



【レベル別件数】



【職種別報告件数】



Ⅳ：現状と展望

今年度も医療安全管理委員会と各部会を中心に活動を行った。アクシデントレベル3 a以上（スキンテア 事例含む）の発生事例は97件であり、そのうちレベル3 b以上の事例は24件（レベル4 事例1件、レベル5 事例1件含む）であった。

転倒転落による事例315件、チューブトラブル関連が168件と2022年度より減少している結果となった。しかし、転倒転落に関しては、事例件数は減少したが、レベル3b事例が増加した。転倒転落防止部会では、レベル3b事例のラウンドを実施し、事例の背景、対策案、行動目標をGRooooopネットのお知らせに掲載し、職員への情報共有を行った。次年度は、有害事象事例を発生しない、発生した後の対策を多職種協働で、組織全体で検討することが課題である。

今年度新たな取り組みとして、『部署のgood job（レベル0報告）イチ押し自慢』を実施した。その結果、前年度の報告件数の5倍以上の報告数となった。引き続きレベル0の報告件数を増やし、有害事象事例を現象できるよう、分析し対策を立案できるよう取り組んでいく。

医療安全対策地域連携では、新型コロナウイルス感染が5類に移行したため、今年度は従来通りの施設訪問で相互チェック、会議を実施した。直接訪問したことで、お互いの問題点や課題等に関する意見交換が活発にでき、業務改善につなげることができた。

16. 患者支援センター

センター長 阿部 裕典

I：構成員

センター長：阿部副院長

管理者：看護課長 1 名、事務課長 1 名、事務係長 1 名、看護主任 1 名、事務主任 1 名、MSW 副主任 1 名

他職員：事務職員 7 名、MSW 8 名（産休中 1 名）、看護師 2 名、ケアマネージャー 1 名

II：2023年度活動内容

COVID-19も5類感染症へ移行し、病院もコロナ渦前の活動を再開しています。入院管理体制をはじめ地域交流、連携においても5月以降は徐々に体制を変更しています。「西区医師会在宅多職種連携研修会」は当院いきいきホールを活用し集合研修形式で開催し、総勢90名が集い、久々に活気ある研修を開催する事が出来ました。また、地域医療支援病院として、引き続きCOVID-19患者も積極的に受け入れを行っており、救急車受け入れ件数、新入院患者数ともに増加に転じた。外来1Fフロアにある医療情報プラザを一部改修し、相談窓口の拡充を行っています。1日の相談件数も増え、利用者から好評を得ています。

III：業績

患者支援センター業務内容 * () 内は前年度実績

入院時支援・入院会計窓口・病床管理・前方連携・後方連携

●入院時支援・病床管理業績

総入院患者数6810名（6542名）/ 救急車受け入れ台数 4308台（3995台）/

病床稼働率 91.8%（85.0%）

平均在院日数 10.6日（10.8日）

急性期病棟：病床稼働率 91.5% 平均在院日数 10.8日

地域包括ケア病棟：病床稼働率 100.6% / 院内転床割合 55%（50.9%）/

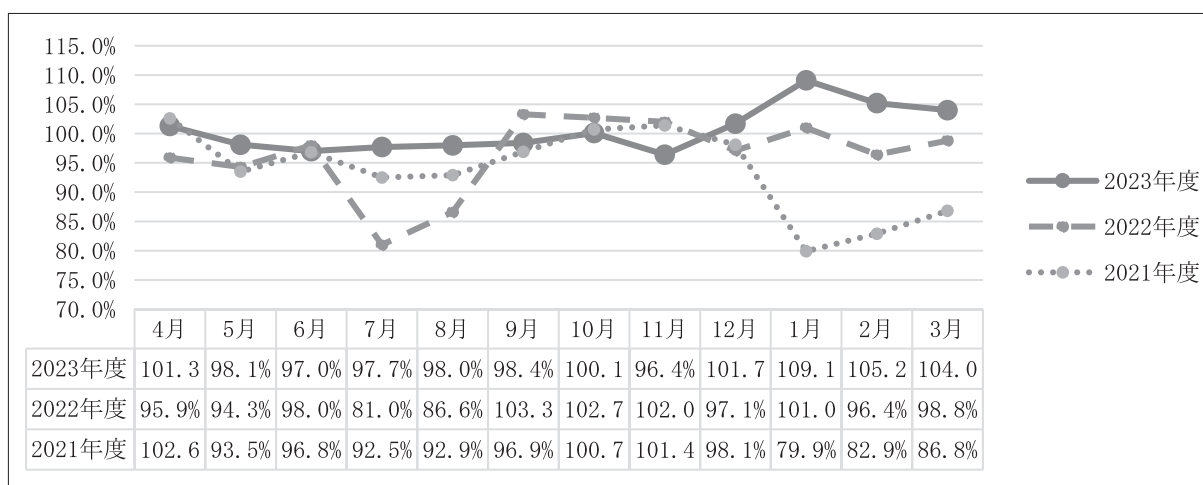
在宅復帰率 78.4%（80%）

入院時コーディネート介入件数 2878件（2973件）/ 入院時支援加算算定件数 794件（418件）

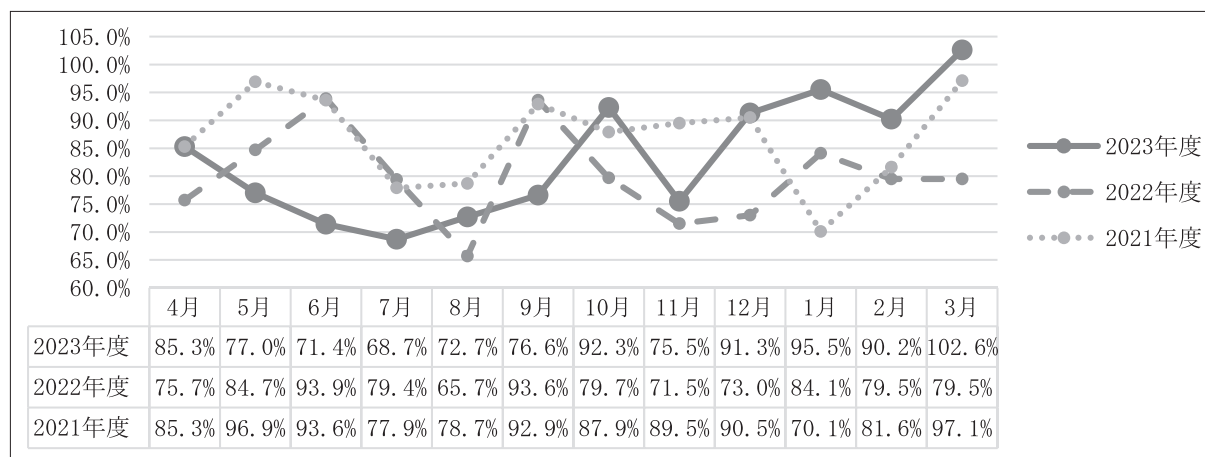
●前方連携

【登録医療機関数】 256施設（前年度251施設）

【地域医療支援病院 紹介率推移】



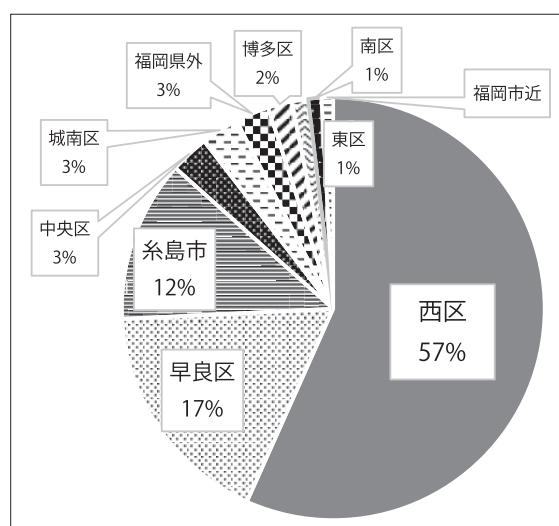
【地域医療支援病院 逆紹介率推移】



【診療科別紹介件数内訳】

	2021年度	2022年度	2023年度
泌尿器科	956	978	1,041
心臓血管内科	621	672	794
消化器内科	787	736	776
放射線科	848	793	733
外科	658	630	651
脳神経外科	393	553	584
歯科口腔外科	391	431	488
整形外科	383	478	487
脳・血管内科	385	422	444
形成外科	411	489	440
腎臓内科	326	344	316
肝臓内科	245	255	283
糖尿病内科	287	269	253
心臓血管外科	178	211	228
呼吸器内科	130	86	187
乳腺外科	155	141	183
眼科	156	143	153
救急科	83	105	121
血液内科	35	25	33
内分泌内科	35	35	28
皮膚科	0	4	5
精神科	2	0	1
リハビリ科	3	0	0
合計	7,468	7,800	8,229

【紹介元所在地】

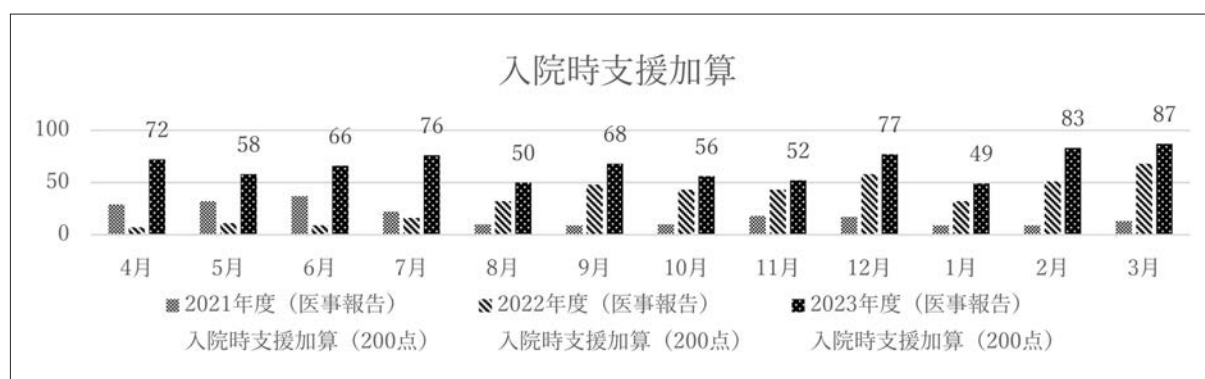
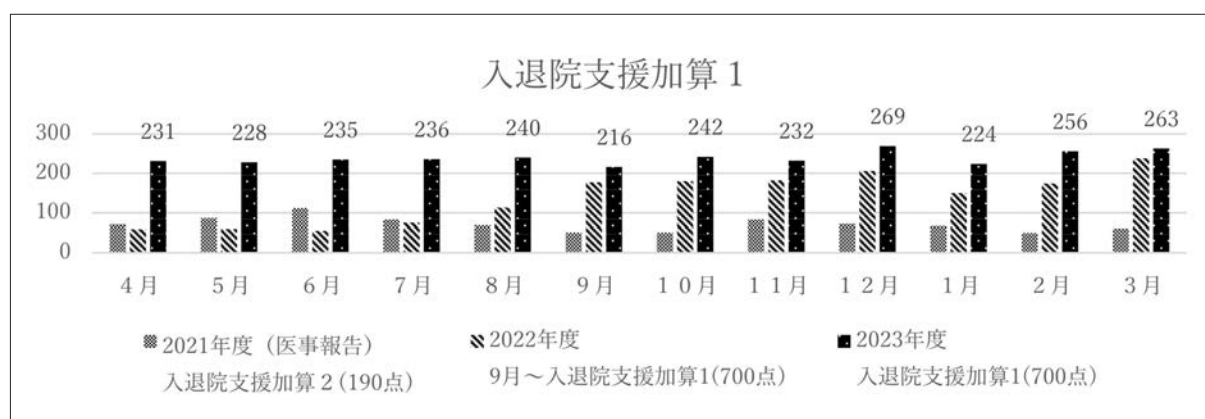


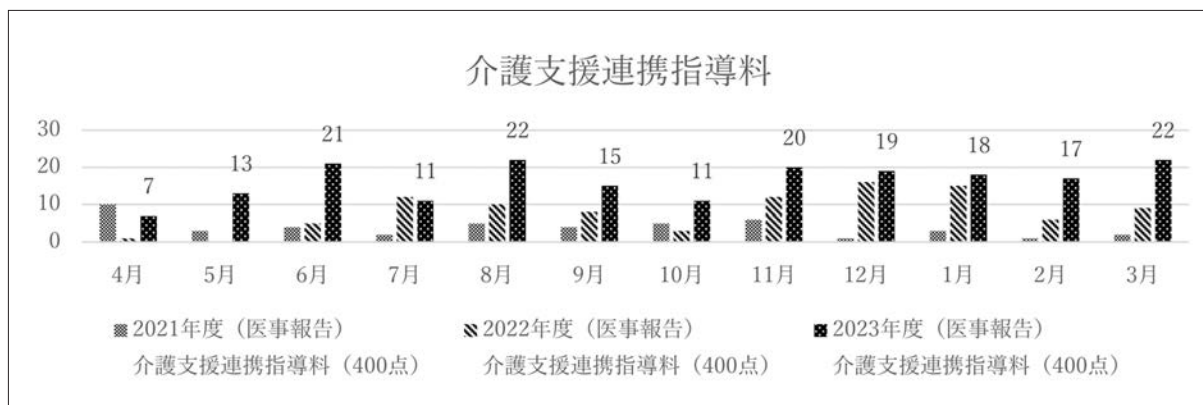
地区	件数
西区	4,665
早良区	1,443
糸島市	1,018
中央区	244
城南区	237
福岡県外	212
博多区	151
東区	103
南区	83
福岡市近郊	73
合計	8,229

【西区医師会学術講演会・啐啄会】

回数	開催年月日	演題	診療科	演者	出席者		
					医療機関	法人職員	合計
第120回	2023年5月17日	チームでとりくむ臨床倫理	がん看護専門看護師	浜谷千枝子	28	33	61
第121回	2023年7月19日	地域医療連携へ向けた薬剤師の取り組み～薬業連携による入退院支援～	薬剤部	高津宏典	23	32	55
第122回	2023年9月20日	不整脈診療におけるカテーテルアブレーションの立ち位置	心臓血管内科	三戸隆裕	7	48	55
第123回	2023年11月15日	1. 当院回復期における脳卒中リハビリテーション	リハビリテーション部	納富亮典	26	23	49
		2. 入院から在宅へとつなぐ～当院通所リハのご紹介～	通所リハビリテーション部	國友慎吾			
第124回	2024年1月17日	1. 乳がんの薬物療法『免疫療法とその副作用について』	薬剤部	田川慎二	13	49	62
		2. 乳がんの診断と手術について	乳腺外科	松尾文恵			

●後方連携業績





退院支援スクリーニング件数 7,782件（前年度 5,787件）

入院3日以内の介入を目指し、入院早期に情報の整理とチームでの課題の共有を行っている。結果、救急患者数は増加しているが平均在院日数は10.6日となった。

IV：現状と展望

2023年度は救急車、入院患者数も順調に増加しており、急性期病院としての役割拡充に向け院内一丸となっています。医療機能分化は更に推し進められている現状にあり、白十字病院も急性期病院としての役割を果たすべく、重症患者、専門治療を目的とする患者を積極的に受け入れていく必要があります。

近隣の病院・クリニックの先生方とこれまで以上に連携を強化していくためにも、連携しやすい仕組み作りなど積極的な取り組みを行っていきます。

17. TQM センター

TQM センター長 熊井 康敬

【2023年度TQMセンター活動について】

I. 活動方針

質の高い医療を提供できるよう、全職員参加型で組織横断的な医療の質改善活動を推進する。
職員の意識向上を図り、問題点、課題を抽出、分析して改善活動のアドバイスを行う。

II. 活動内容

◇TQMセンターミーティング開催 計12回（第259回2023年4月6日～第270回2024年3月7日）

◇患者さんのお声対応（回収、PDCA会議、回答揭示）計12回の会議

◇いい仕事人の募集・表彰

第45回受賞者

内田 敦子さん 小林 幸恵さん 高木 薫さん（メッセンジャー）

井田 美樹さん 大庭 幸美さん 福本 友美さん（リハビリテーション部助手）

◇外来患者満足度調査アンケートの実施

2022年度末より外来ブロック受付にアンケート用紙を設置・回収する方針へ変更し、2023年度も継続して行った。

◇職員満足度調査アンケートの実施（2024年2月5日～2月19日）

※2023年度も外部委託により実施・集計し、結果はHOMES掲載済み。

◇eラーニングシステム運用

＜コンテンツの登録＞

2023年4月 MEラウンド テスト、アンケート 6件 2023年度上期

7月 2023年度7月 医療安全・感染対策・個人情報 合同研修会
安全カルタ投票

はばたき利用者動画掲載

8月 脳卒中予防十か条 動画10本掲載

職員の禁煙推進について動画掲載

医療機器管理部会 研修動画

9月 医薬品安全管理研修会

倫理委員会テスト

10月 CEラウンド テスト、アンケート 2023年度下期

11月 2023年度ユマニチュード自己評価

2023年度セーフティマネジメント大会

- 2023年度医療放射線管理部会 研修動画掲載
 プリンタマニュアル動画 4 つ掲載
 文書作成マニュアル動画 9 つ掲載
- 12月 摂食嚥下 ミニテスト
 2023年度第 2 回感染対策研修
 2023年度富くじ応募
 リハ部BSCオータムレビュー 2023年度掲載
 医療廃棄物に関する研修会 動画掲載
- 2024年 1 月 年頭挨拶2024掲載
 部署のgood job（レベル0 報告）イチ押し自慢投票
 摂食嚥下部会 STレクチャー vol. 1 評価編
 退院支援動画掲載
- 2月 摂食嚥下部会 STレクチャー vol. 2 評価編
 医療機器管理部会 研修動画（今年度 2 回目）
- 3月 2023年度医療ガス研修会
 消化器内科大腸内視鏡説明支援動画 差し替え
 2023年度DPC入門 掲載
 看護部次期教育担当者研修 掲載

◇各種委員会一覧の取り纏め

医師の入職・退職および職員の担当変更に伴う委員会担当の見直しを行い、一覧表を作成した。

◇委員会活動報告と次年度目標の取り纏め

2022年度分からは当該年度で目標とその報告が完結する様式「委員会活動報告」に改定したが、2023年度も継続して2024年 2 月の段階から各員会へ依頼を行い、年度内に完了した。

◇委員会活動の取り纏め

「会議・委員会規程」の改訂を実施した。また、全委員会の議事録のイントラ掲載状況を確認し、未掲載の委員会の事務取扱責任者へ速やかに掲載するよう通達を行った。

◇提案制度の運用

提案制度の募集ならびに採否の協議・検討を行った。2023年度は提案が全16件に及び、そのうち 6 件を採用とした。

◇QC活動

新型コロナウイルスの影響で活動の制限を余儀なくされていたが、6 階南病棟の「転倒転落予防」という課題に介入し、一定の成果をあげることができた。結果についてはイントラに掲載済。2024年度も各部門に対して募集を呼びかけ、介入を進めていく。

◇学会発表システムの運用と表彰

【優秀賞】 発表者：診療部（研修医）東海 堅也

「片側頸部内頸動脈解離に起因する一過性脳虚血発作を発症したVascular Eagle症候群の一例」

第340回九州内科地方会

【優秀賞】 発表者：栄養管理部 吉田 佳代

「地域包括ケア病棟入院患者の体重変化に及ぼす要因」

第26回日本病態栄養学会年次学術集会

【優秀賞】 発表者：薬剤部 内海 紗良

「サルコペニア患者の腎機能予測における血清クレアチニン値0.6mg/dLへのround upの妥当性評価」

腎臓病薬物療法学会

【優秀賞】 発表者：医療事務課 家村 理咲

「肝性脳症のクリニカルパスの作成と実用」

第22回クリニカルパス学会学術集会

【優秀賞】 発表者：臨床工学部 西村 香織

「Covid-19における内視鏡室での感染対策」

第17回九州・沖縄臨床工学会

【優秀賞】 発表者：リハビリテーション部 谷口 由香理

「HALRを用いたロボット療法により運動主体感が著名に改善した急性期脳卒中患者の1例」

STROKE2023

【優秀賞】 発表者：リハビリテーション部 山下 泰貴

「HAL-SJ」を使用した足関節骨折術後患者の一例 一下肢浮腫に着目してー」

第11回日本脳神経HAL研究会

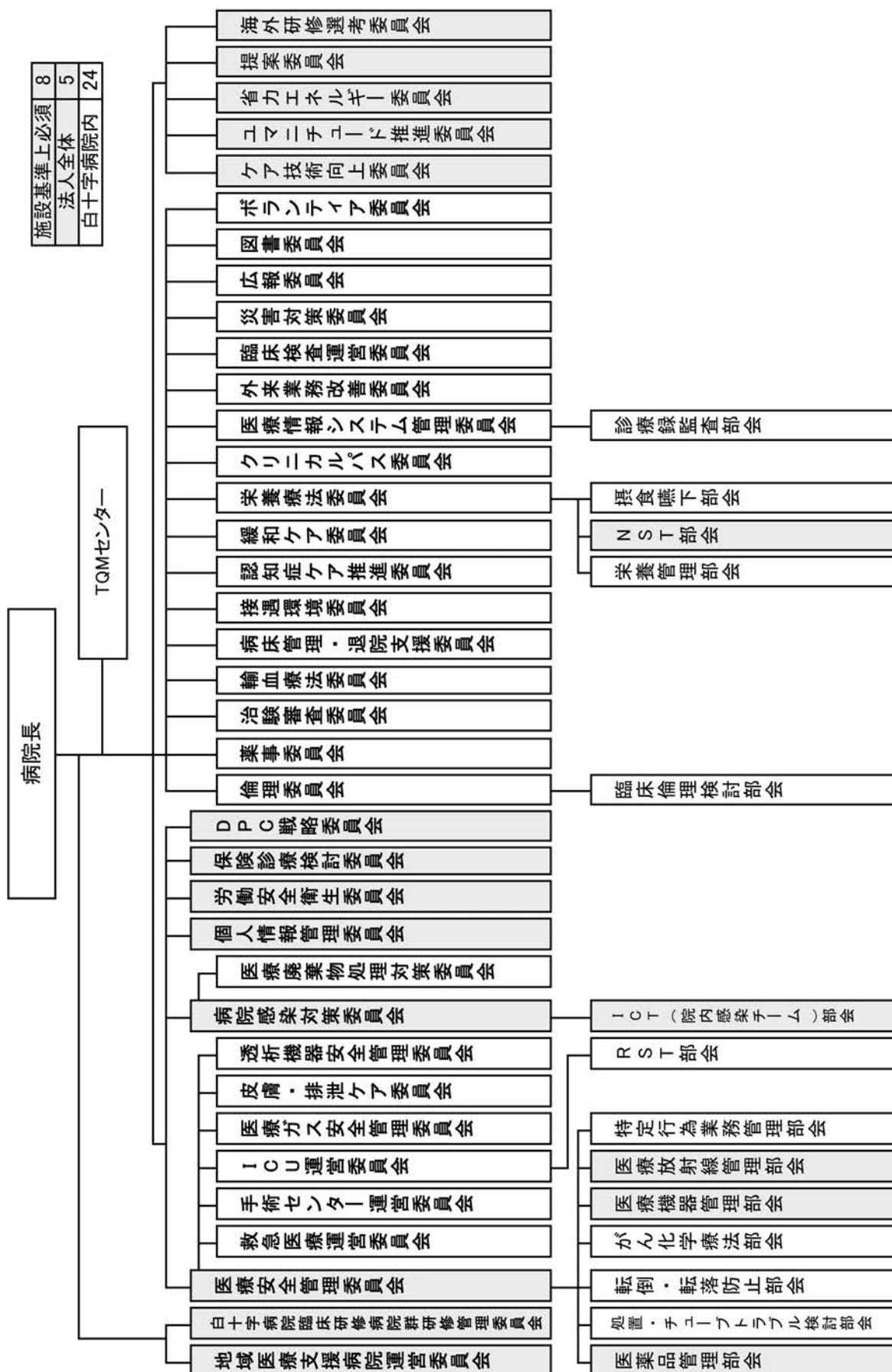
〈まとめ〉

分院して3年目となる2023年度は、病院機能評価3rdGver3.0を受審しました。「業務の質改善」という項目においてはTQMセンターの役割が評価ポイントのひとつでしたが、患者さんのお声に対する対応や提案制度を用いた改善活動の実行など、これまでの取り組みに対して高い評価を受けることができました。その一方で、「職員を対象とした研修会の取りまとめ」については、管理が十分ではないとの指摘を受けました。TQMセンターの役割を見直すきっかけにもなりましたので、この点については2024年度から即実行に移せるよう、すでに改善に向けた検討を始めています。その他のいただいたご指摘を真摯に受け止め、今後のTQM活動に活かしていきたいと思っております。

2024年度も、より一層TQM活動を充実させ、医療の質の向上に貢献できるよう努めて参ります。

2023年8月1日

18. 各種委員会



医療ガス安全管理委員会

I. 構成員

泌尿病院長 平井部長（麻酔科） 吉野事務長 浦田部長（臨床工学部） 岡村（臨床工学部）
水之江主任（薬剤部） 川元副主任（施設課） 佐藤（エア・ウォーター西日本株式会社）
八尋課長（看護部）

II. 臨床活動

【年間目標】

医療ガス設備の安全管理を図り、患者に安全な医療を提供する事ができる

【活動内容】

1) 医療ガス点検

- ・エア・ウォーター西日本株式会社による医療ガス（EOG、笑気、液化酸素、圧縮空気、バキューム）の年1回点検実施し、異常なし。
- ・CEによる医療ガス配管アウトレット 年4回点検実施し、異常なし。

2) 2023年度医療ガス安全管理研修の開催

医療ガス安全管理研修動画を作成し、全職員対象に視聴をすすめた。

III. 業績

医療ガスに関するトラブルはなかった。

IV. 現状と展望

医療ガス安全管理研修を次年度から集合必須研修とし開催を計画する。

医療安全管理委員会

I：構成員

泌尿病院長、林病院長補佐、三戸医局長、吉野事務長、佐伯看護部長、森臨床検査技術部部長、
高津薬剤部部長、浦田臨床工学部部長、島井栄養管理部部長、樋口看護課長、
小川歯科衛生部課長、福井リハビリテーション部次長、村上システム開発室主任、
川口放射線技術部課長、岩崎眼科技術部係長、吉村安全管理部課長（医療安全管理者）
太田先生（顧問弁護士）、中村先生（弁護士）

II：臨床活動（部会含む）

1) 医療安全管理委員会

【目標】

- ・医療の安全を確保するために合理的な確認と危険を予測した医療の提供を実践する。
- ・病院機能評価受審準備を活かし、業務の見直しと改善活動を行う。

【活動内容】

◇定例委員会は毎月第3火曜日に開催を行った。

◇医療安全推進月間「安全・安心いっぱい！月間」を2回/年開催

7月 テーマ：合理的な確認の徹底！～要点をおさえ、しっかり確認～

12月 テーマ：部署のgood job（レベル0報告）イチ押し自慢

◇院内研修

・医療安全研修会

内容：ヒヤリハット報告～安全文化を根付かせるために～

講師：九州大学病院 病院長補佐 九州大学病院 ARO次世代医療センター 特任准教授

鮎澤 純子 先生

形式：対面、e-ラーニング

全体研修受講率：98.0%

・第40回セイフティマネジメント大会

7月安全・安心いっぱい！月間の取り組みについて、12部門（部署）を2日に分けて、発表。

形式：対面、e-ラーニング

全体研修参加率：98.0%

投票結果

1日目：1位：臨床検査技術部 2位：放射線技術部 3位：栄養管理部

2日目：1位：診療部 2位：レストラン部 3位：臨床工学部

2）医薬品管理部会

【部会目標】

部門横断的な処方、調剤、与薬プロセスの見直し

【活動報告】

①医薬品安全管理研修会の実施（2023年度はオンラインで実施）

【注射薬カリウム製剤投与時の注意と当院での対策について】

【薬剤の保管方法が法律で定められている医薬品の保管方法について】

【副作用・医薬品管理体制について】

②入院指示簿の改修について

内服・持参薬実施画面で入院時薬剤変更指示が閲覧できるように改修

③ハイパーパスの改修について

持参薬入力の際に中止薬がハイパーパス上に表示されるように改修

④機能評価に向けてマニュアルの改訂

3）転倒・転落防止部会

【部会目標】

1. 転倒・転落を予防できる環境整備の指導。

数値目標：レベル3b発生件数12件以内（2022年度 15件発生）

2. ユカリアタッチの活用と転倒転落スコアの改訂。

【活動報告】

・転倒転落によるアクシデントレベル3b以上は、年間18件であった。そのうち8件に部会でラウンドを行い、対策を院内で周知させるためポスターを作成し「お知らせ」に掲載をした。

・ユカリアタッチにADLや介助量を入力し、統一した介助をすることでの転倒転落防止対策を開

始した。

- ・転倒転落後のガイドラインを改定を行いアナウンスをした。
- ・「睡眠と転倒予防」に関するポスターを作成し、転倒防止アナウンスを行った。
- ・転倒後の外傷発生予防のために、「ころばん」を4台新規採用し病棟で使用開始した。
- ・転倒転落スコアの改訂を子になったが不採用となり、見直しを検討している。

4) 処置・チューブトラブル検討部会

【部会目標】

1. 処置チューブトラブルに関するアクシデントを減少する（2022年度246件）
2. 『カラーシリンジ取り扱い基準』を改訂し、適正にカラーシリンジを使用できる。

【活動報告】

- ①処置チューブトラブルに関するアクシデント事例の予防策を検討した。特に、薬剤によるNGチューブの閉塞に対して、法人内NST看護師と薬剤師とともに閉塞リスクの高い薬剤、簡易懸濁不可の薬剤について整理し、簡易懸濁のマニュアルを改訂した。また、Aラインの抜去予防のため、固定方法のマニュアルを作成し、関連部署に周知した。
 - ②使用頻度の低いシリンジの使用を見直し、『カラーシリンジ取り扱い基準』を改訂した。
 - ③点滴やCV、PICCなど数ルートある場合や側管から数ルートある場合の誤接続、誤投与を予防できるようマニュアル作成し、看護部へアナウンスした。
- 処置チューブに関するインシデントアクシデント件数は、2023年度2月まで130件であった。昨年度より、減少していることから、取り組みの成果があったと考える。

5) がん化学療法部会

【部会目標】

安全に化学療法を施行できる体制作りの構築

【活動報告】

- ①新規レジメン承認 全13レジメン承認
- ②免疫チェックポイント阻害剤の採血セット変更
- ③分子標的治療薬の蛋白尿に対する尿検査セットの作成
- ④外来腫瘍化学療法診療料1算定件数（2023年4月～2024年3月15日まで：892件算定）
- ⑤連携充実加算算定件数（2023年4月～2024年3月27日まで：364件算定）
- ⑥がん患者指導管理料ハ算定件数（2023年4月～2024年3月27日まで：64件算定）
- ⑦CVポートの穿刺の研修開始
- ⑧抗がん剤運搬方法の見直し⇒2024年度も継続検討

6) 医療機器管理部会

【部会目標】

1. 医療機器安全使用のための研修会の開催（eラーニング等）
2. 安全安心な医療機器の提供
3. 院外の医療機器関連安全情報の収集と共有
4. HOMES医療機器管理システムの改善
5. 高額医療機器整備計画の更新・購入（更新）時期の検討

6. 保守契約の検討・見直し

【活動報告】

- ①安全安心な医療機器提供を目的とした、医療機器安全管理体制の整備
- ②医療機器安全使用のための研修実施（e ラーニング）
- ③医療機器管理システムを利用した一元化管理の推進
- ④安全情報の収集と共有
- ⑤中長期高額医療機器整備計画の策定、更新
- ⑥10月の病院機能評価で高評価を得た（3.1.7 医療機器管理機能：S 評価）

7) 医療放射線管理部会

【部会目標】

1. 診療用放射線の安全利用に努める
2. 診療用放射線の安全使用のための研修会開催（e ラーニング等）
3. 医療被ばく低減のための線量管理実施
4. 放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する相談や事例発生時の対応

【活動報告】

- ①部会の開催（8月）
- ②診療用放射線の安全使用のための研修会開催
「放射線診療を受ける者への情報提供に関する事項」（e ラーニング含む）
- ③医師への研修「行為の正当化」について医局会にて開催（6月）
- ④線量管理「MINCADI」にて実施
- ⑤被ばく相談の対応を実施

8) 特定行為業務管理部会

【部会目標】

1. 特定行為研修を修了した看護師が、安全に特定行為を実践できる場、機会を提供できる
2. 実践した特定行為の評価ができる

【活動報告】

- ①第3木曜日（3か月毎）に定期委員会を開催し、活動方法の検討や症例報告、評価を行った。
実施した特定行為において、有害事象はなく、介入も適切であった。
- ②特定行為の評価、件数の可視化が可能となった。
- ③2023年度の特定行為実施件数は約1600件であった。
- ④記録の仕方、法律問題等に対して、シンポジウム参加や弁護士への確認など実施し、課題を解決できた。
- ⑤Npからの提案で、医材の見直しによるコストカットや感染対策改訂に繋がった。

病院感染対策委員会

I：構成員

病院長：瀧野 泰秀
病院長補佐：林 修司
センター長：岩瀬 正典
部長：井手 均
部長：大石 純
事務長：吉野 典助
部長：佐伯 美穂子
部長：高津 宏典
部長：森 健一
部長：浦田 英明
次長：島井 里香
課長：福井 哲
課長：宮崎 由佳
課長：小川 順子
課長：山口 佐月
係長：岩崎 聡
主任：助川 悠紀子
主任：入江 育美
看護師：小方 直子

II. 臨床活動

- ・毎月の委員会で以下の項目の検討を行った。

MRSA検出状況・耐性菌検出状況・血流感染発生状況・抗生剤使用状況・抗生剤使用動向分析・
抗生剤適正使用・血液汚染事故発生状況・院内特殊感染症発生状況・新型コロナウイルス発生状況

- ・新型コロナウイルスワクチン・インフルエンザワクチン・HBワクチン接種
- ・感染マニュアルの改訂・更新
- ・職員研修・院内広報活動
- ・感染防止対策加算Ⅱ施設としての活動

感染対策向上加算Ⅰ施設のカンファレンス 4回／年参加

その内、新興感染症の発生等を想定した訓練 1回／年参加

ICT交流会 2回／年参加

10月4日「5類移行後のCOVID-19診療体制について」感染制御部看護師発表

サーベイランス報告会 1回／年参加

ラウンド部会

- ・1回／週 約1時間、4職種（医師・看護師・薬剤師・検査技師）でミーティングを行い、以下の内容を検討している。

抗生剤使用状況・抗生剤適正使用・MRSAや耐性菌検出状況・血流感染発生状況・アウトブ

レイクの有無など

抗菌薬適正使用に関する介入件数：123件

介入に対してその後の評価の実施

- ・必要時、病棟ラウンドの実施
- ・SSIサーベイランス・検査部門サーベイランスの実施
- ・環境ラウンドの実施：

病棟・外来部門：1回／月 4職種（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師）によるラウンドを行い、チェックシートを用いて評価を行った。

評価を点数化して、各部署に結果のフィードバックを行った。

マニュアル検討部会

- ・マニュアル改訂（針刺し・切創、皮膚粘膜曝露対策）感染対策委員会の承認を得てHOMESへ掲載した。

教育・広報部会

- ・院内感染研修会の実施

	開催日	テーマ	対象者	参加人数 (受講者数・受講率)
1	4月3日	感染対策の基礎	新入職員	受講者：97名
2	7月1日、7月29日 集合研修8回以降 10月10日までeラーニング	結核について	全職員 委託業者	受講率：100%
3	12月15日～1月15日 eラーニング	CDIについて	全職員	受講率：100%
4	10月31日、12月18日、 1月16日、2月16日	感染対策について	中途採用者	受講者：32名

- ・感染対策委員会Institute11月2日佐世保中央病院主催開催Zoom
「COVID-19 3年間の振り返り」感染制御部医師発表
- ・感染Newsを計57回HOMESに掲載した。

ワクチン・結核検診部会

- ・インフルエンザワクチン接種率は69%であった。
- ・HBワクチンの接種は、新入職者、職員健診後に合わせて、タイムスケジュールを組んで実施した。

Ⅲ：現状と展望

2023年度も新型コロナ対策を優先し病院長、感染対策委員長、看護部長、感染制御部課長、微生物検査室主任、事務長、コロナ病棟担当の医師、コロナ病棟担当課長も含めたメンバーで会議を重ね対策を講じた。コロナの院内発生があったが早期収束ができた。また、クラスター発生時には感染源、感染経路、発生の要因と感染対策を検討し対応した。院内発症時のマニュアル有効活用により初期対応ができ、その後の対策にも活かせることができた。新型コロナウイルス対策本部会議は、2024年3月31日をもって終了した。

ICCは、2023年度のテーマを、「標準予防策（手指衛生、個人防護具、環境整備）を遵守し、感染予防策を推進」とし、ICTの各部会での活動を行った。4職種（医師・看護師・薬剤師・検査技師）で院内巡回は、メデイカル部門の手指消毒の遵守状況も確認し指導した。感染全体研修会については、前期・対面での集合研修を開催、後期はeラーニングによる研修会を実施した。

院内の感染対策の教育については、医師、看護師を中心に個人防護具の着脱練習を行った。感染対策向上加算Ⅰ主催のカンファレンスに年4回（WEB開催、対面でのカンファレンス）に参加し感染対策向上加算Ⅱ（入院初日175点）と連携強化加算（入院初日30点）、サーベイランス強化加算（入院初日5点）の維持に努めた。ICT交流会は現地参加、サーベイランス報告会はWEBにて参加した。

2024年度の目標は、「標準予防策（手指衛生、環境整備）」を中心とした感染予防策を推進していく。新型コロナウイルスが感染拡大しないよう、飛沫感染、接触感染、エアロゾル感染対策を継続する。今後の新興感染症を想定した訓練、病床の受け入れ体制を整備していく。

手術センター運営委員会

I. 構成員

渕野病院長 林病院長補佐 平井部長 阿部副院長 嶋村部長 住部長 藤原部長 福田部長
谷部長 浅生部長 大石部長 真鍋部長 小林部長 松尾部長 木村部長 徳永医長
豊田係長（臨床工学部） 田中主任（放射線技術部） 末増（医事課） 八尋課長（看護部）
吉村主任（看護部） 森友主任（看護部）

II. 臨床活動

【目標】

1. 手術件数目標2400件 稼働率（ハイブリット室以外）50%以上
2. 予定手術の午前入室の割合を増やし、17：30以降の退出割合を低下させることで効率的な運営を行う。（9時台入室率65%以上 平日予定手術17：30以降退出割合18%以下）
3. 多職種で連携し、患者及び職員にとって安全な手術センターとなるよう努める

【活動内容】

2022年度に引き続き、9時台の入室を含め、午前中入室を促進し、17：30以降の退出割合が減少できるよう取り組んだ。今年度は、診療科別の1時間以上の手術延長された件数を提示し、適正な手術時間の申し込みを促進した。その結果、午前中稼働率42.8%（前年度比+2%）に上昇し、予定手術の17：30以降の退出率は年間平均12%（前年度比-6%）に減少した。より効率的にするために、手術センター関連職種とグループLINEを活用し、迅速な情報共有が可能となった。また、手術入室時間の他職種への連絡方法にグループLINEを活用することにより、各職種に電話連絡をする時間の削減となったと言える。

2023年度手術室利用件数2640件（予定2331件、緊急309件）、手術件数2537件、手術室稼働率50.9%と目標達成した。

その他に、2024年度のロボット支援下手術開始にむけて、多職種で準備を行った。

Ⅲ. 業績

【予定・緊急手術別件数】

	2021年度	2022年度	2023年度
緊急	272	262	309
予定	1862	2136	2331

【麻酔状況別】

	2021年度	2022年度	2023年度
全身麻酔	1554	1817	1954
局所麻酔	580	588	685

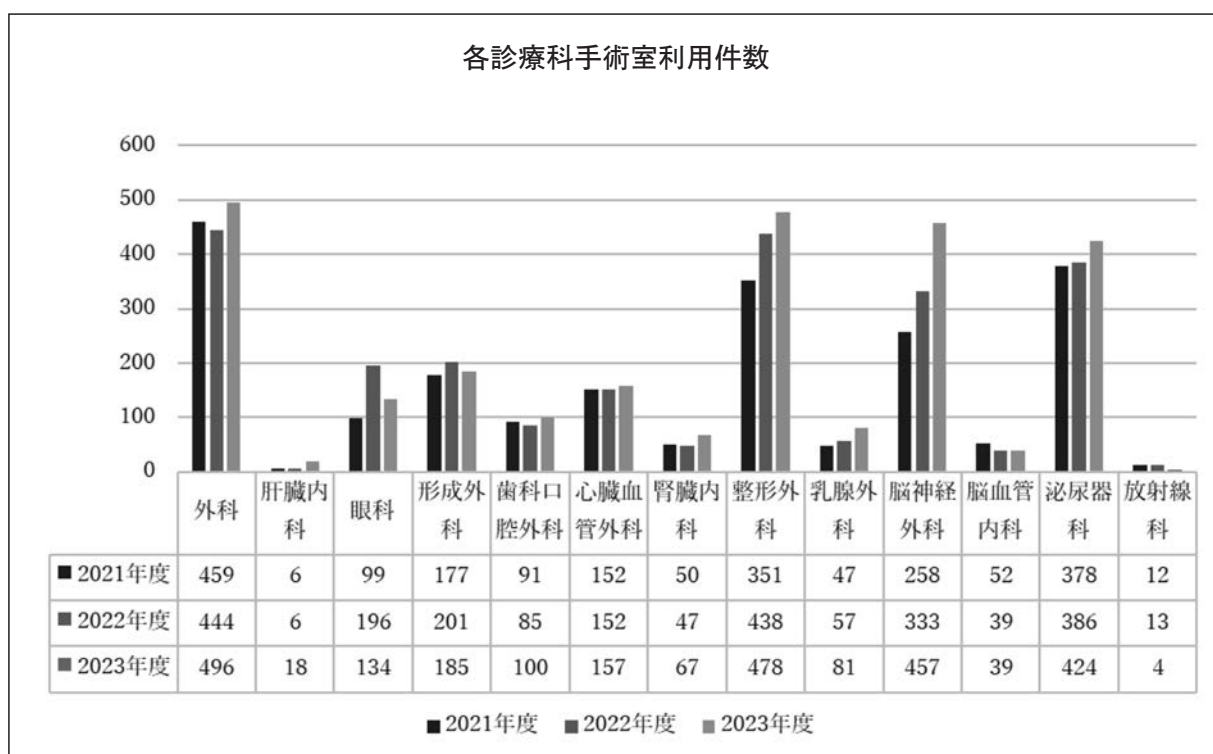
【手術室稼働率】※ハイブリット室含む

	2021年度	2022年度	2023年度
手術室稼働率	40.7%	46.2%	47.0%
午前手術室稼働率	37.9%	40.8%	42.8%
午後手術室稼働率	43.5%	51.5%	51.2%

【平日 予定手術17:30以降退出率】

	2021年度	2022年度	2023年度
予定手術時間外退出率	11%	18%	12%

【各診療科手術室利用件数】



Ⅳ. 現状と展望

2024年度はロボット支援下手術（ダヴィンチ手術）が開始となる。より効率的に手術を行うため、他職種でより一層のDX化、協力体制が必要である。

救急医療運営委員会

I：構成員

渕野病院長、林病院長補佐、三戸部長、小林部長、入江部長、吉野次長、檜崎課長、山口係長、掛屋主任、長野主任、舩原主任、香月主任、松高副主任、山中係長

II：臨床活動

1. 救急医療応援体制を強化し、チーム医療を展開し救急患者の受け入れを行う。目標3950台
2. 救急蘇生部会のメンバーを統制し、急変時や蘇生時の対応ができる職員を育成する。
3. ワークステーション研修を実施し、より良い医療が地域住民に提供できるような指導を行う。

III：業績

表1 救急センター受診内訳

	救急車受け入れ件数	自主来院件数	合計
2021年度	3,643件	1,484件	5,143件
2022年度	3,995件	1,069件	5,064件
2023年度	4,308件	1,127件	5,435件

表2 救急センター各種データ

	CPA搬送	ICUへの入院	外来からの手術室搬入	時間外緊急検査
2021年度	77件	358件	27件	42件
2022年度	50件	363件	45件	70件
2023年度	54件	338件	82件	208件

IV：現状と今後の展望

Covid-19の5類化に伴い、感染ブースを縮小し、観察ブースを増床した。医療対応体制を強化するために、休日、夜間の各職種の役割分担を明確化し、マニュアル作成することでチーム医療を展開した。医師当直日誌の入力作業の簡素化のためラインワークスを使用し、救急車の応急処置の要因分析を行い要因を特定し改善を行っていく。さらに、救急センターとICUの一元化に向けて、救急・ICUを兼務できる看護師の育成に取り組み、重症患者対応能力の向上と、応援体制を強化した。結果（表1）に示す様に救急搬送数の増加、時間外緊急検査件数の増加、外来からの緊急手術搬入が増加し、地域の救急医療、専門性の高い治療や看護の提供に貢献できたと考える。今年度、新たに救急救命士3名が就勤し、各職種で専門性を活かしたタスクシェア、タスクシフトを進め、さらに受け入れ態勢を強化していきたい。ICLS部会、法人内認定急性期ナースが共同して、ICLSコースを開催（7月、11月、2月）23名が受講、資格を取得した。BLS部会を中心に、4月、7月で全職員750名を対象にBLS研修を実施した。480名が参加し、AHA、G2000に準じたBLSチェックリストを用いて合格した。また、ハリーコール検討会を開催し、急変時対応の振り返りを行い、職員の急変対応スキルの向上を図った。

救急ワークステーションの受け入れを行い、研修プログラムに沿って病院実習を実施した。地域より病院へより連携して救急患者の対応ができるよう、10月、2月に救急医療研修会を開催し、救急隊と意見交換会を行った。

栄養療法委員会（栄養サポートチーム（NST））

I：構成員

●NSTコアメンバー（内訳）

医局	3名
看護部	1名
法人内認定看護師	3名
薬剤部	1名
検査部	1名
リハビリ部	1名
栄養管理部	4名
事務部	1名

II：臨床活動

【NST回診状況】

●介入症例数及び延べ回診者数（2023年4月～2024年3月）

回診回数	49回
新規介入症例数	556名
延べ回診者数	1,184名
NST加算算定件数	961件
効果・改善あり	18.3%

【病棟別介入症例数】

（件）

ICU	4北	4南	5北	5南	6北	6南	計
32	69	108	63	140	72	72	556

III：業績

なし

IV：現状と展望

栄養療法委員会は栄養管理部会・摂食嚥下部会・NST部会の3部会にて構成されており、連携しながら活動を行った。

- ・栄養管理部会では濃厚流動食の見直しや給食管理に関わる事柄を中心に検討し改善に取り組んでいる。
- ・摂食嚥下部会では口腔ケア技術向上の為にe-ランニングを使用した研修・テストを実施。
- ・NST新規介入症例数は556例、延べ介入患者数1,182例、うちNST加算算定件数962件（表参照）。また経管栄養のプロトコール作成した。
- ・これまでと同様に積極的な介入を行い、延べ介入患者数に大きな変動は認められなかった。また管理栄養士1名が新たにNST専門療法士に合格し資格取得することができた。資格を活かしてNST活動の質の向上はNSTメンバーの質向上に努めていきたい。今後はNSTの質向上や院内外での研修会開催やNST活動を通じて栄養に関する啓発活動を強化し、病院全体の栄養に対する意識向上を目指していきたい。

ICU運営委員会

事務取扱責任者：看護部次長兼ICU課長 吉野 勝也

I：構成員

看護課長 1 名、看護主任 2 名、看護師29名、クラーク 1 名
 （クリティカルケア認定看護師 1 名、特定行為研修修了者 1 名） 看護配置：2：1

II：臨床活動

- ・地域医療支援病院、救急指定病院としての役割を果たす為、ICUの効果的な病床運営を行った。
- ・各種勉強会、症例検討の実施、多職種協働により安全で質の高い、高度な医療を提供した。
- ・救急センターの立ち上げ、タスクシフト、シェアを目指し、ERとICUの一元化に着手した。

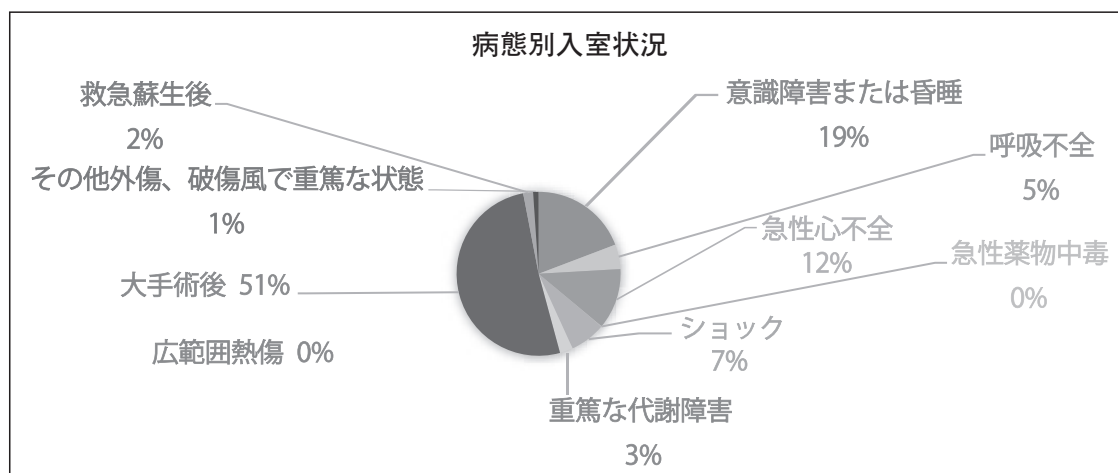
III：業績

《2023年度ICU各種データ》

平均患者数	病床稼働率	新規入院患者数	平均在棟日数	平均看護必要度
8.7人	73.7%	354人	4.8日	69.6%

《専門的処置件数》対象者/延べ回数or日数

CHDF	IABP	PCPS	血栓回収療法
11人/65回	16人/69日	2人/11日	25件



IV：現状と今後の展望

新病院移転後 3 年目、病棟目標も「質の高い看護が提供できる」を掲げ 3 年目と節目の年となった。3 年間で、多職種協働で病床運営に取り組んだ結果、患者数、稼働率、ICU単価とも上昇し、効果的な病床運営ができた。看護では、1 年目に勉強会チーム（心臓、脳、栄養・代謝、呼吸器・早期離床）で専門性の向上。2 年目に看護の質の向上と標準化をはかるべく、16項目に分けた疾患別チェックリストを作成し、定着化。3 年目となる今年度は、得た知識・技術を日々の看護に活用し、毎月症例検討を実施した。その結果、アクシデント 3b事例は 0 件となり、安全で、質の高い医療（看護）の提供に繋げることができた。また、今年度から救急センターの立ち上げ、ER・ICUの一元化と大きなプロジェクトが開始されたため、引き続き、病棟全体で知識・技術の向上をはかり、地域から信頼される質の高い医療（看護）の提供ができるように努めていく。

地域貢献推進担当

I：構成員

リハビリテーション部 作業療法課：平井裕介
事務部 医療事務課：長友信明

II：活動

①地域交流サロン「いしまるしえ」

◇白十字病院が現在の地に新築移転する際に、地域の方々が利用できるコミュニティサロンとして建築され、健康増進や介護予防を目的とした活動を推進することを公約として掲げました。

【建物概要】

- ・竣工：2022年1月28日
- ・広さ：45 m²
- ・収容人数：約40名
- ・付帯設備：トイレ2か所、キッチン、冷蔵庫、電子レンジ、75型TVモニター、DVDデッキ、プリンター、テーブル、椅子等

【活動主旨】

- ・地域住民の健康増進・介護予防に寄与する活動を行う事。
- ・地域住民の自助・互助の精神を醸成し、その活動を支援する事。
- ・白十字会主催の健康講座等を企画・開催し、職員がそれぞれに有する専門知識・技術を地域に還元する事。

②いしまるしえ運営会議

《会議構成員》

1	平井 裕介 (事務取扱責任者)	リハビリテーション部 地域貢献推進担当	係 長
2	長友 信明	事務部 地域貢献推進担当	係 長
3	松元 潤	事務部	次 長
4	樋口 文子	看護部	課 長
5	古賀 研人	リハビリテーション部	主 任
6	眞次 亮弥	栄養管理部	副主任
7	水之江峻介	薬剤部	係 長
8	松元 俊一	在宅事業部	副主任
9	横川亜希代	事務部	副主任
10	山田 公美	事務部	広報担当
11	兼石 匠 (アドバイザー)	地域包括ケア推進本部	次 長

月に1回の頻度で、健康講座など地域住民向けに開催する催事の企画・運営を行いました。
実績を以下に記します。

【2023年度実績】

◇白十字会主催健康講座

多職種協働のもと各部門が企画立案し健康講座を開催しました。2023年度は計20の講座を企画・実施し、延べ300名以上の方にご参加いただきました。

	日付	担当部署	テーマ	参加者数	会場
1	4月18日	リハビリテーション部	春の健康チェック教室	23名	いしまるしえ
2	6月18日	在宅事業部	認知症サポーター養成講座	3名	いしまるしえ
3	6月27日	・ココカラファイン薬局 白十字病院店 ・薬剤部	骨密度&血流測定、お薬相談	22名	いしまるしえ
4	7月4日	栄養管理部	夏バテ予防は食事から～シェフと管理栄養士が教えます～	10名	いしまるしえ
5	7月19日	看護部	看護相談外来のご案内と相談会	1名	いしまるしえ
6	8月1日	リハビリテーション部	身体測定	10名	いしまるしえ
7	8月22日	レストラン部	しっかり勉強楽しくランチ	21名	いしまるしえ
8	8月29日	・ココカラファイン薬局 白十字病院店 ・薬剤部	骨密度&血流測定、お薬相談	3名	いしまるしえ
9	10月10日	リハビリテーション部	介護予防体操、自主訓練指導	8名	いしまるしえ
10	10月13日	看護部	皮膚ケア相談会	7名	いしまるしえ
11	10月24日	・ココカラファイン薬局 白十字病院店 ・薬剤部	血流測定、お薬相談	7名	いしまるしえ
12	11月10日	在宅事業部	西警察署防犯講座	12名	いしまるしえ
13	11月21日	栄養管理部	おはよう！きんに君	14名	いしまるしえ
14	12月26日	レストラン部	親子でクリスマスケーキデコレーション	22名	いしまるしえ
15	2月6日	リハビリテーション部	身体測定、運動指導	15名	いしまるしえ
16	2月24日	地域貢献推進担当	親子でサンドイッチ教室	10名	いしまるしえ
17	2月28日	看護部	脳卒中	21名	いしまるしえ
18	3月4日	・富永理事長 ・兼石次長	サロンサポーター養成研修 (1日目) ・地域活動の重要性 ・認知機能のトレーニング	44名	いきいきホール
19	3月8日	兼石次長	サロンサポーター養成研修 (2日目) ・介護予防概論 ・運動機能のトレーニング	51名	いきいきホール
20	3月15日	在宅事業部	聞こえの勉強会	17名	いしまるしえ

◇ノルディックウォーク

全日本ノルディックウォーク連盟のインストラクター資格を有するスタッフが主導して月に3～4回ほどいしまるしえをスタート地点としてノルディックウォークを実施しています。毎回平均10名ほどの参加者があり、複数人で町内をウォーキングすることで運動の機会としてはもちろん、防犯や高齢者の見守りとしても機能しています。

◇自助グループ立ち上げ支援

「いしまるしえ」を活動拠点とし、介護予防や社会参加の場として活動する地域住民主体の活動を支援する取り組みを行っています。2023年度には4つの新規グループが立ち上がりました。以下に活動中の団体を記します。

	団体名	活動内容
1	ストーンサークルcafé	交流、創作活動、出前講座
2	あゆみらいサークル	健康体操
3	幸令者の会	健康体操
4	SUNサン会	健康体操
5	若草会	太極拳
6	ほっこり会	交流、創作活動、出前講座

③サロン支援活動

地域で活動するふれあいサロン等の団体に対して、介護予防や自助・互助に対する意識の醸成、具体的活動の指導等を目的に出前講座を実施しました。

以下に2023年度の実績を記します。

	日付	担当部署	テーマ	参加者数	会場	備考
1	4月21日	地域貢献推進担当	認知症予防	21名	梅林集会所	お手玉会
2	5月16日	ココカラファイン薬局	お薬相談会	13名	長尾1丁目自治会館	長尾1丁目ふれあいサロン
3	5月16日	地域貢献推進担当	認知症予防	9名	いしまるしえ	あゆみらいサークル
4	5月18日	地域貢献推進担当	認知症予防	28名	原南集会所	原南サロン
5	5月18日	地域貢献推進担当	認知症予防	14名	宇田川原集会所	周船寺校区自治協
6	5月31日	地域貢献推進担当	身体測定	19名	石丸1丁目集会所	ちょぼらの会
7	6月12日	地域貢献推進担当	糖尿病について	19名	十郎川集会所	ことぶき会
8	6月13日	地域貢献推進担当	認知症予防	27名	原西公民館	原西おしゃべりサロン
9	6月16日	地域貢献推進担当	認知症サポーター養成講座	38名	社会福祉法人グリーンコープ	グリーンコープ職員
10	6月22日	地域貢献推進担当	よかトレ	26名	女原集会所	女原ふれあいサロン
11	7月21日	栄養管理部	夏バテ予防・脱水症	35名	下山門公民館	下山門大学
12	7月21日	地域貢献推進担当	石丸1丁目集会所特別講演	25名	石丸1丁目集会所	石丸1丁目町内会
13	8月8日	地域貢献推進担当	認知症サポーター養成講座	21名	ウィズインターンスクール	職業訓練生（介護職）
14	9月5日	地域貢献推進担当	コグニサイズ	8名	石丸1丁目集会所	石丸1丁目新規体操グループ

	日付	担当部署	テーマ	参加者数	会場	備考
15	9月8日	地域貢献推進担当	認知症予防	45名	あごら	糸島市社協 サロン訪問 ボランティア 研修会
16	9月15日	地域貢献推進担当	いきいき 百歳体操	10名	石丸公民館	ぷらっとカフェ
17	9月20日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	コグニサイズ	8名	西区地域保健 福祉センター	西区オレンジ フェスタ
18	9月23日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	認知症啓発 イベント	—	木の葉モール	西区RUN伴+
19	9月25日	地域貢献推進担当	いきいき 百歳体操	20名	石丸公民館	ひまわり会
20	10月4日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	石丸小学校 4年生 福祉授業	—	石丸小学校	車椅子体験
21	10月11日	地域貢献推進担当	身体測定	18名	石丸1丁目 集会所	ちょぼらの会
22	10月12日	地域貢献推進担当	いきいき 百歳体操	8名	石丸1丁目 集会所	石丸1丁目 新規体操 グループ
23	10月12日	地域貢献推進担当	認知症予防	21名	城南区	サロンピッコロ
24	10月13日	地域貢献推進担当	ノルディック ウォーク	26名	今宿谷	谷ふれあい サロン
25	10月30日	地域貢献推進担当	転倒予防	16名	十郎川集会所	十郎川ふれあい サロン
26	11月4日	地域貢献推進担当	認知症 サポーター 養成講座	17名	周船寺 (怡土神社)	周船寺中町 自治会
27	11月9日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	リズム体操	7名	石丸1丁目 集会所	石丸1丁目 新規体操 グループ
28	11月9日	地域貢献推進担当	認知症 サポーター 養成講座	30名	認知症フレンド リーセンター	福岡市民
29	11月10日	地域貢献推進担当	ノルディック ウォーク	24名	石丸公民館	ぷらっと カフェカフェ
30	11月13日	地域貢献推進担当	認知症予防	25名	堤公民館	ふれあいサロン 椿
31	11月25日	地域貢献推進担当	認知症 サポーター 養成講座	28名	西市民センター	警友会 (警察OB)
32	12月5日	地域貢献推進担当	認知症 サポーター 養成講座	24名	ミレ・クリエー ション	職業訓練生 (介護職)
33	12月6日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	石丸校区 健康づくり 教室	40名	いきいきホール	石丸校区住民
34	12月8日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	クリスマス リース作成	15名	石丸公民館	ぷらっと カフェ

	日付	担当部署	テーマ	参加者数	会場	備考
35	12月11日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	認知症 サポーター 養成講座	179名	下山門中学校	1年生対象
36	12月14日	地域貢献推進担当	ノルディック ウォーク	4名	石丸1丁目 集会所	石丸1丁目 新規体操 グループ
37	12月18日	地域貢献推進担当	コグニサイズ	16名	石丸3丁目 集会所	みたらい会
38	12月20日	地域貢献推進担当	体操	17名	いしまるしえ	ストーンサークル café
39	1月11日	地域貢献推進担当	ノルディック ウォーク	4名	石丸1丁目 集会所	石丸1丁目 新規体操 グループ
40	1月12日	地域貢献推進担当	地域カフェ	15名	石丸公民館	ぷらっとカフェ
41	1月15日	地域貢献推進担当	よかトレ、 ココカラ	25名	石丸公民館	ひまわり会
42	1月16日	地域貢献推進担当	認知症予防	8名	いしまるしえ	幸令者の会
43	1月17日	地域貢献推進担当	ふれあい サロン	12名	いしまるしえ	ストーンサークル café
44	1月24日	地域貢献推進担当	健康講座 (子供向け 食育)	18名	いしまるしえ	石丸2丁目 サンドイッチ 教室
45	1月25日	地域貢献推進担当	ノルディック ウォーク	25名	大町団地集会所	おおまちサロン
46	1月29日	地域貢献推進担当	認知症予防	18名	百道浜公民館	百道浜ふれあい サロン
47	2月8日	地域貢献推進担当	体操	6名	石丸1丁目 集会所	石丸1丁目 新規体操 グループ
48	2月21日	地域貢献推進担当	ふれあい サロン	10名	いしまるしえ	ストーンサークル café
49	3月6日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	障害者 避難訓練	28名	下山門公民館	下山門校区 民生委員
50	3月14日	地域貢献推進担当	いきいき 百歳体操	8名	石丸1丁目 集会所	石丸1丁目 新規体操 グループ
51	3月19日	地域貢献推進担当	認知症予防	16名	拾六町集会所	拾六町 つばめサロン
52	3月19日	事業所ネットワーク (ろくさぼ)	認知症予防	14名	大町団地集会所	大町団地 健康カフェ
53	3月21日	地域貢献推進担当	ふれあい サロン	4名	いしまるしえ	ストーンサークル café
54	3月26日	地域貢献推進担当	ノルディック ウォーク	15名	生の松原集会所	生の松原 ふれあいサロン
55	3月28日	地域貢献推進担当	身体測定	10名	いしまるしえ	SUNサン会

Ⅲ：今後の展望

次年度は、いしまるしえの更なる活用として地域カフェの開催を計画しています。地域の方々が気軽に集え交流を図るとともに、医療・介護に関する相談受付等を行います。

地域の方々から信頼されこの地域に根差し必要とされる医療機関であるために地域住民の皆様と積極的に交流し、様々な意見を頂戴し良質な医療・介護サービスの提供につなげられるよう活動を展開して参ります。

処置チューブトラブル検討部会

Ⅰ：構成員

三戸部長、吉村課長（安全管理部）、八尋課長（看護部）、南主任（看護部）、吉岡（臨床工学部）、太田（資材課）

Ⅱ：臨床活動

【年間目標】

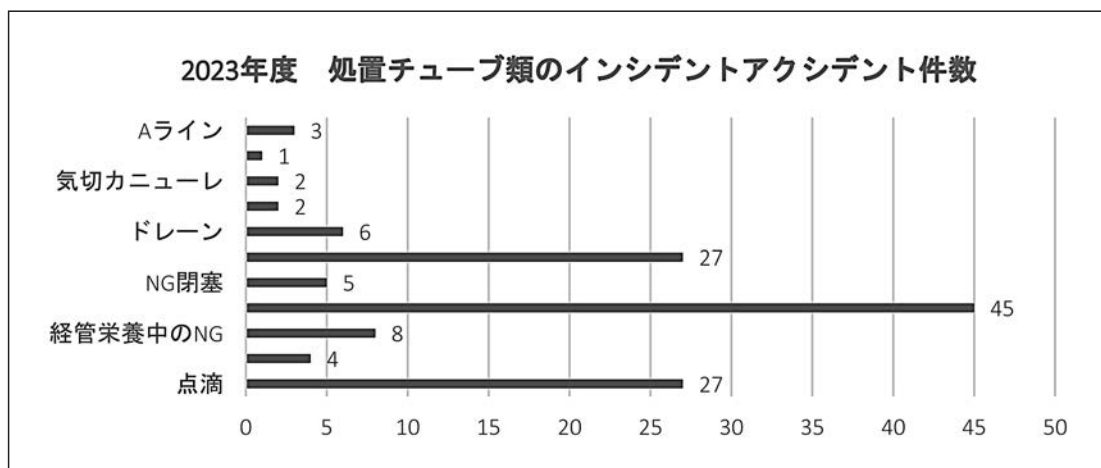
1. 処置チューブトラブルに関するアクシデントの減少（2022年度 246件）
2. 『カラーシリンジ取り扱い基準』を改訂し、適正にカラーシリンジを使用できる。

【活動内容】

1. 処置チューブトラブルに関するアクシデント事例の予防策を検討した。特に、薬剤によるNGチューブの閉塞に関して、法人内NST看護師と薬剤師とともに閉塞リスクの高い薬剤、簡易懸濁不可の薬剤について整理し、簡易懸濁のマニュアルを改訂し、看護部へアナウンスした。また、Aラインの抜去予防のため、固定方法のマニュアルを作成し、関連部署に周知した。
2. 使用頻度の低いシリンジの使用を見直し、『カラーシリンジ取り扱い基準』を改訂した。
3. 点滴やCV、PICCなど数ルートある場合や、側管から数ルートある場合の誤接続、誤投与を予防できるようマニュアルを作成し、看護部へアナウンスした。

Ⅲ：業績

処置チューブに関するインシデントアクシデント件数は、2023年度130件であった。昨年度（246件）より、減少していることから、取り組みの成果があったと考える。



Ⅳ：現状と展望

今後、新しく作成したマニュアルに準じた実践がされているか評価が必要である。

また、2024年度は、安全面や感染予防の観点から、新しい輸液セットについて検討していく予定である。

特定行為業務管理部会

事務取扱責任者：看護部次長兼ICU課長 吉野 勝也

Ⅰ：構成員

住部長（心臓血管外科）、高津部長（薬剤科）、松本次長（診療情報管理課）、
吉村課長（医療安全管理部）、伊禮（NP、心臓血管外科）、坂本・水迫（NP、ローテート）、
金城（NP、心臓血管外科）、吉野（看護部次長兼ICU課長）、
牛島（ICU主任、CNクリティカルケア）、与座（ICU、CNクリティカルケア）、
入江（5N主任、CN感染管理）

Ⅱ：臨床活動

- ・第3木曜日（3カ月毎）に定期委員会を開催し、活動方法の検討や症例報告、評価を実施した
- ・特定行為研修を修了した看護師が、安全に特定行為を実践できる場、機会を提供した
- ・院内へ、診療看護師、特定看護師の役割、活動についての広報活動を実施した
- ・システム、プロトコルの新設、見直しを実施した

Ⅲ：業績

- ・NP、特定行為研修修了者含めての特定行為実施件数は1500件超とタスクシフトに貢献した
- ・実施した特定行為において有害事象はなかった
- ・実施した特定行為の症例検討を実施し、知識、技術の向上に努めた。
- ・人材確保として、関係各所への調整や支援を行い、新たに診療看護師が2名加わった。

Ⅳ：現状と展望

前年度、手順書や指示簿のシステム化を実施し、今年度は本格的に特定行為を実施していった。件数も1500件超とタスクシフト・シェアに十分貢献できたと考える。また、有害事象も発生しなかった。特定行為実施者の内訳としては、NPが圧倒的に多いが、特定行為研修修了者は病棟、主任業務と兼務となる為、実施件数が伸び悩んでいることについては致し方ないとする。安全に実施できる範囲で進めていく。部会としては、兼務の中でも特定行為が実施しやすいように支援していく。今後、看護部以外でも特定行為が開始される可能性が十分にあることやNPは副当直としての勤務も開始しており、現状の手順書では対応が不十分な面もあるため、現場に即したマニュアルとなるよう、随時改訂していく。

19. 資格取得奨励支援制度利用状況

【2023年度 資格取得奨励支援制度 申請結果（白十字病院）】

	部 門	資 格 名	申請者数	取得者数
支 援 資 格	看 護 部	AHA ACLSインストラクター	1	1
		AHA ACLSプロバイダー	9	7
		JNTEC（外傷初期看護）プロバイダー	1	1
		腎臓病療養指導士	2	2
		糖尿病療養指導士（福岡県）	1	1
		日本運動器看護学会認定運動器看護師	2	0
		認定看護管理者	1	1
		認定看護管理者教育課程（セカンドレベル研修）	1	1
		認定看護管理者教育課程（ファーストレベル研修）	3	3
	薬 剤 部	糖尿病療養指導士（福岡県）	1	1
	放 射 線 技 術 部	X線CT認定技師	1	1
		放射線機器管理士	1	1
	リハビリテーション部	呼吸療法認定士	1	1
		心臓リハビリテーション指導士	1	1
		糖尿病療養指導士（福岡県）	1	1
	栄 養 管 理 部	栄養サポートチーム専門栄養療法士	1	1
		糖尿病療養指導士（福岡県）	1	1
	臨 床 工 学 部	体外循環認定士	1	1
		第一種消化器内視鏡技師	1	0
	事 務 部	ドクターズクラーク（Dr秘書業務を担う職員のみ）	3	3
		医療情報技師（初級）	1	1
		危険物取扱者 乙種 4 類	1	0
		施設基準管理士	1	0
		電気工事士 第二種	1	0
	支 援 資 格 合 計		38	30
奨 励 資 格	看 護 部	AHA BLSヘルスケアプロバイダー	17	15
		ICLS蘇生トレーニング	6	5
		ISLS	2	1
		心電図検定 2 級	1	1
		心電図検定 3 級	3	2
	リハビリテーション部	AHA BLSヘルスケアプロバイダー	2	1
		CI療法講習会	1	1
		ボバース講習会イントロダクトリーモジュール	1	1
		心不全療養指導士	1	1
		摂食・嚥下コーディネーター	1	0
		離床プレアドバイザー	3	0
	臨床検査技術部	ICLS蘇生トレーニング	2	2
		特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1	0
	臨 床 工 学 部	ICLS蘇生トレーニング	1	1
		認定血液浄化関連臨床工学技士	1	0

	部 門	資 格 名	申請者数	取得者数
奨 励 資 格	事 務 部	サービス接遇検定（２級）	2	1
		サービス接遇検定（３級）	3	1
		パソコン検定（準２級）	1	1
		ビジネスキャリア検定（労務管理３級）	1	0
		ビジネス実務マナー検定（２級）	2	2
		ビジネス実務マナー検定（３級）	4	4
		ビジネス文書検定（１級）	2	0
		ビジネス文書検定（２級）	2	1
		ホスピタルコンシェルジュ（３級）	3	2
		医療経営士（３級）	1	0
		医療情報基礎検定	1	1
		情報処理技術者（基本情報技術者試験）	1	0
	奨 励 資 格 計			66
総 合 計			104	74

2023年度 白十字病院 年報

発行 社会医療法人財団白十字会 白十字病院
病院長 渕野 泰秀

---白十字病院 広報委員会・年報作成部会---

